# 少子化と親子関係に関する調査

- 「東京調査」第1次報告書-

# 1997年6月

研究代表者:日本家族社会学会 全国家族調査委員会委員長 渡邊 秀樹(慶應義塾大学文学部教授)

研究分担者:神原 文子(相愛大学人文学部教授)

篠崎 正美(熊本学園大学社会福祉学部教授) 畠中 宗一(大阪市立大学生活科学部助教授)

## はじめに

本章は、「少子化と親子関係に関する調査」プロジェクトによる、東京での調査結果についての第1次報告である。

東京での調査は、アジア女性フォーラムからの研究委託により、日本家族社会学会・全国 家族調査委員会(委員長 渡邊秀樹・慶應義塾大学教授)が調査主体となって実施したもの である。

今回の調査にはいくつかのねらいがある。

第1は、少子化と親子関係との関連について、東京、シンセン(中国)、シンガポールの 3都市の比較をするための東京でのデータを得ることである。そのため、現在、親となって いる男女を対象に、日常的な親と子の関わり、親であることの意識、子育て意識などについ て、3都市での比較が可能となる質問項目を設定するとともに、3都市における少子化の傾 向と「親になること」「親であること」の現状と課題とについて検討することをねらいとす る。

第2は、全国家族調査委員会が中心となって取り組んでいる、全国規模の確率標本による 家族の総合的調査の実施に向けて、予備調査の一貫として位置づけるものである。

全国家族調査委員会では、1996年1月、全国家族調査の実現に向けて学会の有志による全国家族調査研究会(NFR研究会)を組織し、質問項目や調査方法を検討するにあたって、①子グループ、②配偶者グループ、③親グループ、④その他の親族グループ、⑤家族と外部社会グループ、⑥家族意識グループ、⑦戦後の家族変動を扱うグループ、および、⑧調査全体の方法論を検討するグループの8グループを編成して、原案作成の作業をすすめてきた。

本調査では、これまで検討を加えてきた全国家族調査票案のなかから、親の立場からみた 親子関係に関する質問項目を中心に検討する。すなわち、個々人の「親」ポジションに焦点 をあてて、日常生活における親としての行動・関係・意識などに関する調査を実施し、実査 方法・質問項目などを検討することがねらいである。

なお、夫婦関係を中心とした質問項目の検討は、配偶者グループが中心となって、別のプロジェクトにおいて予備調査が実施されていることを付け加えておきたい。

ところで、今回の調査では、調査対象者を30歳以上50歳未満の男女で、6歳から15歳までの子どものいる人という条件をつけている。そのことの理由は、シンセン、シンガポールでの調査対象者が、小中学生の保護者ということで、東京での調査対象者についても、小中学生の子どものいる男女に限ったこと。また、調査対象者の年齢については、もうひとつの予備調査である夫婦関係調査と対象者の年齢層を調整し、夫婦関係調査では40歳以上60歳未満、本調査では30歳以上50歳未満としたこと。全国家族調査の予備調査としては、30歳以上50歳未満のすべての男女を母集団とするほうが主旨に合致するが、経費の関係で標本数が400サンプル程度と限られており、3都市での親子関係に関する比較研究にたえうるサンプル数を確保するために、30歳以上50歳未満の男女のなかで、子どもの年齢をコントロールするという方法をとったこと、による。

今回の調査は、親子関係についての予備調査としての役割を担ってはいるものの、「親」 という位置のなかで、小中学生を中心とする未成人子をもつ親に相応した質問項目が中心で あって、「親」についての限られた質問項目について予備調査をしたにすぎない。乳幼児を もつ親の立場を問う質問項目、成人子をもつ親の立場を問う質問項目、子どものいない男女の親意識を問う質問項目などの検討について、さらに予備的な検討を必要とする。

本報告書は、主題に関する第1次報告として、各質問項目の単純集計、および、性別、年齢別のクロス集計を中心に分析を行ったものである。それゆえ、主題にそった3都市間の比較検討についても、予備調査としての課題についてもさらなる検討が必要であることはいうまでもない。さらに、小規模ながら、親子関係についての代表性のあるデータとして、さらに分析をすすめることにより、現代の親子関係の一端を明らかにできるものと期待できる。

## 研究組織

研究代表者 全国家族調查委員会委員長 渡邊秀樹 (慶應義塾大学文学部教授)

研究分担者 神原文子(相愛大学人文学部教授)

篠崎正美 (熊本学園大学社会福祉学部教授)

畠中宗一(大阪市立大学生活科学部助教授)

研究経費 270万円 (アジア女性ファーラムからの研究助成金)

# 目 次

第		章																																						• 1
1		標	本	抽	出	の	方																																	
2		対	象	者	の	限	定																																	• 1
3		実	査	方	法				•	•	•		•	•	•				•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	• 1
第	2	章	١	<b>D</b> :	答	者	の	基	本	属	性				• .	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	. 3
1			答	者	の	性	別	と	年	齢	の	構	成				•	•	•	•		•		•			•	•	•		•	•	•	•			•	 •	•	. 3
2		家	族	構	成				•	•	•	•	•		•	•				•			•	•		•	•	•	•			•			•		•	 •		. 3
3		社	会	谐.	層	的	な	属	性	_	学	歴						•		•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		•			•			•	. 6
4		社	会	谐	層	的	な	属	性		就	業	状	況	ح	職	種						•	•	•	•		•	•		•									٠ ٤
5		社																																						
6		社																																						
7		ま																																						
第	3	章	-	7	ど	<b>4</b> )	ح	の	関	b	ŋ					•																								14
1		· 子																																						14
2		П	答:	者	ح	子	سلح	ŧ,	ع																															
	a		夕																																					
	b		お																																					
	С		趣																																					
	d		勉																																					
	е		子	سع	ď,	بح	の	関	b	ŋ	に	み	る	性	别	の	違	ķ1				•																		27
3		子																																						
_																																								
		:																																						
4		子																																						
		· 子		-					-																															
		ま																																						
Ŭ		•	_																																					0 1
第	4	章	=	夫	婦	の	相	百	凮	係																														36
1		· 夫																																						
		出																																						
		子																																						
		ま																																						
-		~		_																																				U

第5	章	親	子	関	係	に	お	け	る	父	親	と	母	親	の	意	識				•	•	•	•	٠	•	•	•	•	•	٠	•	•	•	•	•	•	40
1	しつ	け	の	世	代	間	伝	達			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	40
2	子ど	'ŧ	に	対	す	る	親	の	役	割	と	し	て	大	切	な	ij	の			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	43
3	子ど	' t	を	持	ち	育	て	る	ح	と	の	意	味			•	•	•	•	•	•	•		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	44
4	生活	の	中	で	大	切	に	し	て	ķ١	る	部	分			, <b>•</b>		•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•			•	•	•	•	•	•	44
5	親子	関	係	に	つ	٧١	て	の	意	識			•			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•			•		•	•		•	•	•	•	•	45
6	子ど	`ŧJ	に	受	け	さ	せ	た	ķ١	教	育			•	•	•		•	•		•	•	•	•	•		•		•		•		•	•	•	•	•	47
7	子ど	<u>ئ</u> لا:	^	<b>の</b> :	将	来	の	援	助				•	•	•			•	•	•	•	•	•	•	•						•	•	•	•	•	•	•	48
8	多様	な	ラ	1	フ	ス	g	1	ル	の	許	容	性			•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	48
9	親子	関	係	に	関	す	る		般	的	な	意	見	^	の	賛	否			•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•		·	•	•	•	•	49
10	生活	満	足	度				•	•	•	•	•		•	•	•	•	•			•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	51
11	要約	i		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	٠	•	•	•	•	•	•	•	53
徴ん	章	子·	杏	7	<i>ው ነ</i>	松光	L.	A	閂	퇨	<u>بر</u>	了.	杏	7	++	وبد	_	۱.																				55
ж О	子育									_			H		•																							55
2	子育				•		• • •				. —		土					•		•																		57
_	1 13		•	40 (	')				至				•	- ቋ	<b>#</b> _	乙艮	月右	E																				58
1	期待	<b>*</b>	h	ス・	子													18																				58
2	子育									-	. —		•		_			笙																				60
_	1 13		•	· ,	_	,	14	ره	<i>7</i>		<u> </u>	<del>20</del> 1	14	ت	40	٠.	^J	ж																				00
むす	びに	か。	え	T				•						•			•						•	•								•			•			63
1	今後	の :	分	析	課月	題			•	•	•	•								•		•				•					•				•		•	63
2	質問	項	目	に・	つ1	<b>لا</b> لا	7	<b>の</b> :	検	討	課	題				•																						63

付録:調査票および単純集計結果

## 第1章 調査の概要

## 1 標本抽出の方法

標本抽出の方法は次のとおりである。

標本抽出数 : 400

調査対象者 : 東京23区在住の満6歳から15歳の子どもをもつ満30歳から49歳の

男女

標本抽出時期: 1996年12月

標本抽出方法: 二段比例無作為抽出法

#### 標本抽出法の実際

①東京23区を、総務庁統計局の『市町村コード一覧』の順に従って、母集団(満6~15歳)の人口(666,793人)を調査地点数(25地点)で割って抽出間隔を求め、各区に調査地点を割り当てる。抽出間隔は、26,671である。

②割り当てられた区のうち、抽出期間内に住民票の閲覧の不可能な地区については、閲覧可能な地域に振り分ける。

標本抽出を行った区と地点数は、以下のとおりである。

新宿区、台東区、墨田区、江東区、品川区、目黒区、中野区、北区、荒川区、葛飾区の各区は、1 地点抽出

大田区、世田谷区、杉並区、板橋区、練馬区、足立区の各区は2地点抽出 江戸川区は3地点抽出

③対象者の抽出については、まず、6歳から15歳の子どもだけを等間隔法によって抽出し、その親が30歳から49歳の場合に限り、調査対象者として名簿に記入した。親が29歳以下、もしくは、50歳以上の場合は、非該当として、次の子どもに移り、親が30歳から49歳の場合のみ抽出した。

## 2 対象者の限定

- ・30代、40代で、未婚の人、子どものいない人、小中学生の子どもがいない人は含まれていない。
- ・対象者の年齢を区切っているために、小学生、中学生の保護者であっても、30歳未満、50歳以上の保護者は含まれていない。

## 3 実査方法

対象者へのアプローチ : 訪問留め置き法

調査実施機関 : 新情報センター

実査時期 : 1997月1月下旬から2月上旬

回収状況 : 有効回収数 247票(回収率 61.8%)

表1-1は、性別・年齢別の、標本数、回収数および回収率を示したものである。いずれの年代においても男性の回収率は女性の回収率よりも総じて低いが、とりわけ $30\sim34$ 歳の男性の回収率が極端に低くなっている。子どもの年齢を6歳から15歳としたことから30代の男性の標本数が少なくなったのはやむをえないとしても、 $30\sim34$ 歳の男性の回収率がこれだけ低いと、データとして信憑性を欠くと言わざるをえない。

表1-1 性別・年齢別の標本数、回収数、回収率

	標本数	回収数	回収率
男 性	200	106	53.0
30~34歳	11	4	36.4
35~39歳	34	22	64.7
40~44歳	74	39	52.7
45~49歳	81	41	50.6
女性	200	141	70.5
30~34歳	20	16	80.0
35~39歳	57	47	82.5
40~44歳	70	48	68.6
45~49歳	53	30	56.6
計	400	247	61.8

## 第2章 回答者の基本属性

#### 1 回答者の性別と年齢の構成

表2-1-1は、回答者247人の性別と年齢構成の割合を示したものである(問1、問2)。 性別の割合は、男性106人(42.9%)、女性141人(57.1%)となっており、男女差がややあり、 データとしての偏りを否めない。

年齢については、回答者に実年齢で答えてもらったものを、5歳区切りで再コードしたものを集計している。

男性では、30~34歳が4人(3.8%)と極端に少なくなっているが、今日、この年代の男性の約半数が未婚であり、しかも、東京は全国の都道府県のなかでも最も平均初婚年齢が高いこともあって、たとえ既婚であっても子どもがいないか、あるいは、子どもがいても小学生以上の年齢に達した子どもがいない男性が少なくないことによるものと推測できる。男性で小中学生の子どものいる世代というのは、40代が中心のようである。

女性でも、近年の初婚年齢の上昇とそれにともなう出産年齢の上昇を反映してか、回答者のなかで、小中学生の子どものいる年齢ということ条件のもとでは、 $30\sim34$ 歳が16人 (11.3%)と少なくなっており、35歳~44歳が最も多くなっている。

男性回答者の平均年齢は、42.5歳、女性回答者の平均年齢は、40.2歳である。

年齢	男性	女性	計	
30~34歳	4( 3.8)	16(11.3)	20( 8.1)	
35~39歳	22( 20.8)	47(33.3)	69(27.9)	
40~44歳	39(36.8)	48(34.0)	87(35.2)	
45~49歳	41(38.7)	30(21.3)	71 (28.7)	
<b>ā</b> t	106(100.0)	141(100.0)	247(100.0)	
	i e			

表2-1-1 回答者の性別と年齢別分布

#### 2 家族構成

回答者の配偶関係をみると(問4)、表2-2-1のようになる。男性では、106人中105人(99.1%)が法律婚であり、また、問3の同居家族員についての質問でわかるように、いずれも配偶者と同居している。男性回答者のうち1人のみ離婚による無配偶であり、 $35\sim39$ 歳で小学校高学年の子ども1人と生活しているもようである。対象者の男性のなかで離死別による無配偶者が極端に少ないのは、近年、離婚件数のなかで子どものいる夫婦の離婚率が増加しているが、子どものいる夫婦が離婚する場合に、妻のほうが子どもを引き取るケースが多く、離婚によって父子家庭となる割合が現実に少ないことの反映であろう。しかし、

官庁統計では全世帯のなかに占める父子世帯の比率が推計で0.2%程度であることからみて、 今回の父子世帯の比率が約1%というのは、少なくない数値である。

今回の調査では、たとえ実子がいても、離婚などによって子どもと別世帯になっている男 女については、標本抽出の対象者に含まれてはいない。

女性の回答者についてみると、法律婚が131人 (92.9%)であるが、事実婚が1人 (0.7%) 含まれている。また、死別による無配偶が3人 (2.1%)、離婚による無配偶が6人 (4.3%)となっているが、全世帯のなかに占める母子世帯の比率が推計で1.2%程度であることからすると、やや高いと言えるかもしれない。

なお、今回の調査において、配偶者の年齢を問う質問項目を入れていないが、基礎データ として、入れておいたほうがよかった。

表2-2-1	回答者の	)配偶関係	:
--------	------	-------	---

性別	法律婚	事実婚	死別	離婚	計
男 性	105( 99.1)			1( 0.9)	106 (100.0)
女性	131 ( 92.9)	1(0.7)	3(2.1)	6(4.3)	141 (100.0)
計	ĺ			7(2.8)	247 (100.0)

次に、同居の家族員についてみると(問3)、表2-2-2のようになる。問3は、同居している家族員が存在するか否かを問う項目であるが、表2-2-2では、男女別に、該当する同居家族員が存在するという回答者の人数と比率を示してある。

表2-2-2 同居の家族員の有無

同居の家族員	男性	女性	≅†	
配偶者	105( 99.1)	132( 93.6)	237( 96.0)	
子ども	106(100.0)	141 (100.0)	247(100.0)	
自分自身の父親	16(15.1)	9(6.4)	25(10.1)	
自分自身の母親	16(15.1)	9(6.4)	25(10.1)	
配偶者の父親	7(6.6)	12(8.5)	19(7.7)	
配偶者の母親	10( 9.4)	16(11.3)	26(10.5)	
きょうだい	3(2.8)	2(1.4)	5(2.0)	
祖父	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
祖母	1(.9)	2(1.4)	3(1.2)	
その他の親族	1(.9)	4(2.8)	5(2.0)	
その他	0(0.0)	1(.7)	1( .4)	

男女ともに、配偶者と子ども以外に、同居家族員のいる人が非常に少なくなっている。同居親族を夫婦関係でみると、夫の親との同居が妻の親との同居よりも比率として多いが、しかし、「配偶者の母親」と同居している男性回答者が10人(9.4%)という数値は、「配偶者の母親」と同居している女性回答者が16人(11.3%)と大差なく、大都市における親族同居の双系化を示すとも解釈できて、興味深い。

表2-2-3は、同居の家族員についての回答をもとに、世帯構成をタイプ分けした分布状況である。 「二世代家族」の比率が、男性では70.8%、女性では75.2%と高くなっており、とりわけ東京における核家族率の高さを反映した数値といえる。

表2-2-3 世帯構成
-------------

世帯構成	男性	女性	計
二世代家族	75 (70.8)	106(75.2)	181(73.3)
三世代家族	30(28.3)	33(23.4)	63(25.5)
四世代家族	1(0.9)	0(0.0)	1 ( 0.4)
その他の家族	0(0.0)	2(1.4)	2(0.8)
āf	106(100.0)	141(100.0)	247(100.0)

子どもについては、ここでは、人数と性別についてのみ集計し(問5)、子どもひとりひとりの基本属性については、次章で取り上げることにする。

表2-2-4は、回答者の男女別に、男子の数、女子の数、子どもの合計数、子どもの性別の組み合わせについて示したものである。

男性と女性の回答において、男子の数についても、女子の数についても有意な差はない。 また、男子の数と女子の数の分布においても有意な差はみられない。

子どもの合計数では、圧倒的に2人が多く、男性の回答では51%あり、女性の回答では60%を超えている。次いで、3人が男性では36.8%、女性では31.2%となっている。子ども1人だけ、あるいは、4人以上という回答者は少ない。

問5で聞いているのは、現在の子ども数であって、まだ、これから子どもを持ちたい人、 持つ可能性のある人がいることも考慮しておく必要がある。この点については、問7で問う ており、のちに集計結果を示すことにする。

子どもの性別の組み合わせをみると、男性の回答と女性の回答とで、有意な差はない。とはいえ、子どもの性別が確率的に男女半々に出生し、親が子どもの性別にまったくこだわらないとするなら、子どもの性別の組み合わせは、確率的には、「男子だけ」が25%、「女子だけ」が25%、「男女ともいる」が50%となるものと予想されるが、実際には、男性の回答においても、女性の回答においても、「男子だけ」の比率が「女子だけ」の比率よりも5%程度高くなっている。これは、まったくの偶然なのか、あるいは、少数派ながら回答者の一部が、"子どものひとりは男子"にこだわった結果なのか、残念ながらここではわからない。

表2-2-4 子どもの人数と性別

子どもの人数・性別	男性	女性	計
<男子の数>			
なし	23(21.7)	31(22.0)	54(21.9)
1人	43(40.6)	60(42.6)	103(41.7)
2人	35(33.0)	40(28.4)	75(30.4)
3人	5(4.7)	9(6.4)	14(5.7)
4人	0(0.0)	1(0.7)	1 ( 0.4)
āt	106(100.0)	141 (100.0)	247(100.0)
<女子の数>			
なし	28( 26.4)	38(27.0)	66(26.7)
1人	42(39.6)	63(44.7)	105(42.5)
2人	30(28.3)	32(22.7)	62(25.1)
3人	6(5.7)	7(5.0)	13(5.3)
4人	0(0.0)	1(0.7)	1 ( 0.4)
計	106(100.0)	141 (100.0)	247(100.0)
<子どもの合計数>			
1人	10( 9.4)	9(6.4)	19(7.7)
2人	54(50.9)	85 ( 60.3)	139 ( 56.3)
3人	39(36.8)	44(31.2)	83(33.6)
4人	2(1.9)	3(2.1)	5(2.0)
5人以上	1(0.9)	0(0.0)	1 ( 0.4)
āt	106(100.0)	141 (100.0)	247(100.0)
<子どもの性別>			
男子だけ	28( 26.4)	38(27.0)	66(26.7)
女子だけ	23(21.7)	31 ( 22.0)	54(21.9)
男女いる	55(51.9)	72(51.1)	127(51.4)
計	106(100.0)	141 (100.0)	247(100.0)

# 3 社会階層的な属性-学歴

今回の調査では、社会階層的な属性を捉える項目として、回答者と回答者の配偶者とについて、学歴(問11)、就業状況(問12)、職種(問12-1)、年収(問13)、および、住居形態(問18)を聞いている。

まず、回答者と学歴についてみると、表2-3-1のとおりである。

男性の回答者においては、「大学・大学院」が55人(52.4%)と最も高く、高等学校卒程度のいわゆる中学歴は33人(31.4%)と、全体の3分の1弱にとどまり、中学校卒は2人(1.9%)と極めて少なく、この年代の全国平均よりも相当に高学歴の傾向を示している。

女性の回答者についてみると、男性回答者と同様に中学校卒は極めて少なく、高等学校卒が49人(34.8%)で最も高くなっている。ただし、高等学校卒と専修学校とを合わせたいわゆる中学歴が49.0%にたいして、高専・短大と大学・大学院とを合わせたいわゆる高学歴も49.0%となっており、女性回答者の場合も全国平均より高学歴傾向を示している。ただし、東京23区の同年代の男女の学歴構成について比較データを持ち合わせていないので、回答者の学歴構成が母集団全体と比べてどの程度の偏りのあるものなのか確かめることができない。

表2-3-	-1 🗇	答者	の学	酥

本人の学歴	男性	女性	<b>ā</b> t
 中学校	2(1.9)	3( 2.1)	5( 2.0)
高等学校	33(31.4)	49(34.8)	82(33.3)
専 <b>修</b> 学校	12(11.4)	20(14.2)	32(13.0)
高専・短大	2(1.9)	38(27.0)	40(16.3)
大学・大学院	55(52.4)	31(22.0)	86(35.0)
その他	1(1.0)	0(0.0)	1(0.4)
計	105(100.0)	141 (100.0)	246(100.0)

表2-3-2は、回答者の配偶者の学歴構成を示したものである。男性の有配偶者は、105人、女性の有配偶者は、法律婚と事実婚を合わせて132人である。以下、配偶者に関する質問項目、および、配偶関係についての質問項目については、いずれも有配偶者数を100%として、集計する。

表2-3-2 配偶者の学歴

配偶者の学歴	男性	女性	計	
中学校	3( 2.9)	7(5.4)	10(4.3)	
高等学校	38(36.5)	36(27.7)	74(31.6)	
専 <b>修</b> 学校	13(12.5)	6 (4.6)	19(8.1)	
高専・短大	30(28.8)	10(7.7)	40(17.1)	
大学・大学院	20(19.2)	71 (54.6)	91 (38.9)	
計	104(100.0)	130(100.0)	234(100.0)	
āT 	104(100.0)	130(100.0)	234(100.0)	

配偶者の学歴については、男性は妻の学歴を、女性は夫の学歴を回答したものである。それによると、男性回答者が答えた妻の学歴と女性回答者本人の学歴とがほぼ同様の傾向を示しており、また、女性回答者が答えた夫の学歴と男性回答者本人の学歴もほぼ同様の傾向を示していて、有意な差がみられない。

男性回答者のうち1人と女性回答者のうち2人は無回答であるが、許容される誤差の範囲 内とみてよいだろう。

## 4 社会階層的な属性-就業状況と職種

次に、就業状況と職種についてみてみよう。表2-4-1は、回答者の現在の就業状況について の集計結果である。

男性回答者では、無職は0人で、32人(30.2%)が自営業・自由業で働いており、74人(69.8%)が常勤もしくは非常勤の勤め人として稼働している。この数字は、大都市の男性の就業構造を反映しているとみてよいだろう。

女性回答者では、自営業・自由業が29人(20.5%)であり、常勤または非常勤の勤め人が50人(35.5%)で、内職の5人(3.5%)を合わせて、有職が84人(59.6%)を占める。無職は57人(40.4%)である。

本人の就業状況	男性	女性	ä <del>l</del>	
自営業・自由業	30( 28.3)	13( 9.2)	43(17.4)	
家族従業者	2(1.9)	16(11.3)	18(7.3)	
常勤の勤め人	73(68.9)	30(21.3)	103(41.7)	
非常勤の勤め人	1(0.9)	20(14.2)	21 (8.5)	
内職	0(0.0)	5(3.5)	5(2.0)	
無職	0(0.0)	57(40.4)	57(23.1)	
計	106(100.0)	141 (100.0)	247(100.0)	

ただし、女性の回答者について、年齢別に就業状況をみてみると、表2-4-2のように、無職者の比率が、35~39歳の年齢層において55.3%となっており、30~34歳の37.5%よりもかなり高い数値を示している。既成の女性の年齢別労働力率に関するデータや年齢別パート就労率に関するデータをみると、いずれも30代後半から増加しているが、それらのデータと比べて今回の女性回答者の就労傾向はやや異なっている。とはいえ、その理由については、あきらかにできない。

表2-4-3は、回答者の配偶者の就業状況を示したものである。男性回答者の妻の就業状況は、 有職が58人(55.2%)で、無職が47人(44.8%)であり、女性回答者のそれよりも無職の比率が幾分高くなっている。女性回答者の夫の就業状況では、自営業・自由業が31人(23.8 %)で、勤め人が99人 (76.2%)となっており、男性回答者のそれよりも勤め人の比率がやや 高くなっている。

表2-4-2 女性回答者の年齢別にみた就業状況

女性の年齢	自営業・ 自由業	家族従業者	常勤の勤め人	非常勤の勤め人	内職	無職計
30~34歳	2(12.5)	1(6.3)	2(12.5)	4(25.0)	1(6.3)	16( 37.5) 16(100.0
35~39歳	1(2.1)	6(12.8)	9(19.1)	3(6.4)	2(4.3)	26( 55.3) 47(100.0
40~44歳	4(8.3)	4(8.3)	13( 27.1)	9(18.8)	2(4.2)	16( 33.3) 48(100.0
45~49歳	6(20.0)	5(16.7)	6(20.0)	4(13.3)	0( 0.0)	9(30.0) 30(100.0
計	13( 9.2)	16(11.3)	30(21.3)	20 ( 14.2)	5(3.5)	57( 40.4)141(100.0

表2-4-3 配偶者の就業状況

配偶者の就業状況	男性	女性	<u>‡</u> †	
自営業・自由業	7(6.7)	28( 21.5)	35(14.9)	
家族従業者	14(13.3)	3(2.3)	17(7.2)	
常勤の勤め人	20(19.0)	99(76.2)	119(50.6)	
非常勤の勤め人	17(16.2)	0(0.0)	17(7.2)	
無職	47(44.8)	0(0.0)	47(20.0)	
計	105(100.0)	130(100.0)	235(100.0)	

表2-4-4は、回答者のうち有職者について、それぞれの職種の割合を集計したものである。 男性回答者106人 (100.0%)が有職であり、女性回答者のうち84人(59.6%)が有職であり、これらの数値を100%として集計している。

表2-4-4によると、男性回答者においては、管理職が32人(30.2%)、専門・技術職20人(18.9%)というように、回答者の高学歴率の高さとも相応して、社会的評価の高い職種の比率が相対的に高くなっている。女性回答者においても、事務職24人(28.9%)、専門・技術職18人(21.7%)というようにホワイトカラー職の比率が高くなっている。

また、表2-4-5は、配偶者のうち有職者について、それぞれの職種の割合を集計したものである。男性回答者の妻のうち58人が有職であり、女性回答者の夫の全員(141人)が有職であり、表2-4-5では、これら有職者の人数を100%として集計している。

表2-4-5と表2-4-4とを比較してみると、男性回答者の妻における職種の割合と女性回答者の職種の割合とが非常に似通っており、また、女性回答者の夫における職種の割合と男性回答者の職種の割合も非常に似通っていることがわかる。

ただし、有職者の配偶者の職種については、男性回答者のうち2人(3.4%)、女性回答者のうち5人(3.8%)が無回答である。

表2-4-4 回答者の職種

本人の職種	男性	女性	計	
専門・技術職	20( 18.9)	18( 21.7)	38( 20.1)	
管理職	32(30.2)	4(4.8)	36(19.0)	
事務職	8(7.5)	24(28.9)	32(16.9)	
販売職	14(13.2)	17(20.5)	31(16.4)	
サービス職	10( 9.4)	5(6.0)	15(7.9)	
技能労働	20(18.9)	4(4.8)	24(12.7)	
その他	2(1.9)	11(13.3)	13(6.9)	
計	106(100.0)	83(100.0)	189(100.0)	

表2-4-5 配偶者の職種

配偶者の職種	男性	女性	計
専門・技術職	14( 25.0)	24( 18.9)	38( 20.8)
管理職	1(1.8)	37(29.1)	38(20.8)
事務職	16(28.6)	16(12.6)	32(17.5)
販売職	10(17.9)	11(8.7)	21(11.5)
サービス職	6(10.7)	10(7.9)	16(8.7)
保安職	0(0.0)	2(1.6)	2(1.1)
技能労働	6(10.7)	22(17.3)	28(15.3)
一般作業員	0(0.0)	2(1.6)	2(1.1)
その他	3(5.4)	3(2.4)	6(3.3)
計	56(100.0)	127(100.0)	183(100.0)

## 5 社会階層的属性一年収

次に、年収についてみてみよう。表2-5-1は、回答者の年収の分布を示したものである。 男性回答者の年収では、最頻値が「 $600\sim800$ 万円未満」で、全体の27.2%を占めている。しかし、1000万円以上が、20人(19.4%)と高い比率を示している。

女性回答者の年収では、「収入なし」が46人(36.5%)であるが、このうち無職は45人であり、1人は販売職に就いている有職者である。実際には、女性の無職は57人(40.4%)いる

が、このうち11人が年収について回答していないのである。調査票では、年収を問う質問項目のうえに、【全員のかたにおうかがいします。】という注意書きをしておいたが、見落とされてしまったのかもしれない。留め置き調査では、回答者が回答すべき質問項目に誤解のないようにすべて回答できるように、より一層の工夫が必要のようである。

女性の有職者84人のなかでは、100万円未満が31人(36.9%)で、就業状況のうち、「家族従業者」「非常勤の勤め人」「内職」では、おおよそ6割が100万円未満である。

表2-5-1 回答者の年収

本人の年収	男性	女性	計
なし	0( 0.0)	46(36.5)	46( 20.1)
50万円未満	0(0.0)	13(10.3)	13(5.7)
50~100万円未満	0(0.0)	18(14.3)	18(7.9)
100~200万円未満	3(2.9)	10(7.9)	13(5.7)
200~400万円未満	12(11.7)	13(10.3)	25(10.9)
400~600万円未満	22(21.4)	14(11.1)	36(15.7)
600~800万円未満	28(27.2)	3(2.4)	31 (13.5)
800~1,000万円未	14(13.6)	1(0.8)	15(6.6)
1,000~1,200万円	10(9.7)	1(0.8)	11(4.8)
1,200~1,400万円	4(3.9)	1(0.8)	5(2.2)
1,400~1,600万円	3(2.9)	0(0.0)	3(1.3)
1,600~1,800万円	1(1.0)	0(0.0)	1 ( 0.4)
2,000万円以上	2(1.9)	2(1.6)	4(1.7)
わからない	4(3.9)	4(3.2)	8(3.5)
計	103(100.0)	126(100.0)	229(100.0)

表2-5-2は、回答者による配偶者の年収を集計したものである。男性回答者の妻の年収は、 女性回答者の年収よりも100万円未満の比率が低くなっている。また、女性回答者の配偶者の 年収も、男性回答者の年収より最頻値が「400~600万円未満」とやや低く、1000万円以上の 比率も15.6%と低くなっている。

しかし、表2-5-1と表2-5-2をもとに、男性回答者と女性回答者の夫の年収を比較したり、女性回答者と男性回答者の妻の年収を比較することは差し控えたほうがよいだろう。というのは、配偶者の年収については、男性の11人 (11.3%)が無回答であり、「わからない」という回答も3人 (3.2%)おり、また、女性の7人 (5.3%)が無回答であり、「わからない」という回答が6人 (4.5%)となっており、数値として無視できないからである。

女性の無職者において、自分の年収についての無回答が多かったのと同様に、妻の年収について無回答である男性11人のうち、妻が無職者は9人を占め、妻が無職であれば年収について回答する必要がないと、判断されたのかもしれない。調査票作成における課題である。

表2-5-2 配偶者の年収

配偶者の年収	男性	女性	<del>ā†</del>
なし	38(40.9)	0( 0.0)	38(17.4)
50万円未満	7(7.5)	1(0.8)	8(3.7)
50~100万円未満	12(12.9)	1(0.8)	13(6.0)
100~200万円未満	10(10.8)	1(0.8)	11(5.0)
200~400万円未満	8(8.6)	8(6.4)	16(7.3)
400~600万円未満	11(11.8)	37(29.6)	48(22.0)
600~800万円未満	4(4.3)	34(27.2)	38(17.4)
800~1,000万円未	0(0.0)	20(16.0)	20(9.2)
1,000~1,200万円	0(0.0)	5(4.0)	5(2.3)
1,200~1,400万円	0(0.0)	5(4.0)	5(2.3)
1,400~1,600万円	0(0.0)	5(4.0)	5(2.3)
2,000万円以上	0(0.0)	2(1.6)	2(0.9)
わからない	3(3.2)	6(4.8)	9(4.1)
計	93(100.0)	125(100.0)	218(100.0)

## 6 社会階層的属性-住居形態

表2-6-1は、回答者の住居形態のタイプについて集計したものである。

居住形態の回答では、男性と女性との間に有意な差はない。表でわかるように、男女とも、「持ち家・一戸建て」の比率が最も高く、「持ち家・集合住宅」の比率がこれに次ぐ。持ち家の比率が、男女合わせて175人(71.2%)を占め、これは、東京における持ち家率が50%程度であることからすると、相当に高い。

表2-6-1 住居形態

住 居	男性	女性	計	*
持ち家・一戸建て	51(48.6)	66(46.8)	117( 47.6)	
持ち家・集合住宅	26(24.8)	32(22.7)	58(23.6)	
公営の賃貸住宅	6(5.7)	7(5.0)	13(5.3)	
民間の賃貸住宅	14(13.3)	24(17.0)	38(15.4)	
給与住宅	5(4.8)	9(6.4)	14(5.7)	
その他	3(2.9)	3(2.1)	6(2.4)	
計	105(100.0)	141 (100.0)	246(100.0)	

#### 7 まとめ

回答者の基本属性について集計した結果、いくつかのデータの偏りや質問項目などに関していくつか問題点を指摘できる。

- (1) まず、今回の調査では、有効回収率が61.2%とやや低く、特に男性の標本数が少なかったのであるが、社会階層的属性の学歴、職種、年収、住居形態などの分布において、かなり上方への偏りが見受けられることである。学歴、職種についての男性回答者と女性回答者の夫、女性回答者と男性回答者の妻の比較では、有意な差は見られないし、住居形態についても、男女の回答に有意な差はなく、回答者の男女の所属する社会階層については、偏りがないと判断してよいだろう。それだけに、調査対象者400人のなかで、比較的階層の高い人びとが調査に協力したのではないかと推測される。本調査においては、回答者に生じうる階層的な偏りを、標本抽出や対象者へのアプローチにおいていかに小さくするかが課題となる。以下の分析においては、社会階層の比較的高い親を中心とした親子関係データであることを念頭においておく必要がある。
- (2) 質問項目については、配偶者の年齢を問うていないために、男性回答者と女性回答者の夫の比較、女性回答者と男性回答者の妻の比較をするうえで、両者の年齢をコントロールした比較ができないこと、また、回答者本人と配偶者の年収についての質問項目を用意したが、家計収入についての質問項目を入れていなかったために、家族としての所得水準をつかみがたいという点などを、問題点として指摘できる。
- (3) 回答者に、配偶者の学歴、就業形態、職種、年収などについて、回答してもらったが、無回答や「わからない」という回答者が少なくなく、データとしての誤差を生じうる。この点については、本調査における質問項目作成における課題である。
- (4) 回答者の年齢構成において、30~34歳が男女ともに少ないという偏りについては、すでに述べたようなやむをえない事情があったにせよ、「親」というポジションについての男女の実態と意識を問う調査では、子どもの年齢を標本抽出の条件に加えないほうが望ましいといえるだろう。

(神原 文子)

## 第3章 子どもとの関わり

今回の調査では、回答者の子どもとの関わり方や子育て意識などを明らかにするために、子どもの基本属性のみならず、日常的な子どもとの関わりについても、子どもを特定しないですべての子どもについて情報を得ることを原則としている。そのことの意図は、親としての子どもとの関わり方や子育て意識が、回答者の基本属性と関連があることは言うにおよばず、ひとりの親としてみても、子どもの年齢、性別、出生順位などによって異なることが予想され、いずれかの子どもを特定したのでは、これらの違いを十分に分析することができないからである。しかも、親子関係に関する既成の実証研究において、親の立場から、すべての子どもに関する情報を得るといった調査は皆無に等しいことも理由である。親の立場から、すべての子どもについての情報を得るという今回の調査は、今後の親子関係に関する実証研究において、いずれかの子どもを特定する時の有効な判断材料ともなるはずである。

とはいえ、今回の調査では、質問項目数の一定の制限のもとで、やむをえず第4子についてまでしか情報を得ることができなかった。しかし、幸いと言おうか、5人の子どものいる回答者は247人中1人であって、回答者のすべての子ども数571人中570人について、情報を得ることができた。

今回の調査では、第1子から第4子について個別に問う以下のような質問項目を用意した。

- ・性別、年齢、同・別居について、就学・就労状況、在学年といった基本属性(問8)
- ・子どもとの日常的な関わり(「夕食をとる」「おしゃべりを楽しむ」「趣味やスポーツをする」「勉強をみる」)の頻度(問20-1、問21-1、問22-1、問23-1)
- ・乳幼児期の子どもの保育担当者について(問20-2、問21-2、問22-2、問23-2)
- ・子どもが3歳になるまで、同室で寝ていた人について(問20-3、問21-3、問22-3、問23-3)
- ・ふだんの手伝いについて(問24)
- ・子どもの1ヶ月あたりの教育費について(問25)

#### 1 子どもの基本属性

表3-1-1は、第1子から第4子までの個々の基本属性を集計したものである。

まず、第1子から第4子まで、存在する子どもの人数をみると、第1子は、247人(10 0.0%)、第2子は、228人(92.3%)と高い比率を占めているが、第3子になると、89人(36.0%)と約3分の1に減り、さらに、第4子では、6人(2.4%)と極めて少なくなっている。とりわけ、第4子については統計的な分析は意味をなさない。

子どもの性別については、第1子の場合に男女比率に差が認められるものの、第2子、第 3子、第4子では、差はないとみてよい。

子どもの年齢分布については、標本抽出における子どもの年齢制限がデータに現れており、第1子で5歳以下の子どもは当然ながら存在しない。また、第4子の年齢についても、12  $\sim 14歳が0人であるのは偶然であるが、<math>15$ 歳以上がほぼ0人となるのも当然の結果である。

表3-1-1 子どもの基本属性

	第1子	第2子	第3子	第4子
〈存在の有無>				
いる	247(100.0)	228(92.3)	89(36.0)	6(2.4)
いない	0(0.0)	19(7.7)	158(64.0)	241( 97.6)
<b>#</b>	247(100.0)	247(100.0)	247(100.0)	247(100.0)
<子どもの性別>				
男	135(54.7)	116(50.9)	44(49.4)	3(50.0)
女	112(45.3)	112(49.1)	45(50.6)	3(50.0)
<del>ā </del>	247(100.0)	228(100.0)	89(100.0)	6(100.0)
<子どもの年齢>				• • • • • • • • • • • • • • • • • • •
0~2歳	0(0.0)	5(2.2)	16(18.0)	1(16.7)
3~5歳	0( 0.0)	37(16.2)	16(18.0)	2(33.3)
6~8歳	36(14.6)	47(20.6)	18(20.2)	2(33.3)
9~11歳	61(24.7)	57(25.0)	22(24.7)	1(16.7)
12~14歳	63(25.5)	51(22.4)	14(15.7)	0( 0.0)
15~17歳	52(21.1)	21 ( 9.2)	2(2.2)	0(0.0)
18歳以上	35(14.2)	10(4.4)	1(1.1)	0(0.0)
計	247(100.0)	228(100.0)	89(100.0)	6(100.0)
<子どもの同・別局	弓>			
同居。	241(97.6)	227(99.6)	89(100.0)	6(100.0)
別居	6(2.4)	1(0.4)	0(0.0)	0(0.0)
計	247(100.0)	228(100.0)	89(100.0)	6(100.0)
<子どもの就学・記	<b>尤労&gt;</b>			
未就学	0(0.0)	47(20.6)	40(44.9)	4(66.7)
小学校	112(45.3)	112(49.1)	36(40.4)	2(33.3)
中学校	61(24.7)	50(21.9)	12(13.5)	0( 0.0)
高等学校	45(18.2)	12(5.3)	1(1.1)	0( 0.0)
高専・短大	3(1.2)	1 ( 0.4)	0( 0.0)	0( 0.0)
大学・大学院	14( 5.7)	2( 0.9)	0( 0.0)	0( 0.0)
学卒有職	10(4.0)	3(1.3)	0( 0.0)	0( 0.0)
学卒無職	2(0.8)	1 ( 0.4)	0( 0.0)	0( 0.0)
<b>ā</b> +	247(100.0)	228(100.0)	89(100.0)	6(100.0)

第1子から第4子までの平均年齢を求めると、第1子は13.0歳、第2子は9.9歳、第3子は7.3歳、第4子は5.2歳となっている。

子どもの同・別居状況をみると、第1子では6人、第2子では1人が別居で、他の子どもはすべて回答者と同居している。回答者と別居しているこれら7人の子どもたちの就学・就労状況をみると、学卒の有職者が3人、大学・大学院生が2人、高校生が2人となっている。

子どもの就学・就労状況では、第1子と第2子では、小学生の比率が最も高くなっているが、第3子、第4子では未就学が最も高い比率を占めている。小学在学年が6年、中学在学年が3年であるから、第1子、第2子で、中学生の比率が小学生の比率のおよそ2分の1というのは妥当な数値と言える。第3子の中学生の比率は小学生の比率のおよそ3分の1と少なく、第4子では中学生が0人であるのは、第1子、第2子よりも第3子、第4子の年齢が低くなることと合わせて、回答者数の少なさも影響していると考えられる。

なお、調査項目では、就学している子どもの在学年を問うているが、データ・コードが、 小学1年、中学1年、高校1年、大学1年が、すべて「1」年となっており、在学年につい て単純に集計しても意味をなさず、また、データとして活用できるように再コードするのも 煩雑であったので、在学年についての質問は、今回の分析には使っていない。

表3-1-2は、回答者の年齢別・性別と子どもの年齢との関係をみたものである。

表3-1-2 回答者の年齢と子どもの年齢

男性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
<第1子年齢>					
6~8歳	4(100.0)	5(22.7)	4(10.3)	2(4.9)	15(14.2)
9~11歳	0( 0.0)	11 ( 50.0)	10(25.6)	5(12.2)	26(24.5)
12~14歳	0( 0.0)	4(18.2)	11(28.2)	11(26.8)	26(24.5)
15~17歳	0( 0.0)	2(9.1)	11(28.2)	13(31.7)	26(24.5)
18歳以上	0(0.0)	0(0.0)	3(7.7)	10(24.4)	13(12.3)
āt	4(100.0)	22(100.0)	39(100.0)	41 (100.0)	106 (100.0)
	T				
女 性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
<第1子年齢>					
6~8歳	7(43.8)	12(25.5)	1(2.1)	1(3.3)	21(14.9)
9~11歳	9(56.3)	15(31.9)	9(18.8)	2(6.7)	35(24.8)
12~14歳	0(0.0)	15(31.9)	17(35.4)	5(16.7)	37(26.2)
15~17歳	0( 0.0)	5(10.6)	17(35.4)	4(13.3)	26(18.4)
	0( 0 0)	$\Omega ( \Omega \Omega)$	4(8.3)	18(60.0)	22(15.6)
18歳以上	0( 0.0)	U ( U. U)	4 ( 0.0)	10 ( 00.0)	( 10.0)

	T				
男性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
<第2子年齢>					
3~5歳	4(100.0)	3(17.6)	7(20.0)	3(7.5)	17( 17.7)
6~8歳	0(0.0)	9(52.9)	6(17.1)	5(12.5)	20( 20.8)
9~11歳	0(0.0)	2(11.8)	11(31.4)	12(30.0)	25 ( 26.0)
12~14歳	0(0.0)	3(17.6)	9(25.7)	13(32.5)	25 ( 26.0)
15~17歳	0(0.0)	0( 0.0)	2(5.7)	4(10.0)	6 ( 6.3)
18歳以上	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	3(7.5)	3(3.1)
<del>=====================================</del>	4(100.0)	17(100.0)	35(100.0)	40(100.0)	96 (100. 0)
女 性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
<第2子年齢>					
0~3歳	1(6.7)	4(8.9)	0(0.0)	0(0.0)	5(3.8)
3~5歳	8(53.3)	9(20.0)	3(6.5)	0(0.0)	20(15.2)
6~8歳	4(26.7)	13(28.9)	8(17.4)	2(7.7)	27( 20.5)
9~11歳	2(13.3)	16(35.6)	12( 26.1)	2(7.7)	32(24.2)
12~14歳	0(0.0)	2(4.4)	17(37.0)	7(26.9)	26 ( 19. 7)
15~17歳	0(0.0)	1(2.2)	5(10.9)	9(34.6)	15(11.4)
18歳以上	0(0.0)	0(0.0)	1(2.2)	6(23.1)	7(5.3)
計 	15(100.0)	45 (100.0)	46(100.0)	26(100.0)	132 (100. 0)
男性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
<第3子年齢>					
0~3歳	2(66.7)	3(30.0)	4(26.7)	1 (7.1)	10(23.8)
3~5歳	1 ( 33.3)	3(30.0)	1 (6.7)	1 (7.1)	6(14.3)
6~8歳	0( 0.0)	3(30.0)	5(33.3)	3(21.4)	11(26.2)
9~11歳	0(0.0)	1(10.0)	4(26.7)	5(35.7)	10(23.8)
12~14歳	0(0.0)	0(0.0)	1 (6.7)	4(28.6)	5(11.9)
計	3 (100.0)	10(100.0)	15(100.0)	14(100.0)	42 (100.0)
	J				

女 性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
<第3子年齢>					
0~3歳	2(100.0)	3(21.4)	1(5.9)	0(0.0)	6(12.8)
3~5歳	0(0.0)	8(57.1)	2(11.8)	0(0.0)	10(21.3)
6~8歳	0(0.0)	3(21.4)	2(11.8)	2(14.3)	7(14.9)
9~11歳	0(0.0)	0(0.0)	7(41.2)	5(35.7)	12(25.5)
12~14歳	0(0.0)	0(0.0)	4(23.5)	5(35.7)	9(19.1)
15~17歳	0(0.0)	0(0.0)	1 ( 5.9)	1 (7.1)	2(4.3)
18歳以上	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1 (7.1)	1(2.1)
計	2(100.0)	14(100.0)	17(100.0)	14(100.0)	47 (100.0)

男性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計
<第4子年齢>					
0~3歳	1 ( 50.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(33.3)
3~5歳	1 ( 50.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(33.3)
6~8歳	0(0.0)	1(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(33.3)
<b>ā</b> †	2(100.0)	1(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)

女性	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	計 
<第4子年齢> 3~5歳 6~8歳 9~11歳 計	0( 0.0) 0( 0.0) 0( 0.0) 0( 0.0)	1 (100.0) 0 ( 0.0) 0 ( 0.0) 1 (100.0)	0( 0.0) 1(100.0) 0( 0.0) 1(100.0)	0( 0.0) 0( 0.0) 1(100.0) 1(100.0)	1 ( 33.3) 1 ( 33.3) 1 ( 33.3) 3 (100.0)

男性の $30\sim34$ 歳では、第1子が全員 $6\sim8$ 歳の小学校低学年であり、女性の $30\sim34$ 歳では、第1子が全員 $6\sim11$ 歳の小学生である。また、男女とも、 $35\sim39$ 歳では、18歳以上の子どもはいない。

男女ともに、40代の第2子の子どもの年齢をみると、3歳から18歳以上まで非常に分散しており、回答者の世代における子どもを持つ年齢の拡散化と言えるかもしれない。女性回答者においては、35歳以上の出産率が低くなく、出産年齢の高年齢化を読みとることができる。

標本抽出で子どもの年齢をコントロールしなければ、第1子についてもさらに拡散化が認められるものと推定される。

回答者に、第1子と末子が出生した時の年齢を問うと、親になる年齢の拡散化や出産年齢 の高年齢化について、より正確な判断ができただろう。

#### 2 回答者と子どもとの日ごろの関わり

回答者と子どもとの日ごろの関わりについて、既述のように、「夕食をとる」「おしゃべりを楽しむ」「趣味やスポーツをする」「勉強をみる」という4項目を用意し、第1子から第4子までの子どもひとりひとりについて回答を求めた。

しかし、これらの回答を、子どもの出生順位に単純集計してもほとんど意味をなさない。 前節でみたように、第1子から第4子まで、いずれの出生順位の子どもでも、その年齢幅が 大きいことによる。また、子どもとの日ごろの関わりかたは、男性と女性とでも傾向が異な ることが充分に予想される。さらに言えば、同年齢の子どもであっても、回答者の性別と子 どもの性別との組み合わせによっても関わり方が異なることも予想される。

そこで、ここでは、第1子から第3子について、回答者の性別と子どもの年齢とをクロスして、日ごろの関わり方の頻度を集計することにした。

表3-2-1から表3-2-3は、回答者が、子どもと「夕食をとる」頻度を集計したものであり、表3-2-4から表3-2-6は、子どもと「おしゃべりを楽しむ」を示したものである。また、表3-2-7から表3-2-9は、子どもと「趣味やスポーツをする」頻度の集計であり、表3-2-10から表3-2-12は、子どもの「勉強をみる」頻度を示したものである。

今回は詳細な分析をする余裕はないので、おおよその傾向だけを捉えておきたい。

### a 夕食をともにすること

男性が子どもと夕食をとる回数は、出生順位によって異なるというよりも、子どもの年齢によって異なる。興味深いことに、第1子から第3子まで、子どもの年齢が12~14歳において、男性が子どもと「毎日」夕食をとる比率が最も高くなっており、5歳以下の子どもと「毎日」夕食をとる比率はむしろ低い。しかし、子どもの年齢によって、一緒に夕食をとる回数が大きく変化するという傾向はなく、男性の3割が「毎日」、4割が「週2.3回」、2割が「週1回くらい」となっており、男性の9割が、週1回以上子どもと夕食をとっているもようである。

女性が子どもと夕食をとる回数も、出生順位によって異なるというよりも、子どもの年齢によって異なるようである。女性の場合、子どもの年齢が14歳くらいまでは、9割程度が「毎日」子どもと夕食をとっているが、子どもが15歳以上あたりから、夕食をともにする回数が減る傾向にあり、子どもが18歳以上になると、「毎日」夕食をともにするのは3割程度であり、男性と同じくらいになっている。

ところで、男性と9歳以上の子どもが夕食をともにするのが「週1回くらい」というのは、 家族の夕食に父親がいない場合だけでなく、子どもがいない場合も多くなることによるのだ ろう。しかし、母親と子どもとでは、18歳以上は別として、夕食をともにする回数が少な くないのは、母親が子どもの生活時間に合わせて夕食をとっているからではないだろうか。

表3-2-1 第1子と夕食をとる

第1子と夕食を	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
とる		回	5N	回くらい	ない	
<男性>						
6~8歳	4(26.7)	11(73.3)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	15(100.0)
9~11歳	5(19.2)	13( 50.0)	4(15.4)	2(7.7)	2(7.7)	26(100.0)
12~14歳	11 ( 42.3)	7(26.9)	8(30.8)	0( 0.0)	0(0.0)	26(100.0)
15~17歳	9(34.6)	7(26.9)	7(26.9)	0( 0.0)	3(11.5)	26(100.0)
18歳以上	4(36.4)	4(36.4)	2(18.2)	1(9.1)	0(0.0)	11 (100.0)
āt	33(31.7)	42(40.4)	21 ( 20.2)	3(2.9)	5(4.8)	104(100.0)
<女性>						
6~8歳	20 ( 95.2)	0( 0.0)	1 ( 4.8)	0( 0.0)	0(0.0)	21 (100.0)
9~11歳	30 (88.2)	4(11.8)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	34(100.0)
12~14歳	36(97.3)	0(0.0)	1(2.7)	0( 0.0)	0( 0.0)	37(100.0)
15~17歳	17(65.4)	8(30.8)	0( 0.0)	0(0.0)	1(3.8)	26(100.0)
18歳以上	7(33.3)	9(42.9)	2(9.5)	1(4.8)	2(9.5)	21 (100.0)
計	110(79.1)	21 ( 15.1)	4(2.9)	1(0.7)	3(2.2)	139(100.0)

表3-2-2 第2子と夕食をとる

第2子と夕食を	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
とる		П	5N	回くらい	ない	
<男性>						
3~5歳	1( 5.9)	13(76.5)	0(0.0)	2(11.8)	1(5.9)	17(100.0)
6~8歳	5(25.0)	10(50.0)	4(20.0)	0(0.0)	1 ( 5.0)	20(100.0)
9~11歳	9(36.0)	7(28.0)	8(32.0)	0(0.0)	1(4.0)	25 (100.0)
12~14歳	13( 52.0)	8(32.0)	3(12.0)	1(4.0)	0(0.0)	25(100.0)
15~17歳	1(16.7)	4(66.7)	0(0.0)	1(16.7)	0(0.0)	6(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	2(66.7)	1 ( 33.3)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)
計	29 ( 30. 2)	44(45.8)	16(16.7)	4(4.2)	3(3.1)	96(100.0)
<<女性>					=	
0~3歳	4(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	4(100.0)
3~5歳	18( 90.0)	1(5.0)	1(5.0)	0(0.0)	0(0.0)	20(100.0)
6~8歳	27(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	27(100.0)
9~11歳	29( 90.6)	2(6.3)	1(3.1)	0(0.0)	0(0.0)	32 (100. 0)
12~14歳	23(88.5)	3(11.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	26(100.0)
15~17歳	12( 80.0)	3(20.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	15 (100.0)
18歳以上	3(42.9)	3(42.9)	1(14.3)	0(0.0)	0( 0.0)	7(100.0)
計	116(88.5)	12( 9.2)	3(2.3)	0(0.0)	0(0.0)	131 (100. 0)

表3-2-3 第3子と夕食をとる

第3子と夕食を	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
とる		П	5 W	回くらい	ない	
<男性>						
0~3歳	2(20.0)	6(60.0)	0(0.0)	1(10.0)	1(10.0)	10(100.0)
3~5歳	0( 0.0)	3(50.0)	3(50.0)	0( 0.0)	0(0.0)	6(100.0)
6~8歳	3(27.3)	8(72.7)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	11 (100.0)
9~11歳	5(50.0)	3(30.0)	1(10.0)	0(0.0)	1(10.0)	10(100.0)
12~14歳	4(80.0)	0(0.0)	1(20.0)	0( 0.0)	0(0.0)	5(100.0)
āt	14(33.3)	20(47.6)	5(11.9)	1(2.4)	2(4.8)	42 (100.0)
<女性>						
0~3歳	5(83.3)	1(16.7)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	6(100.0)
3~5歳	10(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	10(100.0)
6~8歳	7(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(100.0)
9~11歳	11(91.7)	1(8.3)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	12(100.0)
12~14歳	9(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	9(100.0)
15~17歳	2(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	2(100.0)
18歳以上	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1 (100.0)	1(100.0)
āt	44(93.6)	3(6.4)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	47 (100.0)

## b おしゃべりを楽しむこと

回答者が子どもと「おしゃべりを楽しむ」回数は、「夕食をとる」回数と同様に、男女とも子どもの出生順位による差はあまりみられず、子どもの年齢によって異なるようである。

男性が子どもとおしゃべりを楽しむ回数は、「毎日」が3割程度、「週2・3回」が4割程度、「週1回くらい」が2割程度で、この数値だけをみると、夕食をとる回数と差はない。しかし、おしゃべりを楽しむ回数は、小中学生の子どもの場合が最も多く、それ以上の年齢の子どもとではかなり少なくなり、15歳以上の子どもとは、「めったにない」男性が3割程度もいる。また、男性が5歳未満の子どもとおしゃべりを楽しむ回数も、小中学生の子どもに比べて少ない。

女性の場合は、子どもが低年齢ほど、毎日おしゃべりを楽しんでいる割合が高く、5歳以下の子どもとでは、9割程度になっている。反対に、子どもの年齢が高くなるほど、「毎日」おしゃべりを楽しむという割合は少なくなり、18歳以上の子どもとでは3割程度にまで下がっている。それでも、子どもとおしゃべりを楽しむ回数が、「週2・3回」以上の女性は全体の9割程度になり、「めったにない」という女性はごく少数である。

表3-2-4 第1子とおしゃべりを楽しむ

第1子とおしゃ	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
べりを楽しむ			BN	回くらい	ない	
<男性>	)					
6~8歳	6(40.0)	9(60.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	15 (100.0)
9~11歳	8(30.8)	10(38.5)	4(15.4)	3(11.5)	1(3.8)	26(100.0)
12~14歳	10(38.5)	7(26.9)	6(23.1)	1(3.8)	2(7.7)	26(100.0)
15~17歳	4(15.4)	8(30.8)	7(26.9)	0( 0.0)	7(26.9)	26(100.0)
18歳以上	3(27.3)	1(9.1)	2(18.2)	1(9.1)	4(36.4)	11 (100.0)
計	31 (29.8)	35(33.7)	19(18.3)	5(4.8)	14(13.5)	104 (100.0)
<女性>						
6~8歳	18(85.7)	2(9.5)	1 ( 4.8)	0( 0.0)	0(0.0)	21 (100.0)
9~11歳	26(76.5)	5(14.7)	1(2.9)	1(2.9)	1(2.9)	34(100.0)
12~14歳	28(75.7)	6(16.2)	2(5.4)	1(2.7)	0(0.0)	37(100.0)
15~17歳	15(57.7)	8(30.8)	1(3.8)	0( 0.0)	2(7.7)	26(100.0)
18歳以上	7(33.3)	7(33.3)	5(23.8)	1(4.8)	1 ( 4.8)	21 (100. 0)
計	94(67.6)	28( 20.1)	10(7.2)	3(2.2)	4(2.9)	139(100.0)

表3-2-5 第2子とおしゃべりを楽しむ

第2子とおしゃ	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
べりを楽しむ		D	5 N	回くらい	ない	
<男性>				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
3~5歳	4(23.5)	10(58.8)	1(5.9)	1(5.9)	1(5.9)	17(100.0)
6~8歳	7(35.0)	8(40.0)	3(15.0)	2(10.0)	0(0.0)	20(100.0)
9~11歳	8(32.0)	9(36.0)	5(20.0)	1(4.0)	2(8.0)	25 (100.0)
12~14歳	11 ( 44. 0)	8(32.0)	2(8.0)	1(4.0)	3(12.0)	25(100.0)
15~17歳	0( 0.0)	3(50.0)	1(16.7)	0(0.0)	2(33.3)	6(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	0(0.0)	2(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)
計	30(31.6)	38(40.0)	14(14.7)	5(5.3)	8(8.4)	95 (100.0)
<女性>						
0~3歳	5(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	5(100.0)
3~5歳	17( 85.0)	2(10.0)	0(0.0)	0( 0.0)	1(5.0)	20(100.0)
6~8歳	23(85.2)	3(11.1)	1(3.7)	0(0.0)	0(0.0)	27(100.0)
9~11歳	29(90.6)	1(3.1)	1(3.1)	0(0.0)	1 ( 3.1)	32(100.0)
12~14歳	18(69.2)	7(26.9)	1(3.8)	0( 0.0)	0(0.0)	26(100.0)
15~17歳	9(60.0)	5(33.3)	1(6.7)	0(0.0)	0(0.0)	15(100.0)
18歳以上	2(28.6)	3(42.9)	1(14.3)	1(14.3)	0(0.0)	7(100.0)
計	103( 78.0)	21 ( 15.9)	5(3.8)	1(0.8)	2(1.5)	132(100.0)

表3-2-6 第3子とおしゃべりを楽しむ

第3子とおしゃ	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
べりを楽しむ			BN	回くらい	ない	
<男性>						
0~3歳	1(11.1)	4(44.4)	0(0.0)	1(11.1)	3(33.3)	9(100.0)
3~5歳	0(0.0)	6(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(100.0)
6~8歳	3(27.3)	4(36.4)	1(9.1)	1(9.1)	2(18.2)	11 (100.0)
9~11歳	3(30.0)	6(60.0)	1(10.0)	0(0.0)	0(0.0)	10(100.0)
12~14歳	1(20.0)	2(40.0)	0(0.0)	1(20.0)	1(20.0)	5(100.0)
計	8(19.5)	22(53.7)	21 ( 4.9)	3(7.3)	6(14.6)	41 (100.0)
<女性>						
0~3歳	4(80.0)	1(20.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	5(100.0)
3~5歳	10(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	10(100.0)
6~8歳	6(85.7)	1(14.3)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(100.0)
9~11歳	11(91.7)	1(8.3)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	12(100.0)
12~14歳	4 ( 44.4)	5(55.6)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	9(100.0)
15~17歳	2(100.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	2(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	1(100.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	1(100.0)
計	37(80.4)	9(19.6)	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	46 (100.0)

## c 趣味やスポーツをすること

表3-2-7から表3-2-9をみてわかるように、男性でも女性でも、子どもと「趣味やスポーツをする」のは、子どもの年齢が低いほど、している比率も頻度も高く、子どもの年齢が高くなるについて、している比率も頻度も低くなる傾向がうかがえる。

同年齢の子どもについてみた場合、女性のほうが男性よりも、子どもと趣味やスポーツをする回数は相対的に多い。しかし、男女ともに、12歳以上の子どもとは「めったにない」 比率が5割を超えている。

表3-2-7 第1子と趣味やスポーツをする

第1子と趣味や	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
スポーツをする			5 N	回くらい	ない	
<男性>						
6~8歳	0(0.0)	2(13.3)	5(33.3)	5(33.3)	3(20.0)	15(100.0)
9~11歳	1(3.8)	4(15.4)	10(38.5)	6(23.1)	5(19.2)	26(100.0)
12~14歳	0(0.0)	0(0.0)	3(11.5)	9(34.6)	14(53.8)	26(100.0)
15~17歳	0(0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	9(34.6)	17(65.4)	26(100.0)
18歳以上	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(9.1)	10(90.9)	11(100.0)
	1(1.0)	6(5.8)	18(17.3)	30(28.8)	49(47.1)	104(100.0)

<女性>										
6~8歳	1(	14.8)	7(	33.3)	5(	23.8)	3(	14.3)	5(23.8)	21 (100. 0)
9~11歳	3(	8.8)	6(	17.6)	10(	29.4)	11(	32.4)	4(11.8)	34(100.0)
12~14歳	2(	5.4)	3(	8.1)	6(	16.2)	7(	18.9)	19(51.4)	37(100.0)
15~17歳	1(	3.8)	1(	3.8)	2(	7.7)	1(	3.8)	21 ( 80.8)	26(100.0)
18歳以上	0(	0.0)	2(	9.5)	0(	0.0)	5(	23.8)	14(66.7)	21 (100.0)
計	7(	5.0)	19(	13.7)	23(	16.5)	27(	19.4)	63(45.3)	139(100.0)

表3-2-8 第2子と趣味やスポーツをする

第2子と趣味や	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
スポーツをする			5N	回くらい	ない	
<男性>						
3~5歳	0( 0.0	) 4(23.5)	4(23.5)	4(23.5)	5(29.4)	17(100.0)
6~8歳	0( 0.0	2(10.0)	7(35.0)	7(35.0)	4(20.0)	20(100.0)
9~11歳	1( 4.0	2(8.0)	2(8.0)	6(24.0)	14( 56.0)	25 (100.0)
12~14歳	0( 0.0	0 ( 0.0)	5(20.0)	7(28.0)	13(52.0)	25 (100.0)
15~17歳	0( 0.0	0( 0.0)	1(16.7)	0( 0.0)	5(83.3)	6(100.0)
18歳以上	0( 0.0	0( 0.0)	0 ( 0.0)	0( 0.0)	2(100.0)	2(100.0)
計	1( 1.1	) 8( 8.4)	19(20.0)	24( 25.3)	43 ( 45.3)	95 (100.0)
<女性>						
0~3歳	1(33.3	33.3	0(0.0)	1(33.3)	0(0.0)	3(100.0)
3~5歳	3(15.8	6(31.6)	3(15.8)	1(5.3)	6(31.6)	19(100.0)
6~8歳	0( 0.0	) 4(15.4)	9(34.6)	8(30.8)	5(19.2)	26(100.0)
9~11歳	4(12.5	3(9.4)	6(18.8)	7(21.9)	12( 37.5)	32 (100.0)
12~14歳	1(4.0	0( 0.0)	6(24.0)	4(16.0)	14(56.0)	25(100.0)
15~17歳	1(7.1	) 2(14.3)	1(7.1)	4(28.6)	6(42.9)	14(100.0)
18歳以上	0( 0.0	0( 0.0)	0(0.0)	1(14.3)	6(85.7)	7(100.0)
計	10( 7.9	) 16( 12.7)	25(19.8)	26( 20.6)	49(38.9)	126(100.0)

表3-2-9 第3子と趣味やスポーツをする

第3子と趣味や	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
スポーツをする		回	5N	回くらい	ない	
<男性>				· .		
0~3歳	0( 0.0)	0( 0.0)	3(37.5)	2(25.0)	3(37.5)	8(100.0)
3~5歳	0( 0.0)	1(16.7)	2(33.3)	2(33.3)	1(16.7)	6(100.0)
6~8歳	0( 0.0)	1(9.1)	2(18.2)	4(36.4)	4(36.4)	11 (100.0)
9~11歳	0( 0.0)	1(10.0)	1(10.0)	2(20.0)	6(60.0)	10(100.0)
12~14歳	1(25.0)	0( 0.0)	2(50.0)	0( 0.0)	1(25.0)	4(100.0)
<u></u>	1(2.6)	3(7.7)	10(25.6)	10(25.6)	15(38.5)	39(100.0)

<女性>						
0~3歳	3(60.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	2(40.0)	5(100.0)
3~5歳	4 ( 40.0)	1(10.0)	1(10.0)	2(20.0)	2(20.0)	10(100.0)
6~8歳	0( 0.0)	1(14.3)	1(14.3)	0( 0.0)	5(71.4)	7(100.0)
9~11歳	0( 0.0)	3(25.0)	3(25.0)	2(16.7)	4(33.3)	12(100.0)
12~14歳	0( 0.0)	1(11.1)	1(11.1)	2(22.2)	5(55.6)	9(100.0)
15~17歳	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	1(50.0)	1 ( 50.0)	2(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	1(100.0)	1(100.0)
計	7(15.2)	6(13.0)	6(13.0)	7(15.2)	20(43.5)	46 (100.0)

## d 勉強をみること

回答者が子どもの勉強をみることについても、子どもの出生順位はさほど関係ないようである。男性の場合、子どもの勉強を「めったにみない」のがむしろ多数派で、7割近くいる。小学生の子どもについては、「週2・3回」「週1回くらい」勉強をみている男性が4割近くいるものの、男性の子どもとの関わりは、勉強をみることよりも趣味やスポーツのほうが多いようである。

女性の場合、子どもの勉強をみる回数では、小学低学年の子どもにおいて、「毎日」「週2・3回」の比率を合わせて5割を超えている。しかし、子どもが高学年の場合、勉強をみる人の割合はさほど減少しないが、頻度は少なくなっている。そして、中学生については、勉強をみる人の割合が少なくなり、高校生以上では、「めったにない」人が大多数を占める。

表3-2-10 第1子の勉強をみる

第1子の勉強を	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
みる			5 N	回くらい	ない	
<男性>						
6~8歳	0( 0.0)	3(20.0)	3(20.0)	4(26.7)	5(33.3)	15(100.0)
9~11歳	2(27.7)	4(15.4)	5(19.2)	1(3.8)	14(53.8)	26(100.0)
12~14歳	0( 0.0)	2(7.7)	3(11.5)	3(11.5)	18(69.2)	26(100.0)
15~17歳	0( 0.0)	0( 0.0)	1 ( 3.8)	4(15.4)	21 ( 80.8)	26(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	1(10.0)	9(90.0)	10(100.0)
計	2(1.9)	9(8.7)	12(11.7)	13(12.6)	67(65.0)	103(100.0)
<女性>				-		
6~8歳	11(52.4)	6(28.6)	1 (4.8)	1(4.8)	2(9.5)	21 (100.0)
9~11歳	11(32.4)	7(20.6)	9(26.5)	5(14.7)	2(5.9)	34(100.0)
12~14歳	5(13.5)	10( 27.0)	4(10.8)	6(16.2)	12(32.4)	37(100.0)
15~17歳	0( 0.0)	1(4.0)	2(8.0)	0(0.0)	22( 88.0)	25(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	1(5.0)	0(0.0)	0( 0.0)	19( 95.0)	20(100.0)
計	27(19.7)	25(18.2)	16(11.7)	12( 8.8)	57(41.6)	137(100.0)

表3-2-11 第2子の勉強をみる

第2子の勉強を	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
みる		回	5N	回くらい	ない	
<男性>						
3~5歳	0(0.0)	2(12.5)	0(0.0)	1 (6.3)	13(81.3)	16 (100.0)
6~8歳	1 ( 5.0)	3(15.0)	3(15.0)	2(10.0)	11(55.0)	20(100.0)
9~11歳	1 ( 4.0)	0( 0.0)	3(12.0)	4(16.0)	17(68.0)	25 (100.0)
12~14歳	0(0.0)	1 ( 4.0)	4(16.0)	3(12.0)	17(68.0)	25 (100.0)
15~17歳	0( 0.0)	0(0.0)	1(16.7)	0(0.0)	5(83.3)	6(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	0( 0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	2(100.0)	2(100.0)
計	2(2.1)	6(6.4)	11(11.7)	10( 10.6)	65(69.1)	94 (100.0)
<女性>						
0~3歳	1 ( 33.3)	1(33.3)	1(33.3)	0(0.0)	0(0.0)	3(100.0)
3~5歳	1(5.3)	2(10.5)	3(15.8)	3(15.8)	10(52.6)	19 (100.0)
6~8歳	9(33.3)	11(40.7)	3(11.1)	2(7.4)	2(7.4)	27(100.0)
9~11歳	5(15.6)	11(34.4)	7(21.9)	5(15.6)	4(12.5)	32 (100.0)
12~14歳	0( 0.0)	4(15.4)	3(11.5)	4(15.4)	15(57.7)	26(100.0)
15~17歳	1(7.1)	2(14.3)	1(7.1)	1(7.1)	9(64.3)	14(100.0)
18歳以上	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	6(100.0)	6(100.0)
計	17(13.4)	31(24.4)	18(14.2)	15(11.8)	46(36.2)	127 (100.0)

表3-2-12 第3子の勉強をみる

第3子の勉強を	毎日	週2・3	週1回く	月1~3	めったに	計
みる		回	5 W	回くらい	ない	
<男性>						
0~3歳	0(0.0)	0(0.0)	1(12.5)	0(0.0)	7(87.5)	8(100.0)
3~5歳	0(0.0)	1(16.7)	0(0.0)	1(16.7)	4(66.7)	6(100.0)
6~8歳	0(0.0)	3(27.3)	0(0.0)	0( 0.0)	8(72.7)	11(100.0)
9~11歳	1(10.0)	1(10.0)	1(10.0)	2(20.0)	5(50.0)	10(100.0)
12~14歳	0(0.0)	0(0.0)	1(25.0)	3(75.0)	0(0.0)	4(100.0)
計	1(2.6)	5(12.8)	3(7.7)	3(7.7)	27(69.2)	39(100.0)
<女性>						
0~3歳	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	5(100.0)	5(100.0)
3~5歳	1(11.1)	0( 0.0)	2(22.2)	1(11.1)	5(55.6)	9(100.0)
6~8歳	5(71.4)	0( 0.0)	1(14.3)	0( 0.0)	1(14.3)	7(100.0)
9~11歳	2(16.7)	5(41.7)	2(16.7)	1(8.3)	2(16.7)	12(100.0)
12~14歳	0(0.0)	1(11.1)	1(11.1)	4(44.4)	3(33.3)	9(100.0)
15~17歳	0(0.0)	0(0.0)	1 ( 50.0)	0( 0.0)	1 (50.0)	2(100.0)
18歳以上	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0( 0.0)	1(100.0)	1 (100.0)
計	8(17.8)	6(13.3)	7(15.6)	6(13.3)	18(40.0)	45 (100.0)

これらのデータをみる限り、女性たちが子どもの**勉強をみる頻度やみ**ている人の割合は、 小学生の子どもについてのみならず中学生の子どもについても、かなり高いように思われる。

#### e 子どもとの関わりにみる性別の違い

親が子どもと関わる割合は、子どもの出生順位によってはさほど差はみられないものの、関わる内容の違い、親の性別、子どもの年齢によって変化することをみてきた。それでは、親が子どもと関わる割合は、親の性別と子どもの性別との関係でどのように違いが認められるだろうか。ここでは、ごく日常的な相互行為で、しかも選択的な行為である「おしゃべりを楽しむ」ことについてみておこう。

表3-2-13は、回答者の性別と子どもの性別の組み合わせの違いによる「おしゃべりを楽しむ」頻度の違いを、出生順位に関わりなく、年齢階級別に集計したものである。

表3-2-13 回答者の性別・子どもの年齢・性別によるおしゃべりを楽しむ頻度 <男性と男子>

男性と男子の おしゃべり	毎日	週2·3 回		月1~3 × 回くらい カ		計
4000						
0~2歳	0( 0.0)	2(66.7)	0(0.0)	1(33.3)	0(0.0)	3(100.0)
3~5歳	4(26.7)	10(66.7)	1(6.7)	0(0.0)	0(0.0)	15(100.0)
6~8歳	6(25.0)	12(50.0)	4(16.7)	2(8.3)	0(0.0)	24(100.0)
9~11歳	9(27.3)	14(42.4)	6(18.2)	2(6.1)	2(6.1)	33(100.0)
12~14歳	13(40.6)	9(28.1)	6(18.8)	1(3.1)	3(9.2)	32(100.0)
15~17歳	2(15.4)	2(15.4)	4(26.7)	0(0.0)	5(38.5)	13(100.0)
18歳以上	1(20.0)	0(0.0)	1(20.0)	1(20.0)	2(40.0)	5(100.0)
āt	35( 28.0)	49(39.2)	22(17.6)	7(5.6)	12( 9.6)	125(100.0)

## く女性と男子>

女性と男子のおしゃべり	毎日				ったにい	計
0~3歳	7(100.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	0( 0.0)	7(100.0)
3~5歳	13(86.7)	1(6.7)	0( 0.0)	0(0.0)	1(6.7)	15(100.0)
6~8歳	37(88.1)	3(7.1)	2(4.8)	0(0.0)	0( 0.0)	42(100.0)
9~11歳	35(87.5)	3(7.5)	0(0.0)	1(2.5)	1(2.5)	40(100.0)
12~14歳	23(63.9)	10(27.8)	3(8.3)	0(0.0)	0(0.0)	36(100.0)
15~17歳	13(54.2)	7(29.2)	2(8.3)	0(0.0)	2( 0.0)	24(100.0)
18歳以上	6(30.0)	7(35.0)	5(25.0)	2(10.0)	0( 0.0)	20(100.0)
計	134( 72.8)	31 ( 16.8)	12(6.5)	3(1.6)	4(2.2)	184(100.0)

く男性と女子>

男性と女子の	毎日	週2・3	週1回く 月	月1~3 岁	ったに	計
おしゃべり		回	5N [	回くらい な	; bi	
0~3歳	1(14.3)	3(42.9)	0( 0.0)	1(14.3)	2(28.6)	7(100.0)
3~5歳	1(11.1)	6(66.7)	0(0.0)	1(11.1)	1(11.1)	9(100.0)
6~8歳	11(50.0)	9(40.9)	1 (4.5)	1(4.5)	0( 0.0)	22(100.0)
9~11歳	10(35.7)	11(39.2)	4(14.3)	2(7.1)	1 ( 3.6)	28(100.0)
12~14歳	9(37.6)	8(33.3)	2(8.3)	3(12.5)	2(8.3)	24(100.0)
15~17歳	2(10.5)	9(47.4)	4(21.1)	0(0.0)	4(21.1)	19(100.0)
18歳以上	2(25.0)	1(12.5)	3(37.5)	0( 0.0)	2(25.0)	8(100.0)
計	35(31.5)	45 ( 40.5)	14(12.6)	7(6.3)	10( 9.0)	111 (100.0)

# く女性と女子>

女性と女子の	毎日	週2・3 3	周1回く	月1~;	) <sub>}</sub>	+= 1=	計
おしゃべり	14F LI		eren Sv	回くらい			ធ់រ
a 0 4 1 9		<u> </u>	ッぃ 	四くりい			
0~2歳	2(66.6)	1 ( 33.3)	0(-0.0)	0 (	0.0) 0	( 0.0)	3(100.0)
3~5歳	15( 93.8)	1 (6.3)	0( 0.0)	) 0(	0.0) 0	( 0.0)	16(100.0)
6~8歳	23(82.1)	4(14.3)	1 ( 35. 7)	0(	0.0) 0	( 0.0)	28 (100.0)
9~11歳	32(82.0)	4(10.3)	2(5.6)	0(	0.0) 1	( 2.6)	39(100.0)
12~14歳	27( 75.0)	8(22.2)	0( 0.0)	) 1(	2.8) 0	( 0.0)	36(100.0)
15~17歳	13(68.4)	6(31.6)	0( 0.0)	) 0(	0.0) 0	( 0.0)	19(100.0)
18歳以上	3(33.3)	4(44.4)	1(11.1)	) 0(	0.0) 1	(11.1)	9(100.0)
<b>計</b>	115( 76.7)	28(19.2)	4(2.8)	) 1(	0.7) 2	( 1.3)	150 (100.0)

男性の場合、子どもと「毎日」おしゃべりを楽しむ割合は、男子とも女子とも5歳未満の子どもとは高くなく、むしろ小中学生の子どもとのほうが高くなっている。とりわけ、男子のなかで、12~14歳の中学生の子どもと「毎日」おしゃべりを楽しむ割合が40%と高いのが特徴的である。14歳までの男子とは、7割以上の男性が、「毎日」か「週2・3回」おしゃべりを楽しんでいる。しかし、15歳以上の男子とは、「めったにない」男性が4割にもなり、おしゃべりをするにしても、せいぜい「週1回くらい」と、父親と息子の会話が極端に少なくなる。男性と女子とのおしゃべりについても、14歳以下の女子とでは、「毎日」か「週2・3回」おしゃべりをする男性が7割以上いる。しかし、男子と同様に、15歳以上の女子とおしゃべりを楽しむ頻度は少なくなる。とはいえ、男子ほど極端な減少ではなく、「めったにない」という割合も20%程度にとどまっている。

女性の場合、男子とも女子とも11歳以下では、8割以上が「毎日」おしゃべりを楽しんでいる。12歳から17歳では、「毎日」おしゃべりを楽しむ割合はやや減少し、「週2・

3回」が3割程度になっている。また、この年代では、女子とよりも男子と「毎日」おしゃべりする割合が10%ほど低くなっている。男子とも女子とも18歳以上では、「毎日」おしゃべりを楽しむ割合が3割程度になるが、それでも、どの子どもとも「週2・3回」か「週1回くらい」はおしゃべりを楽しんでおり、男性のように、子どもとのおしゃべりが「めったにない」という女性はほとんどいない。

男性は女性よりも、いずれの年齢の子どもとも日ごろの会話の頻度が少ないが、しかし、 男性でも女性でも、子どもの性別による会話の頻度の違いはさほど大きくはない。むしろ、 男性と15歳以上の子どもとの関係が、女子以上に男子とにおいて、疎遠になっているよう に推察できる。この年代の親子関係についてはこれまであまり調査されていないけれど、今 後より詳細な調査研究が期待される。

#### 3 子どもの幼児期の頃の関わり

今回の調査は、小中学生の子どもを中心にしているので、乳幼児期の親子関係を探るうえで、子どもが3歳になるまでの養育状況について、昼間の養育の担当者について(問20-2、問21-2、問22-2、問23-2)と、3歳になるまで子どもが誰と同じ部屋で寝ていたかについて(問20-3、問21-3、問22-3、問23-3)、回顧的に答えてもらった。

#### a 乳幼児期の子どもの世話

表3-3-1は、子どもが3歳になるまでの昼間の世話をしていた人を、第1子から第4子について個々に回答を求めた集計結果である。

当然の結果と言おうか、男性回答者では「配偶者」が最も多く、女性では「あなた自身」が最も多くなっており、第1子と第2子では、いずれも8割を超えている。興味深い点は、第3子については、男性の回答でも女性の回答でも、夫婦以外の人や保育施設の割合が高くなっていることである。子どもが3人になると、経済的な理由から、女性の再就職の時期が早くなるのか、女性の雇用年齢の制限ゆえに再就職を急ぐからなのか、あるいは、別の理由によるものなのか、残念ながらわからない。

表3-3-1 子どもが3歳になるまでの昼間の世話

子が3歳までの世話	男性	女性	計
<第1子>			
あなた自身	2(1.9)	114(80.9)	116(47.0)
配偶者	87(82.1)	2(1.4)	89(36.0)
同居の親	1(0.9)	2(1.4)	3(1.2)
別居の親	1(0.9)	4(2.8)	5(2.0)
親族	0(0.0)	1(0.7)	1 ( 0.4)
保育施設	14(13.2)	18(12.8)	32(13.0)
ベビーシッター	1(0.9)	0(0.0)	1 ( 0.4)
計	106(100.0)	141 (100.0)	247(100.0)

<第2子>				
あなた自身	2( 2.1)	108(81.8)	110(48.2)	
配偶者	77(80.2)	1(0.8)	78(34.2)	
同居の親	1(1.0)	3(2.3)	4(1.8)	
別居の親	1(1.0)	0(0.0)	1 ( 0.4)	
親族	0( 0.0)	1(0.8)	1 ( 0.4)	
保育施設	15(15.6)	18(13.6)	33(14.5)	
ベビーシッター	0( 0.0)	1(0.8)	1 ( 0.4)	
計	96(100.0)	132(100.0)	228(100.0)	
あなた自身	1(2.4)	31 (66.0)	32(36.0)	
配偶者	33(78.6)	0(0.0)	33(37.1)	
同居の親	1(2.4)	1(2.1)	2(2.2)	
別居の親	0( 0.0)	1(2.1)	1(1.1)	
保育施設	7(16.7)	14(29.8)	21 (23.6)	
計	42(100.0)	47(100.0)	89(100.0)	
	·			
あなた自身	0( 0.0)	1(33.3)	1(16.7)	
配偶者	3(100.0)	0(0.0)	3(50.0)	
同居の親	0( 0.0)	1(33.3)	1(16.7)	
保育施設	0( 0.0)	1(33.3)	1(16.7)	
計	3(100.0)	3(100.0)	6(100.0)	

# b 乳幼児期の子どもの寝室

表3-3-2は、子どもが3歳になるまで誰と同じ部屋で寝ていたのかを、第1子から第4子について、集計したものである。この問については、回答者を男女別にする必要はないだろう。

表3-3-2 子どもが3歳になるまで同じ部屋で寝ていた人

	第1子	第2子	第3子	第4子
父・母・子	179(72.5)	19( 8.3)	33( 37.1)	0( 0.0)
父・母・子・きょうだい	43(17.4)	164(71.9)	40(44.9)	5(83.3)
母・子	15(6.1)	7(3.1)	5(5.6)	0(0.0)
母・子・きょうだい	5(2.0)	25(11.0)	8(9.0)	1(16.7)
子・きょうだい	1(0.4)	12(5.3)	3(3.4)	0(0.0)
子ひとり	3(1.2)	1(0.4)	0(0.0)	0(0.0)
その他	1(0.4)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
	247(100.0)	228(100.0)	89 (100.0)	6(100.0)

第1子については、「父母子同室」が9割あり、「父別室・母子同室」は1割に充たない。 しかし、第2子からは、「父母子同室」は8割程度になり、「父別室・母子同室」が1割を 超えている。父母と子どもが別室という割合は極めて少ない。

ただ、今回の質問では、子どもが誰と同室で寝ているかについては明らかであるが、子どもが父母と別室であっても、父母が同室であるかどうかはわからない。のみならず、家族全員の寝方について、網羅しているとはいえない。

## 4 子どもにさせる手伝い

従来の親子関係調査をみると、子どもが手伝いをする割合は、女子よりも男子に低く、また、子どもの年齢が高くなるとむしろ手伝いをしない割合が増加している。

今回の調査では、手伝いの内容をかなり細かく分けて、しているか否かを問うているのみならず、第1子から第4までのすべての子どもについて問うている(問24)。

まず、子どもの性別を分けて、子どもたちがそれぞれの手伝いをどの程度しているのかについて集計した。表3-4-1である。

子どもたちが比較的よくしている手伝いは、「食事の後かたづけ」と「買い物やお使い」である。反対に手伝いをすることが少ないのは、「家業の手伝い」であるが、これは回答者の就業形態において自営業が少ないことが大きい。

子どもの性別の違いをみると、「食事の準備」「食事の後かたづけ」「洗濯」「掃除」において男女の実行率に大きな開きがあり、親が子どもにさせる手伝いの性別分業を見て取れる。「買い物やお使い」「お風呂をわかす」「ごみ捨て」では、男女の実施率に有意な差はみられない。家庭内での父親の家事分担の仕方が男子に影響しているのかもしれない。

出生順位による違いをみると、平均年齢では、当然ながら第1子が第2子よりも高いが、このデータをみる限り第1子と第2子とではさほど実行率に差はみられない。男子の場合、「食事の準備」「食事の後かたづけ」「洗濯」「ごみ捨て」は、第1子よりも第2子のほうが実行率が高くなっている。理由はわからないが、興味深い結果である。第3子では、低年齢の子どもの割合が高いからか、相対的に第1子、第2子よりも手伝いの実行率は低い。しかし、第3子の場合、手伝いをできる年齢に達している子どもの割合が低いから、手伝いの実行率が低いのか、あるいは、上のきょうだいが手伝いをすることによって、第3子はしなくてすんでいるのか、さらに詳細に分析をすれば、明らかになるかもしれない。

それでは、子どもの年齢によって手伝いの実行率はどのように異なるのだろうか。ここでは、紙面の都合で、第1子についてのみ、検討しておきたい。この場合も、やはり子どもの性別は区別して集計する。

表3-4-2は、第1子について、性別・年齢階級別に手伝いの実行率を求めたものである。 年齢階級別の子どもの人数比率が異なるために、単純に比較することはできないが、 $9\sim 11$  歳、 $12\sim 14$  歳がほぼ同人数で、それらの年代の人数を10 割とすると、 $6\sim 8$  歳と 18 歳以上が約6 割、 $15\sim 17$  歳は約8 割の人数である。とりあえず、この割合を目安に以下の数値を検討したい。

手伝いをしている男子のなかでは、 $9\sim11$ 歳の小学高学年で実行している比率が相対的に高くなっている。「掃除」については、 $12\sim14$ 歳の中学生で実行率が最も高い。 $15\sim17$ 歳の高校生で小中学生と同程度に実行しているのは「風呂をわかす」ことだけである。

いずれの手伝いについても、18歳以上の実行率は極めて低い。

女子では、いずれの手伝いでも12~14歳で最も比率が高くなっているが、年齢が上昇 しても、手伝いの実行率はさほど下がってはいない。

同年齢の男女を比較すると、一概に女子のほうが実行率が高いとも言えず、小中学生では 手伝いの内容によっては、男子のほうが実行率の高いものもある。

表3-4-1 子どもにさせる手伝い

		第1子	第2子	第3子	第4子
く食事の	の準備>				
する!	男子	28( 20.7)	37(31.9)	6(13.6)	0(0.0)
3	女子	49(43.8)	41 ( 36.6)	20(44.4)	1 ( 33.3)
く食事の	の後かたづけ>				
する。	<b>男子</b>	52(38.5)	52(44.8)	12(27.3)	2(66.7)
	女子	71(63.4)	62 ( 55.4)	21 (46.7)	1(33.3)
<掃 「	余>				
する!	男子	38(28.1)	28(24.1)	5(11.4)	0( 0.0)
7	女子	40(35.7)	35(31.3)	13(28.9)	1 ( 33.3)
<買い作	<b>勿や</b> お使い>				
する	男子	69(51.1)	53(45.7)	12(27.3)	0(0.0)
3	女子	63(56.3)	41 ( 36.6)	11(24.4)	1(33.3)
<洗 洋	<b>Y</b> >				
する · !	男子	11( 8.1)	21(18.1)	4(9.1)	1(33.3)
3	女子	40(35.7)	37(33.0)	11(24.4)	0( 0.0)
く家業の	の手伝い>				
する	月子	7(5.2)	5(4.3)	1(2.3)	0(0.0)
1	女子	11( 9.8)	13(11.6)	5(11.1)	0(0.0)
 <お風	弓をわかす>				
する §	男子	41 ( 30. 4)	23(19.8)	6(13.6)	0(0.0)
7	女子	34(30.4)	27(24.1)	10(22.2)	0(0.0)
くごみ丼	舎て>				
する	<b>男子</b>	41(30.4)	42(36.2)	10(22.7)	0( 0.0)
3	女子	37(33.0)	27(24.1)	10(22.2)	1(33.3)
くその作	<u>t</u> >				
する 身	<b>身子</b>	8(5.9)	6(5.2)	2(4.5)	0(0.0)
. 3	女子	5(4.5)	5(4.5)	3(6.7)	0( 0.0)
く特にさ	させていない>				
はい り	<b>身子</b>	29(21.5)	21(18.1)	15(34.1)	0(0.0)
4	女子	13(11.6)	19(17.0)	10(22.2)	0(0.0)

		6~ 8歳	9~11歳	12~145	表 15~17	7歳 18歳以	上 計
子ども	の人数	36(14.6)	61(24.7)	63(25.5)	52(21.1)	35(14.2)	247(100.0)
<食事	の準備)	>					
する	男子	6(21.4)	6(42.9)	12(10.7)	3(21.4)	1 ( 3.6)	28(100.0)
	女子	12(24.5)	12( 22.4)	11(24.5)	7(14.3)	7(14.3)	49(100.0)
<食事	の後かれ	 たづけ>		,			
する	男子	6(11.5)	6(36.5)	12(23.1)	13(25.0)	2(3.8)	52(100.0)
	女子	14(19.7)	14(15.5)	11(31.0)	13(18.3)	11(15.5)	71 (100.0)
<掃	除>						
する	男子	3(7.9)	12(31.6)	15(39.5)	5(13.2)	3(7.9)	38(100.0)
	女子	7(17.5)	6(15.0)	8(20.0)	9(22.5)	10(25.0)	40(100.0)
- く買い	物やお伯	 吏い>				<del></del>	
する	男子	9(13.0)	26(37.7)	20(29.0)	11(15.9)	3(4.3)	69(100.0)
	女子	15(23.8)	14(22.2)	15(23.8)	12(19.0)	7(11.1)	63(100.0)
<洗	濯>						· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
する	男子	0(0.0)	7(63.6)	0(0.0)	3(27.3)	1(9.1)	11(100.0
	女子	4(10.0)	7(17.5)	12( 30.0)	8(20.0)	9(22.5)	40(100.0)
<家業	の手伝い	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\			·		<u></u>
する	男子	1(14.3)	3(42.9)	0(0.0)	2(28.6)	1(14.3)	7(100.0)
	女子	2(18.2)	0( 0.0)	2(18.2)	3(27.3)	4(36.4)	11(100.0)
 くお風	呂をわれ	<b>かす&gt;</b>	A STATE OF THE STA				
する	男子	3(7.3)	13(31.7)	13(31.7)	10(24.4)	2(4.9)	41 (100.0)
	女子	4(11.8)	6(17.6)	10(29.4)	6(17.6)	8(23.5)	34(100.0)
くごみ	<b>捨て&gt;</b>				<u></u>		
する	男子	5(12.2)	19(46.3)	9(22.0)	6(14.6)	2(4.9)	41 (100.0)
	女子	6(16.2)	10( 27.0)	10( 27.0)	7(18.9)	4(10.8)	37(100.0)
くその	他>						
する	男子	2(25.0)	2(25.0)	1(12.5)	3(37.5)	0(0.0)	8(100.0)
	女子	2(40.0)	1(20.0)	1(20.0)	0(0.0)	1(20.0)	4(100.0)
<特に		いない>	·				
はい	男子	4(13.8)	4(13.8)	5(17.2)	5(17.2)	11(37.9)	29(100.0
	女子		4(30.8)	3(23.1)	4(30.8)	1(7.7)	13(100.0)

ついでながら、親が手伝いをさせていない子どもは、男子では21.5%、女子では11.6%であるが、男子の場合、18歳以上で高い比率になっている。しかし、手伝いについては、別居者は省いて集計したほうがよいだろう。

#### 5 子どもにかかる教育費

子どもとの関わりについて、最後に、ひとりひとりの子どもにかかる1ヶ月あたりの教育 費についてみてみよう。

表3-5-1は、第1子から第4子までの、一人当たりの教育費を、子どもの年齢階級別に集計したものである。

なお、ここでの教育費とは、幼稚園・保育園・学校にかかる費用、塾、おけいこごとの費用など、すべてを含めた金額について質問している。

第1子についてみると、 $6\sim14$ 歳の義務教育期間では、1ヶ月あたり $2\sim4$ 万円未満が最頻値であり、 $15\sim17$ 歳では、 $4\sim6$ 万円未満が最頻値となり3割弱を占めているが、 $2\sim4$ 万円未満、 $6\sim8$ 万円未満もそれぞれ2割ずつ存在する。18歳以上では、最頻値がさらに高くなり、8万円以上が28%となっているが、他方で、学卒の子どもについては、教育費がほとんどかかることなく、25%存在している。

第2子についてみると、 $0\sim2$ 歳では全員が「ほとんどかからない」か「1万円未満」であるが、 $3\sim5$ 歳では、4割が $2\sim4$ 万円未満となっている。それ以上の年齢の子どもについては、第1子とおおよそよく似た傾向を示している。

第3子についてみると、総じて、同年齢の第1子や第2子と比べて、支出される教育費の額が低くなっていることがわかる。ただし、きょうだいのなかで第3子への教育費が低いのか、あるいは、きょうだい数が2人以下よりも3人以上になると、一人当たりの教育費が相対的に低くなるのか、今回の分析では明らかにできないが、さらに分析をすすめる意義はありそうである。

小中学生の子どもが 2 人いると、1 ヶ月およそ 4 ~8万円程度の教育費がかかり、子どもが高校以上になると、1 人あたり 1 ヶ月 4 ~6万円程度かかるようになり、さらに大学生になると、場合によっては、1 人当たり 8 万円以上もかかるというのが、現状のようである。

なお、子どもの教育費についての質問では、学校などにかかる以外の教育費を問うべきか 迷ったところであるが、一長一短があり、いずれがよいか一概には言えない。また、子ども すべての教育費の合計額を問うことにも、経済的負担の程度をみるには有効であろう。教育 費に関する質問項目について、さらに検討を必要とする。

## 6 まとめ

回答者の子どもとの関わりについては、第1子から第4子まですべての子どもについて質問することにしたために、相当な情報量になった。今回のデータを用いて、親子関係に関するより詳細な分析を行えばさまざまな興味深い知見が得られるのではないだろうか。

全国家族調査の予備調査としては、子どもとの関わりを問うために、必要最小限の有効な項目を選別する基礎データとして活用価値がある。もう少し時間をかけて、さらに詳しく検討したい。

なお、子どもたちの出生順位については、第1子、第2子と、第3子とでは、手伝いのさせかたや教育費のかけ方などに違いが見られ興味深かった。子どもの数によっても、親と子の関わり方に違いがあるかもしれないが、今後の検討課題としたい。

(神原 文子)

		0	~	2歳	3~	~	歳	6~	<b>8</b> j	歳 (	)~1	1歳	12	~1	4歳	15	~1	7歳	18	歳以上	: i	<del> </del>
<第1子>																					,	
ほとんどない							0(	0	0)	3(	5.	. 0)	2(	3.	2)	0(	0.	0)	8(	25.0)	13(	5.3
1万円未満							10(	27	. 8)	9(	15	. 0)	8(	12.	7)	3(	5	(8)	1(	3.1)	31 (	12.8
1~2万円未満							11(	30	6)	18(	30	. 0)	10(	15.	9)	4(	7.	7)	0(	0.0)	43(	17.7
2~4万円未満							13(	36	. 1)	14 (	23	. 3)	23(	36	. 5)	11(	21	. 2)	2(	6.3)	63(	25.9
4~6万円未満							2(	5	. 6)	10(	16	. 7)	8(	12.	7)	15(	28.	8)	5(	15.6)	40(	16.5
6~8万円未満							0(	0	. 0)	3(	5	. 0)	5(	7.	9)	12(	23.	1)	3(	9.4)	23(	9.5
8万円以上							0(	0	. 0)	3 (	5	. 0)	6(	9.	5)	5(	9.	6)	9(	28.1)	23(	9.5
わからない							0(	0	. 0)	0 (	0	. 0)	1(	1.	6)	2(	3	. 8)	4 (	12.5)	7(	2.9
āt							36(	100	. 0)	60 (	(100	. 0)	63(	100	. 0)	52(	100	. 0)	32 (	100.0)	243(	100.0
<第2子>	•																					
ほとんどない	3(	60	. 0)	5(	13	. 5)	1 (	2	. 1)	2 (	3	. 5)	1(	2	. 0)	0(	0	. 0)	2(	25.0)	14(	6.2
1万円以内	2(	40.	. 0)	8(	21.	. 6)	10(	21	. 3)	14(	24	. 6)	6 (	11.	8)	2(	9.	5)	0(	0.0)	42(	18.6
1~2万円未満	0(	0.	0)	7(	18.	9)	15(	31	9)	14(	24	. 6)	5(	9.	8)	6(	28.	6)	0(	0.0)	47 (	20.8
2~4万円未満	0(	0.	0)	15(	40.	5)	16(	34	. 0)	13(	22	. 8)	22(	43.	1)	2(	9.	5)	2(	25.0)	70(	31.0
4~6万円未満	0(	0	. 0)	2(	5	. 4)	2 (	4	. 3)	7 (	12	. 3)	10(	19	6)	6(	28	6)	0(	0.0)	27(	11.9
6~8万円未満	0(	0	0)	0(	0	. 0)	2 (	4	. 3)	3 (	5	. 3)	2(	3	9)	3(	14	. 3)	1(	12.5)	11(	4.9
8万円以上	0(	0	. 0)	0(	0	. 0)	1 (	2	. 1)	3 (	5	. 3)	4 (	7.	. 8)	1(	4	. 8)	1(	12.5)	10(	4.4
わからない	0(	0	. 0)	0(	0	. 0)	0(	0	. 0)	1 (	1	. 8)	1(	2	. 0)	1(	4	. 8)	2(	25.0)	5(	2.2
it	5(	100	. 0)	37(	100	. 0)	47 (	100	. 0)	57 (	100	. 0)	51 (	100	. 0)	21(	100	. 0)	8(	100.0)	226(	100.0
<第3子>																						
ほとんどない	11(	73.	3)	5(	31.	3)	1(	5.	6)	0(	0.	. 0)	0(	0.	0)	1(	50.	0)	0(	0.0)	18(	20.5
1万円未満	2(	13.	3)	2(	12.	5)	6(	33.	3)	6(	27.	3)	6(	42.	9)	0(	0.	0)	0(	0.0)	22(	25.0
1~2万円未満	0(	0.	0)	4 (	25.	0)	5(	27.	8)	8(	36	. 4)	1(	7.	1)	1(	50.	0)	1(1	100.0)	20(	22.7
2~4万円未満	0(	0.	0)	5(	31.	3)	4 (	22.	2)	4 (	18.	. 2)	4 (	28.	6)	0(	0.	0)	0(	0.0)	17(	19.3
4~6万円未満	2(	13	. 3)	0(	0	. 0)	1(	5	. 6)	2 (	9	.1)	1(	7.	. 1)	0(	0	. 0)	0(	0.0)	6(	6.8
6~8万円未満	0(	0	. 0)	0(	0	. 0)	0(	0	. 0)	1 (	4	. 5)	0(	0.	. 0)	0(	0	. 0)	0(	0.0)	1(	1.1
8万円以上	0(	0.	0)	0(	0.	0)	0(	0.	0)	0(	0.	0)	1(	7.	1)	0(	0.	0)	0(	0.0)	1(	1.13
わからない	0(	0.	0)	0(	0.	0)	1(	5.	6)	1(	4.	5)	1(	7.	1)	0(	0.	0)	0(	0.0)	3(	3.4
計 	15(	100	. 0)	16(	100	. 0)	18(	100	. 0)	22 (	100	. 0)	14(	100	. 0)	2(	100	. 0)	1(	100.0	88(	100.0
 <第 4 子>											-											
ほとんどない	1(	100.	0)	1(	50.	0)															2(	33. 3
1万円未満	0(	0.	0)	0(	0.	0)	1(	50.	. 0)	1(	100	. 0)									2(	33.3
2~4万円未満	0(	0	. 0)	1(	50	. 0)	1 (	50	. 0)												2(	33.3
計	10	100	0)	2(	100.	0)	2(	100	0)	1 (	100	.0)									6(	100.0

#### 第4章 夫婦の相互関係

今回の調査では、おもに、「親であること」「親になること」を中心とした夫婦の相互関係についての質問項目を用意している。配偶者と一緒に過ごす時間(問14)、普段に配偶者と話す頻度(問15)、配偶者と話す内容(問15-1)、出産や避妊についての話し合い(問16)、子どものしつけや相談相手の担当者(問26)などである。以下、順にみていこう。

#### 1 夫婦のコミュニケーション

表4-1-1は、男女別に、平日、配偶者と一緒に過ごす時間の分布を示したものである。男性では、「 $4\sim5$ 時間くらい」が最も高い比率で、女性では「 $2\sim3$ 時間くらい」が最も高い比率となっているが、男女の回答に統計的な有意差はない。回答者の全員が配偶者と同居しているにもかかわらず、配偶者と一緒に過ごす時間が「ほとんどない」という人が18人 (7.6%) というのは、やや比率として高いように思われる。

表4-1-1 夫婦の時間

男性	女性	計
7(6.7)	11(8.3)	18( 7.6)
21 ( 20.2)	22(16.7)	43(18.2)
27(26.0)	48(36.4)	75(31.8)
31 (29.8)	32(24.2)	63(26.7)
9(8.7)	5(3.8)	14(5.9)
9(8.7)	14(10.6)	23(9.7)
104(44.1)	132(55.9)	236(100.0)
	21 ( 20.2) 27 ( 26.0) 31 ( 29.8) 9 ( 8.7) 9 ( 8.7)	7(6.7) 11(8.3) 21(20.2) 22(16.7) 27(26.0) 48(36.4) 31(29.8) 32(24.2) 9(8.7) 5(3.8) 9(8.7) 14(10.6)

次に、表4-1-2は、普段、配偶者と話をする頻度を集計したものであり、表4-1-3は、配偶者と週2~3日以上話をする人を対象に、会話の内容を2つまで選択してもらった結果を集計したものである。

男女とも、配偶者と「毎日よく話す」のは4分の1程度であるが、「毎日なにかしら話す」のは、過半数以上あり、男女とも8割程度は、毎日配偶者と多少なりとも話をしているようである。しかし、他方で、「あまり話さない」という人が、男女とも6%程度いることがわかる。

配偶者との会話の内容をみると、男女ともに「子どものこと」が第1位で、男性の75.3%、女性の69.9%があげている。ついで、男女ともに「家族全体のこと」「世の中の出来事」を40%程度の人があげており、男女ともに「仕事のこと」が第4位になっている。これらの項目に比べて、「夫婦のこと」を話すという比率は、男女とも極端に少なく、3、4%にすぎない。やや解釈に窮するところである。

表4-1-2 配偶者との会話

配偶者との会話	男性	女性	≅†
毎日よく話す	24( 23.1)	35(24.8)	59(24.1)
毎日何かしら話す	65 (62.5)	73(51.8)	138(56.3)
話さない日もある	4(3.8)	13(9.2)	17(6.9)
週に2~3日話す	4(3.8)	2(1.4)	6(2.4)
あまり話さない	6(5.8)	9(6.4)	15(6.1)
配偶者はいない	1(1.0)	9(6.4)	10(4.1)
計	104 (100.0)	141 (100.0)	245(100.0)

表4-1-3 配偶者との会話の内容

配偶者との会話内容	男性	女性	計	
子どものこと	73( 75.3)	86(69.9)	159(72.3)	
夫婦のこと	3( 3.1)	5( 4.1)	8( 3.6)	
家族全体のこと	37( 38.1)	50 ( 40.7)	87(39.5)	
仕事のこと	33(34.0)	45(36.6)	78(35.5)	
世の中の出来事	37( 38.1)	52(42.3)	89(40.5)	
その他	2( 2.1)	4(3.3)	6( 2.7)	

## 2 出産・避妊に関わる話し合い

問16では、「子どもを産む数」「避妊の方法」「子どもを産む間隔」について、配偶者とどの程度話し合いをしたかを尋ねている。すべての回答者にとって回顧的な質問というわけではなく、なかには、現在進行中の人もいることだろう。

表4-2-1は、集計結果である。

いずれの事柄についても、回答結果に男女の有意差はない。そして、いずれの事柄についても、「よく話し合った」という回答は2割に充たないものの、「ある程度話し合った」という回答は5割を超えている。しかし、「あまり話し合わず夫の考えで」あるいは「あまり話し合わず妻の考えで」という回答が、子どもを産む数では、26%、避妊の方法では、33%、

子どもを産む間隔では、32%存在する。また、夫婦で話合わない場合、避妊の方法では、夫の考えによるものが20%以上あり、子どもを産む間隔では、妻の考えによるものが20%以上を占めている。

今回の調査結果をみるかぎり、出産や避妊に関して、夫主導や妻主導は多くない。しかし、 夫婦で話し合ったという比率は高いにせよ、最終的な決定がどのようになされたのかを聞け ば、夫婦の勢力関係の一端を知ることができるかもしれない。

表4-2-1 出産・避妊に関する配偶者との話し合い

	男性	女性	計
〈子どもを産む数>			
よく話しあった	18(18.2)	20(15.0)	38(16.4)
ある程度話し合った	54(54.5)	80(60.2)	134(57.8)
あまり話し合わず	14( 14.1)	14(10.5)	28(12.1)
あまり話し合わず	13(13.1)	19(14.3)	32(13.8)
計	99 (100.0)	133(100.0)	232(100.0)
く避妊の方法 > よく話しあった	11( 11.5)	22(17.3)	33(14.8)
ある程度話し合った	50(52.1)	67(52.8)	117(52.5)
あまり話し合わず	24( 25.0)	23(18.1)	47(21.1)
あまり話し合わず	11(11.5)	15(11.8)	26(11.7)
計	96 (100.0)	127(100.0)	223(100.0)
(子どもを産む間隔> よく話しあった	13( 13.4)	17( 13.3)	30(13.3)
ある程度話し合った	53(54.6)	69(53.9)	122(54.2)
あまり話し合わず 夫の考えで	14(14.4)	13(10.2)	27(12.0)
あまり話し合わず 妻の考えで	17( 17.5)	29(22.7)	46(20.4)
āt	97(100.0)	128(100.0)	225(100.0)

#### 3 子育てにおける夫婦の協力関係

表4-3-1は、子どものしつけや相談相手における夫婦の協力・分担のタイプを集計したものである。

男女ともに、「夫婦一緒」が過半数を超えて、一番多い。しかし、「夫婦一緒」という回答が、男性のほうが女性よりも10%程度高く、「主に母親」という回答が、女性のほうが男性よりも10%程度高くなっている。男女間の認識の違いがこの数値の違いとなって現れているのではないだろうか。

表4-3-1 子育てにおける夫婦の協力・分担

子育ての担当者	男性	女性	計	
夫婦一緒	7(62.9)	73(51.8)	139( 56.5)	
主に父親	4(3.8)	2(1.4)	6(2.4)	
主に母親	33(31.4)	59 (41.8)	92(37.4)	
その他の家族	0(0.0)	4(2.8)	4(1.6)	
特に誰もしない	2(1.9)	3(2.1)	5(2.0)	
計	105(100.0)	141 (100.0)	246(100.0)	

#### 4 まとめ

本章での夫婦の相互関係については、男女の性別の違いだけを考慮して、ごく表層的な分析をしたにすぎない。回答者の年齢の違い、あるいは、子どもの年齢の違いなどによって、 配偶者との関わり方が異なることが予想されるが、別の機会に分析したい。

また、ここでは、夫婦関係に関するごく限られた質問項目しか用意していないが、夫婦間のコミュニケーション、役割分担、勢力関係、さらに言えば個人対個人の関係などについて、より妥当な質問項目の検討が必要であることも言うまでもない。

(神原 文子)

# 第5章 親子関係における父親と母親の意識しつけ、親役割、子ども観などを中心に

本章においては、父親・母親別に見たしつけの世代間伝達、子どもに対する親の役割として大切なもの、子どもを持ち育てることの意味、生活の中で大切にしている部分、親子関係についての意識(そう思うの比率)、生活満足度、親子関係についての意識(賛成度)、子どもにしてほしくないこと、理想の子どもをもてるようになるための条件等について、父親・母親別にデータを概観する。

#### 1 しつけの世代間伝達

回答者が親から受けたしつけ項目と、回答者が子どもに期待するしつけ項目との相違を検討するに先立ち、回答者のきょうだい関係を示しておこう。表5-1-1のとおりである。

表5-1-1 本人のきょうだい数と性別(問9)

<b>表</b> 3-1-1 本人のさよ	フにい数と性別 (同	19)		
きょうだい数と性別	男性	女性	計	
<男きょうだい>				
いない	34(32.1)	54(38.6)	88(35.8)	
1人	37(34.9)	61 (43.6)	98(39.8)	
2人	21(19.8)	19(13.6)	40(16.3)	
3人	9(8.5)	2(1.4)	11(4.5)	
4 人	2(1.9)	3(2.1)	5(2.0)	
5人以上	3(2.8)	1(0.7)	4(1.6)	
計	106(100.0)	140(100.0)	246(100.0)	
<女きょうだい数>				
いない	34(32.1)	45(32.1)	79(32.1)	
1人	39(36.8)	56(40.0)	95(38.6)	
2人	26(24.5)	25(17.9)	51(20.7)	
3人	6(5.7)	9(6.4)	15(6.1)	
4人	0(0.0)	4(2.9)	4(1.6)	
5人以上	1(0.9)	1(0.7)	2(0.8)	
計	106(100.0)	140(100.0)	246(100.0)	
<きょうだい合計>				
いない	4(3.8)	7(5.0)	11(4.5)	
1人	31 (29.2)	59(42.1)	90(36.6)	
2人	38(35.8)	39(27.9)	77(31.3)	
3人	16(15.1)	19(13.6)	35(14.2)	
4人	8(7.5)	5(3.6)	13(5.3)	
5人以上	9(8.5)	11(7.9)	20(8.1)	
計計	106(100.0)	140(100.0)	246(100.0)	

4(3.8)	7(5.0)	11(4.5)
30(28.3)	0(0.0)	30(12.2)
0(0.0)	47(33.6)	47(19.1)
72(67.9)	86(61.4)	158(64.2)
106(100.0)	140(100.0)	246(100.0)
	30(28.3) 0(0.0) 72(67.9)	30 ( 28.3)       0 ( 0.0)         0 ( 0.0)       47 ( 33.6)         72 ( 67.9)       86 ( 61.4)

回答者のきょうだい関係でもすでに2人きょうだいが最も多く、36.6%である。しかし、3人きょうだいも31.3%と少なくない。男性のほうが女性よりもややきょうだい数が多いほうにシフトしている。先にみた子どもの場合より、きょうだいが男女ともいる割合が高いが、2人以上きょうだいのいる人の割合が、回答者の子どもより多いことも関係しているだろう。

表5-1-2は、しつけの世代間伝達に関連するデータをまとめたものである (問10、問28)。これによると、親からのしつけは、父親の場合、「責任感」(41.5)が最も高く、以下、「学力」(35.8)、「礼儀」(29.2)、「忍耐強さ」(23.6)、「努力」(22.6)、「正直さ」(22.6)、「思いやり」(22.6)、などの順となっている。一方、母親の場合、「礼儀」(44.7)が最も高く、以下、「思いやり」(42.6)、「責任感」(32.6)、「学力」(31.9)、「素直さ」(29.1)、「努力」(22.0)、などが続いている。父親と母親を比較すると、17項目中、「忍耐強さ」、「思いやり」、「素直さ」、「礼儀」の4項目に統計的な有意差が見られる。これら4項目のうち、「忍耐強さ」は、父親の支持率が高く、「思いやり」、「素直さ」、「礼儀」の3項目は、母親の支持率が高い。

次に、親としてのしつけ(男の子に対する)は、父親の場合、「思いやり」(33.0)が最も高く、以下、「学力」(29.2)、「努力」(24.5)、「自分の意見を持つこと」(24.5)、「責任感」(24.5)、「忍耐強さ」(20.8)、「礼儀」(20.8)、などの順となっている。一方、母親の場合、「自分の意見を持つこと」(37.6)が最も高く、以下、「学力」(31.9)、「思いやり」(31.9)、「責任感」(29.8)、「努力」(25.5)、「礼儀」(22.7)、などが続いている。父親と母親を比較すると、17項目中、「正直さ」、「自分の意見を持つこと」の2項目に統計的な有意差が見られる。これら2項目のうち、「正直さ」は、父親の支持率が高く、「自分の意見を持つこと」は、母親の支持率が高い。

また、親としてのしつけ(女の子に対する)は、父親の場合、「思いやり」(52.8)が最も高く、以下、「礼儀」(28.3)、「素直さ」(22.6)、などの順となっている。一方、母親の場合、「思いやり」(47.5)が最も高く、以下、「自分の意見を持つこと」(28.4)、「責任感」(24.8)、「礼儀」(22.7)、「学力」(22.0)、「素直さ」(20.6)、などが続いている。父親と母親を比較すると、17項目中、「明るさ」の1項目に統計的な有意差が見られる。この「明るさ」は、父親の支持率が高い。

約言すると、父親の場合、親からのしつけは、①「責任感」(41.5)→②「学力」(35.8)→③「礼儀」(29.2)→④「忍耐強さ」(23.6)→⑤「努力」(22.6)→⑥「正直さ」(22.6)→⑦「思いやり」(22.6)の順であったが、親としてのしつけ(男の子に対する)は、①「思いやり」(33.0)→②「学力」(29.2)→③「努力」(24.5)→④「自分の意見を持つこと」(24.5)→

⑤「責任感」(24.5)→⑥「忍耐強さ」(20.8)→⑦「礼儀」(20.8)の順である。親からのしつけと親としてのしつけを比較すると、順位が上昇したものに「思いやり」、「努力」、「自分の意見を持つこと」、下降したものに「責任感」、「礼儀」、「忍耐強さ」、「正直さ」、順位が変わらないものに「学力」がある。

母親の場合、親からのしつけは、①「礼儀」(44.7)→②「思いやり」(42.6)→③「責任感」(32.6)→④「学力」(31.9)→⑤「素直さ」(29.1)→⑥「努力」(22.0)の順であったが、親としてのしつけ(女の子に対する)は、①「思いやり」(47.5)→②「自分の意見を持つこと」(28.4)→③「責任感」(24.8)→④「礼儀」(22.7)→⑤「学力」(22.0)→⑥「素直さ」(20.6)の順である。親からのしつけと親としてのしつけを比較すると、順位が上昇したものに「思いやり」、「自分の意見を持つこと」、下降したものに「礼儀」、「学力」、「素直さ」、「努力」、順位が変わらないものに「責任感」がある。

表5-1-2 しつけの世代間比較

	親からの	しつけ	親として	てのしつけ	親として	てのしつけ
			(男の-	子)	(女の-	子)
	父親	母親	父親	母親	父親	母親
学力	35. 8	31.9	29. 2	31.9	18.9	22. 0
家事能力	3.8	9.2	0.9	0.7	7.5	13.5
忍耐強さ	23.6	12.8*	20.8	13.5	5.7	6.4
务力	22.6	22.0	24.5	25.5	17.9	17.0
正直さ	22.6	19.1	13.2	5.7*	11.3	5.0
思いやり	22.6	42.6***	33.0	31.9	52.8	47.5
素直さ	17.0	29.1*	12.3	10.6	22.6	20.6
自分の意見を持つこと	5.7	7.8	24.5	37.6*	17.9	28.4
チャレンジ精神	5.7	2.1	12.3	12.8	1.9	5.7
お金の適切な使い方や管理	10.4	5.7	2.8	4.3	3.8	5.7
責任感	41.5	32.6	24.5	29.8	16.0	24.8
友達を大事にする	14.2	9.2	16.0	12.1	13.2	13.5
弱い立場の人を助ける	3.8	4.3	6.6	5.0	3.8	6.4
<b>吐交性</b>	3.8	5.0	3.8	5.7	4.7	5.0
明るさ	8. 5	13.5	6.6	4.3	18.9	7.1**
<b>北儀</b>	29. 2	44.7*	20.8	22.7	28.3	22.7
平等意識	0.0	3.5	0.9	0.7	0.9	0.0

p<0.001 \*\*\* p<0.01 \*\* p<0.05 \*

一方、父親と母親を比較すると、親からのしつけとして、父親で、「忍耐強さ」が、また 母親で、「思いやり」、「素直さ」、「礼儀」の支持率が高い。一方、親としてのしつけ (男の子に対する)では、父親で、「正直さ」が、また母親で、「自分の意見を持つこと」の支持率が高い。親としてのしつけ(女の子に対する)では、父親で、「明るさ」の支持率が高い。親からのしつけと親としてのしつけの比較すると、父親では、「忍耐強さ」 $\rightarrow$ 「正直さ」(男の子)、「明るさ」(女の子)へ、母親では、「思いやり」、「素直さ」、「礼儀」 $\rightarrow$ 「自分の意見を持つこと」(男の子)へと、変化が見られる。

これらの傾向から判断すると、しつけの世代間伝達というよりも時代に規定された価値観を反映したしつけが支持されているように思われる。

#### 2 子どもに対する親の役割として大切なもの

表5-2-1は、子どもに対する親の役割として大切なもの(問27)をまとめたものである。これによると、父親の場合、「基本的な生活習慣を身につけさせる」(61.3)が最も高く、以下、「社会のルールを教える」(45.3)、「経済的に扶養する」(43.4)、「暖かい家庭をつくる」(39.6)、「個性や自主性を尊重する」(34.9)などが続いている。一方、母親の場合、「基本的な生活習慣を身につけさせる」(78.7)が最も多く、以下、「暖かい家庭をつくる」(61.0)、「社会のルールを教える」(53.9)、「経済的に扶養する」(27.7)、「個性や自主性を尊重する」(25.5)などが続いている。父親と母親の比較では、10項目中3項目で統計的な有意差が見られる。すなわち、「経済的に扶養する」は、父親の支持率が高く、「基本的な生活習慣を身につけさせる」、「暖かい家庭をつくる」では、母親の支持率が高い。

表5-2-1 子どもに対する親の役割として大切なもの(支持率)

大切な親の役割	男性	女性	計	
経済的に扶養する	46(43.4)	39 ( 27. 7)	85(34.4)	**
身の回りの世話	5(4.7)	9(6.4)	14(5.7)	
基本的な生活習慣	65(61.3)	111(78.7)	176(71.3)	**
暖かい家庭を作る	42(39.6)	86(61.0)	128 ( 51.8)	***
できるだけ良い教育	11(10.4)	11(7.8)	22(8.9)	
相談相手になる	18(17.0)	29(20.6)	47(19.0)	
個性や自主性を尊重	37(34.9)	36(25.5)	73(29.6)	
社会のルール教える	48(45.3)	76(53.9)	124(50.2)	
一緒に遊ぶ	7(6.6)	9(6.4)	16(6.5)	
親自身の生き方示す	20(18.9)	15(10.6)	35(14.2)	
その他	0(0.0)	1(0.7)	1(0.4)	

p<0.001 \*\*\* p<0.01 \*\*

#### 3 子どもを持ち育てることの意味

表5-3-1は、子どもを持ち育てることの意味(支持率)をまとめたものである(問32)。これによると、父親の場合、「自分の仕事や人生の励みになる」(70.8)が最も高く、以下、「喜びを与えてくれる」(67.9)、「育児によって自分が成長する」(46.2)、「夫婦の絆が強くなる」(37.7)、などが続いている。一方、母親の場合、「喜びを与えてくれる」(79.4)が最も高く、以下、「育児によって自分が成長する」(72.3)、「自分の仕事や人生の励みになる」(54.6)、「夫婦の絆が強くなる」(29.8)などが続いている。父親と母親の比較では、9項目中3項目で統計的な有意差が見られる。すなわち、「自分の仕事や人生の励みになる」は、父親の支持率が高く、「喜びを与えてくれる」、「育児によって自分が成長する」では、母親の支持率が高い。

表5-3-1	子	ど X	を持	ち育	てる	~	YO	育味
4200		_ 0	C 17	.り B	~ ~	_		VEV 24

大切な親の役割	男性	女性	計	
喜びを与えてくれる	72(67.9)	112( 79.4)	184( 74.5)	*
自分の夢や理想の実現する	3(2.8)	2(1.4)	5(2.0)	
育児によって自分が成長する	49(46.2)	102(72.3)	151 (61.1)	***
仕事や人生の励みになる	75 (70.8)	77(54.6)	152(61.5)	**
夫婦の絆が強くなる	40(37.7)	42(29.8)	82(*33.2)	
自分の老後をみてもらう	1(0.9)	1(0.7)	2(0.8)	
家を継がせる	5(4.7)	4(2.8)	9(3.6)	
子どもを持つのは当たり前	13(12.3)	9(6.4)	22(8.9)	
社会的に認められる	12(11.3)	9(6.4)	21 (8.5)	
その他	0(0.0)	1(0.7)	1(0.4)	
特に意味はない	3(2.8)	1(0.7)	4(1.6)	

p<0.001 \*\*\* p<0.01 \*\* p<0.05 \*

#### 4 生活の中で大切にしている部分

表5-4-1は、生活の中で大切にしている部分をまとめたものである(問33)。これによると、生活の中で1番目に大切にしている部分については、父親の場合、「父親・母親としての生活」(50.5)が最も高く、以下、「夫・妻としての生活」(20.2)、「職業人としての生活」(17.1)などが続いている。一方、母親の場合、「父親・母親としての生活」(72.9)が最も高く、「夫・妻としての生活」(15.0)が続いている。父親と母親を比較では、統計的有意差は見られない。

2番目に大切にしている部分については、父親の場合、「夫・妻としての生活」(27.7) が最も高く、以下、「父親・母親としての生活」(25.7)、「職業人としての生活」(19.8) などが続いている。一方、母親の場合、「夫・妻としての生活」 (38.5) が最も高く、以下、「父親・母親としての生活」 (15.6) 、「職業人としての生活」 (14.8) が続いている。父親と母親の比較では、統計的な有意差は見られない。

生活の中で大切にしている部分

番目に大切な生活	男性	女性	計
父親・母親として	53( 50.5)	102( 72.9)	155(63.3)
夫・妻としての生活	21(20.0)	21(15.0)	42(17.1)
親に対する息子・娘	4(3.8)	2(1.4)	6(2.4)
職業人としての生活	18(17.1)	3(2.1)	21(8.6)
社会人としての生活	3(2.9)	2(1.4)	5(2.0)
個人としての生活	5(4.8)	3(2.1)	8(3.3)
その他	0(0.0)	4(2.9)	4(1.6)
特にない	1(1.0)	3(2.1)	4(1.6)
計	105 (100.0)	140(100.0)	245(100.0)
番目に大切な生活		女性	計

二番目に大切な生活	男性	女性	計	
父親・母親として	26(25.7)	21(15.6)	47(19.9)	
夫・妻として生活	28(27.7)	52(38.5)	80(33.9)	
親に対する息子・娘	8(7.9)	10( 7.4)	18(7.6)	
職業人としての生活	20(19.8)	20(14.8)	40 (16.9)	
社会人としての生活	4(4.0)	7(5.2)	11(4.7)	
個人としての生活	14(13.9)	20(14.8)	34 ( 14.4)	
その他	0(0.0)	1(0.7)	1 ( 0.4)	
特にない	1(1.0)	4(3.0)	5(2.1)	
計	101 (100.0)	135(100.0)	236 (100.0)	

#### 5 親子関係についての意識

表5-5-1は、親子関係についての意識をまとめたものである(問35)。これによると、父親の場合、「子どもとともに、自分も成長していると思う」(67.9)、「子どもは、自分の生きがいである」(67.9)が最も高く、以下、「子どもはどんな時でも、自分を頼りに思っている」(57.5)、「子どもに尊敬されていると思う」(37.1)、「子どもとは、友だちのように付き合っている」(36.8)、などが続いている。一方、母親の場合、「子どもとともに、自分も成長していると思う」(83.0)がもっとも高く、以下、「子どもはどんな時でも、自

分を頼りに思っている」(67.9)、「子どもは、自分の生きがいである」(56.7)、「子どもとは、友だちのように付き合っている」(45.0)、「子どもに尊敬されていると思う」(30.7)、などが続いている。父親と母親を比較すると、9項目中2項目で統計的な有意差が見られる。すなわち、「子どもとともに、自分も成長していると思う」は、母親の支持率が高く、「子どもの気持ちがよくわからない」は、父親の支持率が高い。

表5-5-1 親子関係についての意識

	そう思う	そうは思	どちらと	計	
		わない	もいえな		
自分を頼りに思っている	)				
男性	61 (57.5)	10( 9.4)	35(33.0)	106(100.0)	
女性	95 (67.9)	16(11.4)	29(20.7)	140(100.0)	
計	156(63.4)	26(10.6)	64(26.0)	246(100.0)	
尊敬されていると思う					
男性	39(37.1)	15(14.3)	51 (48.6)	105(100.0)	
女性	43(30.7)	19(13.6)	78(55.7)	140(100.0)	
<b>#</b>	82 ( 33. 5)	34(13.9)	129(52.7)	245 (100.0)	
友だちのようにつきあい	`				
男性	39(36.8)	33(31.1)	34(32.1)	106(100.0)	
女性	63 (45.0)	37(26.4)	40(28.6)	140(100.0)	
計	102(41.5)	70(28.5)	74(30.1)	246(100.0)	
自分も成長している					
男性	72(67.9)	12(11.3)	22(20.8)	106(100.0)	***
女性	117( 83.0)	2(1.4)	22(15.6)	141 (100.0)	
計 	189(76.5)	14( 5.7)	44(17.8)	247(100.0)	
自分の生きがいである					
男性	72(67.9)	15(14.2)	19(17.9)	106(100.0)	
女性	80 (56.7)	17(12.1)	44(31.2)	141 (100. 0)	
計	152(61.5)	32(13.0)	63(25.5)	247(100.0)	
子育てに自信をもてない	1		-		
男性	11(10.4)	54(50.9)	41 (38.7)	106(100.0)	
女性	13( 9.2)	78(55.3)	50(35.5)	141 (100.0)	
計	24( 9.7)	132(53.4)	91 (36.8)	247(100.0)	
	: 11				
男性	12(11.3)	54(50.9)	40(37.7)	106(100.0)	**
女性	5(3.6)	99(70.7)	36(25.7)	140(100.0)	
計	17( 6.9)	153(62.2)	76(30.9)	246(100.0)	

## 楽しいことより苦労が多い

男性	21 (	19.8)	51 (48.1)	34(32.1)	106(100.0)
女性	20(	14.2)	84(59.6)	37(26.2)	141 (100.0)
計	41 (	16.6)	135 (54.7)	71 (28.7)	247(100.0)
子育てイライラすること	多い				
男性	3(	2.8)	79(74.5)	24(22.6)	106(100.0)
女性	8(	5.7)	94(66.7)	39(27.7)	141 (100.0)
計 	11(	4.5)	173( 70.0)	63(25.5)	247(100.0)

p<0.001 \*\*\* p<0.01 \*\*

#### 6 子どもに受けさせたい教育

表5-6-1は、子どもにどの程度の教育を受けさせたいかということについて、男子の場合と女子の場合と別々に回答を求めた結果である(問34)。男子の場合でも女子の場合でも、男性回答者と女性回答者の期待が驚くほどに似通っている。すなわち、男子の場合には、男女いずれも7割近くが大学・大学院への進学を期待している。「その子の意志に任せる」というのは、男性で18人(18.9%)、女性で34人(25.2%)いるが、大学・大学院以外を期待している比率は極端に少ない。

女子の場合では、大学・大学院が4割程度と最も高いが、男子の場合より3割程度低くなっており、そのぶん短大・高専を希望するものが2割程度存在している。男子の場合よりも、「その子の意志の任せる」という回答が、男性で25人(25.3%)、女性で40人(29.9%)と、男子の場合より5%程度多くなっている。

男性も女性も、男子のみならず女子にも高学歴を期待する傾向が強まっていることがうかがえるが、それでも女子より男子のほうに大学進学への強い期待のあることがわかる。

表5-6-1 子どもに受けさせたい教育

	男子の進路	女子の進路
	<男性> <女性> 計	<男性> <女性> 計
中学校	0( 0.0) 1( 0.7) 1( 0.4)	0( 0.0) 1( 0.7) 1( 0.4)
高等学校	6(6.3) 5(3.7) 11(4.8)	11(11.1) 6(4.5) 17(7.3)
短大・高専	5(5.3) 3(2.2) 8(3.5)	22(22.2) 30(22.4) 52(22.3)
大学	62(65.3) 84(62.2) 146(63.5)	36(36.4) 51(38.1) 87(37.3)
大学院	4(4.2) 7(5.2) 11(4.8)	4(4.0) 5(3.7) 9(3.9)
その他	0(0.0) 1(0.7) 1(0.4)	1(1.0) 1(0.7) 2(0.9)
子の意志に	18(18.9) 34(25.2) 52(22.6)	25(25.3) 40(29.9) 65(27.9)
計 	95(100.0) 135(100.0) 230(100.0)	99(100.0) 134(100.0) 233(100.0)

#### 7 子どもへの将来の援助

近年、親の子離れの遅れや子の親離れの遅れが指摘されているが、今回の回答者も、親と して、将来、子どもが成人してからも何らかの援助をしたいと考えているのだろうか。

表5-7-1は、子どもに、将来援助したい事柄について回答を求めた結果をまとめたものである(問38)。

男性も女性も3割程度は「特にない」と答えている。しかし、残る7割の回答者は何らかの援助を考えていることになる。孫にたいする援助の比率が最も高く、男女ともに4割を超えている。ついで、女性では、結婚資金の援助が28%を占め、男性では、就職先を探す手助けが、19%となっている。男性では、第3位に家の建築や購入の資金援助で18%を占める。女性では、就職先を探す手助けで18%になっている。就職後の身の回りの世話について比率が低いが、3つまで○をつけてもらったために、選ばれなかったのではないだろうか。いくつでも○をつけてもらっていたら、そのほかの項目の比率ももっと高くなっていたのではないかと思われる。結婚相手を探すことについても比率が低いが、結婚相手については本人任せと考えている回答者が多いということだろうか。

表5-7-1 将来子どもにしたいこと (3つまで選択)

	男性	女性	āt
就職先を探す手助けをする	20(18.9)	25(17.7)	45(18.2)
就職後の身の回りの世話	4(3.8)	8(5.7)	12(4.9)
結婚相手を探す手助け	7(6.6)	7(5.0)	14(5.7)
結婚資金を出す	19(17.9)	40(28.4)	59(23.9)
結婚後の生活援助	10(9.4)	12(8.5)	22(8.9)
係の世話や孫のお金援助	44(41.5)	58(41.1)	102(41.3)
家の建築・購入の資金援助	19(17.9)	15(10.6)	34(13.8)
遺産をのこす	10(9.4)	13(9.2)	23(9.3)
その他	4(3.8)	10(7.1)	14(5.7)
特にない	35 ( 33.0)	44(31.2)	79(32.0)

#### 8 多様なライフスタイルの許容性

表5-8-1は、子どもに選択してほしくないライフスタイルをまとめたものである(問39)。これによると、父親の場合、「同性愛カップルで共同生活をする」(81.1)がもっとも高く、以下、「未婚で子どもを持つ」(61.3)、「一生独身でいる」(55.7)、「子どもを持って、離婚する」(40.6)、「仕事の関係で夫婦が別居する」(33.0)、「結婚しても子どもを持たない」(29.2)、「婚姻届を出さずに同棲する」(26.4)、などが続いている。一方、母親の場合、「同性愛カップルで共同生活をする」(77.3)がもっとも高く、以下、「未婚で

子どもを持つ」(53.9)、「一生独身でいる」(53.9)、「子どもを持って、離婚する」(34.8)、「結婚しても子どもを持たない」(33.3)、「婚姻届を出さずに同棲する」(29.1)、「仕事の関係で夫婦が別居する」(20.6)、「未婚で性関係をもつ」(20.6)などが続いている。父親と母親を比較すると、12項目中1項目で統計的な有意差が見られる。すなわち、「仕事の関係で夫婦が別居する」は、父親の支持率が高い。

表5-8-1 多様なライフスタイルの許容性

	男性	女性	計	
一生独身でいる	59(55.7)	76(53.9)	135(54.7)	
未婚で性関係を持つ	19(17.9)	29(20.6)	48(19.4)	
婚姻届を出さすに同棲する	28(26.4)	41(29.1)	69(27.9)	
未婚で子どもを持つ	65(61.3)	76(53.9)	141 (57.1)	
離婚歴のある相手と結婚	17(16.0)	16(11.3)	33(13.4)	
外国人と結婚する	18(17.0)	21(14.9)	39 (15.8)	
仕事の関係で夫婦が別居	35(33.0)	29(20.6)	64(25.9)	*
結婚しても子どもを持たない	31 (29.2)	47(33.3)	78(31.6)	
血縁関係のない子を育てる	14(13.2)	21(14.9)	35(14.2)	
同性愛カップルで共同生活	86(81.1)	109(77.3)	195(78.9)	
結婚相手の親と同居する	9(8.5)	17(12.1)	26(10.5)	
子どもを持って離婚する	43(40.6)	49(34.8)	92(37.2)	
その他	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
特にない	5(4.7)	14(9.9)	19(7.7)	

p<0.05 \*

#### 9 親子関係に関する一般的な意見への賛否

これまでは、回答者の子どもとの関わりについて親子関係意識を問うてきた。ここでは、親子関係に関する一般的な意見への賛否をみておく(問37)。表5-9-1である。これによると、父親の場合、「子どもを持たない人生よりも、子どもを持ったほうがよい」(93.4)が最も高く、以下、「3歳になるまでは、他の人間でなく母親がそばにいてやることが、子どもの成長には大切だ」(92.3)、「家事や育児には、男性より女性が適している」(86.8)、「これからの親は、身体が不自由になっても、可能な限り自立をすべきだ」(84.9)、「子どものためなら、親は自分のことを犠牲にしても仕方がない」(76.5)、「親が経済的に苦しかったら、成人した子どもは、親に経済的援助をするべきだ」(61.5)、「女の子は学校の成績に関係なく、気立てがよければよい」(60.0)、「子どもがいても、夫婦関係がうまくいかなければ、離婚するのもやむを得ない」(52.4)、となっている。一方、母親の場合、「子どもを持たない人生よりも、子どもを持ったほうがよい」(94.3)がもっとも高く、以

下、「3歳になるまでには、他の人間でなく母親がそばにいてやることが、子どもの成長には大切だ」(87.9)、「これからの親は、身体が不自由になっても、可能な限り自立すべきだ」(85.8)、「子どもがいても、夫婦関係がうまく行かなければ、離婚するのもやむを得ない」(70.9)、「家事や育児には、男性より女性が適している」(67.3)、「親が経済的に苦しかったら、成人した子どもは、親に経済的援助をするべきだ」(66.5)、「子どものためなら、親は自分のことを犠牲にしても仕方がない」(62.4)、「女の子は学校の成績に関係なく、気立てがよければよい」(36.0)、となっている。父親と母親を比較すると、8項目中4項目で統計的な有意差が見られる。すなわち、「家事や育児には、男性より女性が適している」、「女の子は学校の成績に関係なく、気立てがよければよい」、の2項目は、父親の賛成度が高い。「子どもがいても、夫婦関係がうまく行かなければ、離婚するのもやむを得ない」は、母親の賛成度(賛成+やや賛成)が高い。「子どもを持たない人生よりも、子どもを持ったほうがよい」は、賛成度の比率は母親が高いが、賛成度のうち賛成の比率が父親で高く、やや賛成の比率は母親が高い。

表5-9-1 親子関係に関する一般的な意見への賛否

	賛成	まあ賛成	やや反対	反対	計
家事育児には男性	<u>'</u>				
より女性が適任					***
男性	41(38.7)	51 (48.1)	9(8.5)	5(4.7)	106 (100. 0)
女性	16(11.3)	79(56.0)	33(23.4)	13(9.2)	141 (100. 0)
<del>il</del>	57( 23.1)	130(52.6)	42(17.0)	18( 7.3)	247(100.0)
女の子は学校の成績	<del>'</del>				
よりも気立て			•		***
男性	18( 17.1)	45(42.9)	28(26.7)	14(13.3)	105 (100.0)
女性	4(2.9)	46(33.1)	51 ( 36.7)	38(27.3)	139 (100.0)
計	22( 9.0)	91 (37.3)	79(32.4)	52(21.3)	244 (100. 0)
3歳までは母親がそ	·				
ばにいることが大切					
男性	73(70.2)	23(22.1)	6(5.8)	2(1.9)	104 (100.0)
女性	84(60.0)	39(27.9)	12(8.6)	5(3.6)	140 (100.0)
計	157(64.3)	62(25.4)	18( 7.4)	7(2.9)	244 (100.0)
 子どもは持たないよ					
り持ったほうがよい					**
男性	86(81.1)	13(12.3)	4(3.8)	3(2.8)	106(100.0)
女性	87(61.7)	46(32.6)	6(4.3)	2(1.4)	141 (100. 0)
計	173( 70.0)	59(23.9)	10(4.0)	5(2.0)	247 (100. 0)

#### 子どものために親は 自分を犠牲にする 男性 22(20.8) 59(55.7) 20(18.9) 5(4.7) 106(100.0)27(19.1) 61 (43.3) 45 (31.9) 8(5.7) 141(100.0) 女性 計 49(19.8) 120(48.6) 65 (26.3) 13(5.3) 247(100.0) 子どもがいても、離婚 するのはやむを得ない \*\*\* 男性 11(10.5) 44(41.9) 30(28.6) 20(19.0) 105(100.0) 34(24.1) 8(5.7) 141(100.0) 女性 66 (46.8) 33(23.4) 45(18.3) 110(44.7) 63(25.6) 28(11.4) 246(100.0) 親が経済的に苦しかっ たら成人子が援助する 男性 18(17.3) 46(44.2) 30(28.8) 10(9.6) 104(100.0) 12( 8.6) 81( 57.9) 30( 21.4) 17( 12.1) 140( 57.4) 女性 計 30(12.3) 127(52.0) 60(24.6) 27(11.1) 244(100.0) 親は身体が不自由になっ ても可能な限り自立すべき 48(45.3) 42(39.6) 15(14.2) 1(0.9) 106(100.0) 男性 女性 51 (36.2) 70(49.6) 19(13.5) 1(0.7) 141(100.0)

99(40.1) 112(45.3) 34(13.8)

p<0.001 \*\*\* p<0.01 \*\* p<0.05 \*

2(0.8) 247(100.0)

#### 10 生活満足度

計

最後に、表5-10-1は回答者の生活の諸側面についての満足度をまとめたものである(問36)。これによると、父親の場合、「夫婦関係全般について」(83.6)が最も高く、以下、「配偶者との家事分担について」(82.9)、「配偶者のあなたに対する理解度について」(79.0)、「配偶者の子育てや子どもとの関わり方について」(79.0)、「自分自身の生き方について」(77.2)、「あなた自身の親や親族との関わり方について」(74.3)、「子どもとの関係全般について」(74.2)、「配偶者の親や親族との関わり方について」(73.3)、「子どもの性活態度について」(70.7)、「自分自身の仕事について」(63.8)、「子どもの成績について」(62.3)、「暮らしの経済面について」(51.9)、となっている。一方、母親の場合、「子どもとの関係全般について」(84.3)がもっとも高く、以下、「あなた自身の親や親族との関わり方について」(77.8)、「夫婦関係全般について」(66.6)、「子どもの成績について」(64.5)、「配偶者の親や親族との関わり方について」(64.5)、「配偶者のあなたに対する理解度について」(62.9)、「子どもの生活態度について」(62.2)、「配偶者

の子育てや子どもとの関わり方について」(62.1)、「自分自身の生き方について」(61.4)、「自分自身の仕事について」(49.6)、「暮らしの経済面について」(49.0)、「配偶者との家事分担について」(44.7)、となっている。父親と母親を比較すると、12項目中6項目で統計的な有意差が見られる。すなわち、「配偶者との家事分担について」、「配偶者のあなたに対する理解度について」、「配偶者の子育てや子どもとの関わり方について」、「夫婦関係全般について」、「自分自身の生き方について」、「配偶者の親や親族との関わり方について」など6項目すべてについて、父親の満足度が高い。

表5-10-1 生活満足度

表5-10-1 生活満	足度					
	非常に満	どちらか	どちらか	非常に不	どちらと	計
	足	といえば	といえば	満	もいえな	
自分自身の生き方						*
男性	13(12.4)	68 (64.8)	16(15.2)	1(1.0)	7(6.7)	105 (100.0)
女性	8( 5.7)	78 (55.7)	28( 20.0)	3(2.1)	23(16.4)	140(100.0)
計	21(8.6)	146(59.6)	44(18.0)	4(1.6)	30(12.2)	245 (100.0)
自分自身の仕事		,				
男性	8(7.6)	59 ( 56.2)	19(18.1)	3(2.9)	16(15.2)	105 (100.0)
女性	8(5.9)	59(43.7)	23(17.0)	3(2.2)	42(31.1)	135 (100.0)
<b>a</b> t	16( 6.7)	118(49.2)	42(17.5)	6(2.5)	58(24.2)	240(100.0)
子どもの成績						
男性	9(8.5)	57(53.8)	19(17.9)	1(0.9)	20(18.9)	106(100.0)
女性	16(11.3)	75 (53.2)	24(17.0)	7(5.0)	19(13.5)	141 (100.0)
計	25(10.1)	132(53.4)	43(17.4)	8(3.2)	39 (15.8)	247(100.0)
子どもの生活態度						
男性	8(7.5)	67(63.2)	18( 17.0)	2(1.9)	11(10.4)	106(100.0)
女性	12( 8.6)	75(53.6)	39(27.9)	2(1.4)	12(8.6)	140(100.0)
計	20( 8.1)	142(57.7)	57(23.2)	4(1.6)	23(9.3)	246 (100.0)
子どもとの関係全	 设					
男性	16(15.2)	62(59.0)	8(7.6)	1(1.0)	18(17.1)	105(100.0)
女性	30(21.4)	88 (62.9)	8(5.7)	0(0.0)	14( 10.0)	140(100.0)
計	46(18.8)	150(61.2)	16(6.5)	1(0.4)	32(13.1)	245 (100.0)
配偶者からの理解						**
男性	23(21.9)	60(57.1)	9(8.6)	1(1.0)	12(11.4)	105(100.0)
女性	26(19.7)	57(43.2)	22(16.7)	12( 9.1)	15(11.4)	132 (100.0)
計	49(20.7)	117(49.4)	31 (13.1)	13(5.5)	27(11.4)	237(100.0)
配偶者の子育ての位	 仕方					**
男性	20(19.0)	63(60.0)	9(8.6)	2(1.9)	11(10.5)	105(100.0)
女性	19(14.4)	63(47.7)	30(22.7)	9(6.8)	11(8.3)	132(100.0)
計	39(16.5)	126 (53.2)	39(16.5)	11(4.6)	22(9.3)	237(100.0)
***************************************	····					

配偶者との家事分	担					***
男性	21(20.0)	66(62.9)	2(1.9)	2(1.9)	14(13.3)	105 (100.0)
女性	23(17.4)	36(27.3)	35(26.5)	15(11.4)	23(17.4)	132 (100.0)
計	44(18.6)	102(43.0)	37(15.6)	17(7.2)	37(15.6)	237 (100.0)
夫婦関係全般						**
男性	25(24.0)	62(59.6)	5(4.8)	0(0.0)	12(11.5)	104 (100.0)
女性	16(12.1)	72(54.5)	16(12.1)	10(7.6)	18(13.6)	132 (100.0)
計	41 (17.3)	134(56.8)	21(8.9)	10(4.2)	30(12.7)	236 (100.0)
自身の親や親族と	の関係					
男性	14(13.3)	64(61.0)	12(11.4)	1(1.0)	14(13.3)	105 (100.0)
女性	17(12.1)	92 (65.7)	11(7.9)	3(2.1)	17(12.1)	140(100.0)
計	31 (12.7)	156(63.7)	23(9.4)	4(1.6)	31 (12.7)	245 (100.0)
配偶者の親や親族	との関係					*
男性	14(13.3)	63(60.0)	7(6.7)	1(1.0)	20(19.0)	105 (100.0)
女性	11( 8.5)	71 (54.6)	19(14.6)	8(6.2)	21 ( 16.2)	130(100.0)
計	25(10.6)	134(57.0)	26(11.1)	9(3.8)	41 (17.4)	235 (100.0)
暮らしの経済面						
男性	7(6.6)	48(45.3)	28( 26.4)	7(6.6)	16(15,1)	106(100.0)
女性	9(6.4)	60(42.6)	25(17.7)	20(14.2)	27(19.1)	141 (100.0)
計	16( 6.5)	108(43.7)	53(21.5)	27(10.9)	43(17.4)	247(100.0)
	1					

p<0.001 \*\*\* p<0.01 \*\* p<0.05 \*

## 11 要約

a 父親の場合、親からのしつけと親としてのしつけを比較すると、順位が上昇したものに「思いやり」、「努力」、「自分の意見を持つこと」、下降したものに「責任感」、「礼儀」、「忍耐強さ」、「正直さ」、順位が変わらないものに「学力」がある。

母親の場合、順位が上昇したものに「思いやり」、「自分の意見を持つこと」、下降した ものに「礼儀」、「学力」、「素直さ」、「努力」、順位が変わらないものに「責任感」 がある。

一方、親からのしつけと親としてのしつけの比較すると、父親では、「忍耐強さ」→「正直さ」(男の子)、「明るさ」(女の子)へ、母親では、「思いやり」、「素直さ」、「礼儀」→「自分の意見を持つこと」(男の子)へと、変化が見られる。

これらの傾向から判断すると、しつけの世代間伝達というよりも時代に規定された価値観を反映したしつけが支持されているように思われる。

- b 子どもに対する親の役割として大切なもの(支持率)を父親と母親で比較すると、「経済的に扶養する」は、父親の支持率が高く、「基本的な生活習慣を身につけさせる」、「暖かい家庭をつくる」では、母親の支持率が高い。
- c 子どもを持ち育てることの意味(支持率)を父親と母親で比較すると、「自分の仕事や人

- 生の励みになる」は、父親の支持率が高く、「喜びを与えてくれる」、「育児によって自 分が成長する」では、母親の支持率が高い。
- d 生活の中で1番目に大切にしている部分については、父親の場合、「父親・母親としての生活」(50.5)が最も高く、母親の場合も、「父親・母親としての生活」(72.9)が最も高い。2番目に大切にしている部分については、父親の場合、「夫・妻としての生活」(27.7)が最も高く、母親の場合も、「夫・妻としての生活」(38.5)が最も高い。父親と
- e 親子関係についての意識(そう思うの比率)を父親と母親で比較すると、「子どもとともに、自分も成長していると思う」は、母親の支持率が高く、「子どもの気持ちがよくわからない」は、父親の支持率が高い。

母親の比較では、両方とも統計的な有意差は見られない。

- f 子どもに選択してほしくないライフスタイル(比率)を父親と母親で比較すると、「仕事の関係で夫婦が別居する」は、父親の支持率が高い。
- g 親子関係についての意識を父親と母親で比較すると、「家事や育児には、男性より女性が適している」、「女の子は学校の成績に関係なく、気立てがよければよい」、の2項目は、父親の賛成度が高く、「子どもがいても、夫婦関係がうまくいかなければ、離婚するのもやむを得ない」は、母親の賛成度が高い。「子どもを持たない人生よりも、子どもを持ったほうがよい」は、賛成度(賛成+やや賛成)の比率は母親が高いが、賛成度のうち賛成の比率が父親で高く、やや賛成の比率は母親が高い。
- h 生活満足度(満足の比率)を父親と母親で比較すると、「配偶者との家事分担について」 「配偶者のあなたに対する理解度について」、「配偶者の子育てや子どもとの関わり方に ついて」、「夫婦関係全般について」、「自分自身の生き方について」、「配偶者の親や 親族との関わり方について」など6項目すべてについて、父親の満足度が高い。
- i b~hまでを約言すれば、父親は、「経済的に扶養する」、「自分の仕事や人生の励みになる」、「子どもの気持ちがよくわからない」、「家事や育児には、男性より女性が適している」、「女の子は学校の成績に関係なく、気立てがよければよい」、「将来の社会の担い手である子どもを生み育てる社会的意義を啓発する」、生活満足度などの項目で高い支持率を示している。一方、母親は、「基本的な生活習慣を身につけさせる」、「暖かい家庭をつくる」、「喜びを与えてくれる」、「育児によって自分が成長する」、「子どもとともに、自分も成長していると思う」、「子どもがいても、夫婦関係がうまく行かなければ、離婚するのもやむを得ない」、などの項目で高い支持率を示している。

(畠中 宗一)

## 第6章 子育ての悩みや問題と子育てサポート

本章では、回答者が、日ごろ子どもを育てるうえでどのような悩みや問題を感じており、 それらの問題を誰に相談したりどこから援助を受けたりしているのかという点について検討 し、子育てにおける公私のサポート・システムの現状を把握する。

#### 1 子育てにおける悩みや問題

表6-1-1は、回答者が日ごろ感じている子育ての悩みや問題について、悩みや問題のある場合の比率を求めたものである(問29)。

男性でも女性でも、「進学や進路」を悩みとしてあげている人の割合が最も高く、男性で50人 (47.2%)、女性では91人 (64.5%)にも達している。男性では、「教育費」が35人 (33.0%)、「生活態度や性格など」が34人 (32.1%)、「友人関係」が30人 (28.3%)と続く。女性では、「生活態度や性格など」が59人 (41.8%)で2番目に高く、「友人関係」が53人 (37.6%)、「教育費」が44人 (31.2%)と続く。これらの結果をみると、子育てにおける悩みや問題について、男性回答者も女性回答者も同様な悩みや問題に直面している人の多いことがわかる。ただ、「子どもと過ごす時間」については、女性では7.8%であるのにたいして男性では20.8%と、差がついている。男性のなかで15人 (14.2%)、女性では8人 (5.7%)が「悩みや問題が得にない」と回答しているが、悩みや問題が特にないという認識がむしろ気になるところである。

それでは、回答者がこのような悩みや問題に直面したとき、主に誰に相談するのだろうか。 表6-1-2は、悩みや問題を相談できる人について、いくつでも選んでもらったものの集計結 果である(問30)。

男性の相談相手は、「配偶者」が100人(有配偶者の95.2%)と集中しており、そのほかには、「自分の親やきょうだい」が26人(24.5%)、「友人」が27人(25.5%)で、せいぜい4人に1人程度しかいない。

女性の相談相手では、「配偶者」が121人(有配偶者の91.7%)と最も高いが、そのほかに「友人」が75人(53.2%)、「自分の親やきょうだい」が63人(44.7%)で、それぞれ2人に1人がいることになる。

男女ともに「配偶者の親やきょうだい」に相談するという人は、せいぜい1割程度であり、 「自分の親やきょうだい」を相談相手として認知している場合より明らかに少ない。

また、病院の医師、カウンセラーといった専門機関の相談するという人は、男女とも少数であり、公的な相談機関や専門家は、ほとんど身近な相談機関や相談者の位置を占めていないようである。ほとんどの人にとって、なにか相談したいことが生じても、配偶者、親族、友人で間に合うということだろうか。

しかし、「相談できる人がいない」という人が男性で1人、女性で2人おり、比率として は極めて低いが、無視できない数値である。とりわけ、このような人びとのために、公的な 相談機関がもっと身近な存在になることが期待される。

表6-1-1 子育てにおける悩み

子育ての悩みや問題	男性	女性	計
友人関係	30(28.3)	53( 37.6)	83( 33.6)
進学や進路	50(47.2)	91 (64.5)	141(57.1)
教育費	35(33.0)	44(31.2)	79(32.0)
学校・幼稚園嫌い	8(7.5)	8(5.7)	16(6.5)
勉強しないこと	24(22.6)	33(23.4)	57(23.1)
親の言うこと聞かない	18(17.0)	32(22.7)	50(20.2)
生活態度や性格など	34(32.1)	59(41.8)	93(37.7)
自宅の周りの環境悪い	2(1.9)	8(5.7)	10( 4.0)
非行	8(7.5)	9(6.4)	17(6.9)
病気や障害	21(19.8)	25(17.7)	46(18.6)
子どもと過ごす時間	22(20.8)	11(7.8)	33(13.4)
相談相手がいない	2(1.9)	2(1.4)	4(1.6)
その他	2(1.9)	3(2.1)	5(2.0)
特にない	15(14.2)	8(5.7)	23(9.3)

表6-1-2 子育ての悩みや問題を相談できる人(複数回答)

大切な親の役割	男性	女性	計
配偶者	100( 94.3)	121( 85.8)	221 (89.5)
自分の親やきょうだい	26(24.5)	63(44.7)	89 ( 36.0)
配偶者の親きょうだい	11(10.4)	14(9.9)	2(10.1)
友人	27(25.5)	75(53.2)	102(41.3)
近所の人	4(3.8)	7(5.0)	11(4.5)
職場の人	9(8.5)	7(5.0)	16(6.5)
病院の医師	5(4.7)	7(5.0)	12(4.9)
学校など先生	14(13.2)	27(19.1)	41 ( 16.6)
電話相談など	2(1.9)	0(0.0)	2(0.8)
カウンセラー	3(2.8)	5(3.5)	8(3.2)
その他	1(0.9)	1(0.7)	2(0.8)
相談できる人いない	1(0.9)	2(1.4)	3(1.2)

## 2 子育てにおける家族外の援助者

たしかに、配偶者は、ほとんどの人にとって最も身近な相談者であり困った時の援助者には違いない。それでは、配偶者の援助を期待できないような状況では、回答者は誰に子どもの世話を頼むのだろうか。この点を確かめるために、a 「夫婦が2、3 日留守中の子どもの世話」を頼む人と、b 「夫婦が留守中の、子どもの急病への対応」を頼む人について、回答を求めた(問31)。表6-2-1である。

これによると、「夫婦が2、3日留守中の子どもの世話」についても、「夫婦が留守中の、子どもの急病への対応」についても、いずれも親類が60%と最も高い比率を占めている。「夫婦が2、3日留守中の子どもの世話」では、「友人」、「近所の人」などいずれも少数である。しかし、「そのような場合はない」が57人(23.1%)もおり、設問自体と回答の選択肢が妥当であったかどうか再検討が必要である。

「夫婦の留守中の、子どもの急病への対応」では、「近所の人」、「友人」が1割程度ある。

しかし、この設問では、選択肢のなかから○は1つだけとしたことも問題があったように 思う。

表6-2-1 家族外の援助者	1 家族外の	)援助者
----------------	--------	------

	夫婦が2、3日留守の時	留守中の子どもの急病
親類	150(60.7)	149(60.3)
友人	12( 4.9)	20(8.1)
近所の人	4(1.6)	26(10.5)
その他	11(4.5)	12(4.9)
助けてもらえる人いない	13(5.3)	11(4.5)
そのような場合はない	57(23.1)	29(11.7)
計	247(100.0)	247(100.0)

子育てにおける援助者を明らかにするには、どのような悩みや問題や状況を想定して援助者を問うのかという問題、回答の選択肢としてどのような項目を用意し、どのように選択してもらうのかという問題など、まだまだ検討する必要がある。

(神原 文子)

## 第7章 少子化と親子関係

最後に、今回の主題である少子化と親子関係との関連について、ミクロレベルでの個々の 家族において期待される子ども数や予定の子ども数がマクロレベルでの全体社会の少子化と どのような関わりがあるのかを検討しよう。また、回答者における少子化の子育てへの影響 についての評価や少子化への対策についての考え方についても傾向を探ることにする。

#### 1 期待される子ども数と予定の子ども数

表7-1-1は、回答者の理想とする子ども数を集計したものであり(問6)、表7-1-2は、予定の子ども数を集計したものである(問7)。

理想の子ども数については男女の間に有意な差はなく、子ども3人が5割程度と最も多く、 次いで子ども2人が4割程度になっている。子ども1人や、子ども5人以上を理想とする人 は極めて少数である。

予定の子ども数についても男女の間に有意な差はなく、子ども2人が5割を超え、子ども3人は4割に充たない。4人以上の子ども数を予定している人は極めて少ない。

単純に計算すると、回答者のおよそ4人に1人くらいは、理想の子ども数より予定の子ども数が1人少ないことになる。

表7-1-1	理想の	子ども数
--------	-----	------

		1人	2人	3人	4人		5 /	以上	計
男性	3(	2.9)	38(36.5)	52( 50.0)	7(6	3. 7)	4(	3.8)	104 (100. 0)
女性	3(	2.1)	60(42.6)	67(47.5)	9(6	3.4)	2(	1.4)	141 (100.0)
ät	6(	2.4)	98(40.0)	119(48.6)	16( 6	5. 5)	6(	2.4)	245 (100.0)

表7-1-2 予定の子ども数

		l 人	2人	3人	4人	5人以上	計
男性	7(	6.7)	55(52.4)	40(38.1)	1(1.0)	2(1.9)	105 (100.0)
女性	9(	6.4)	81 (57.4)	48(34.0)	3(2.1)	0( 0.0)	141 (100.0)
計	16(	6.5)	136(55.3)	88(35.8)	4(1.6)	2( 0.8)	246(100.0)

理想の子ども数と予定の子ども数について、回答者の年齢階級別にさらに詳しくみてみよう。表7-1-3は、性別・年齢別にみた理想の子ども数を示したものであり、表7-1-4は、性別・年齢別にみた予定の子ども数を示したものである。

表7-1-3 性別・年齢別にみた理想の子ども数

	1	人	2人	3人	4人	5人以上	計
<男性>							
30~34歳	0(	0.0)	1(25.0)	3(75.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)
35~39歳	2(	9.1)	9(40.9)	9(40.9)	1 (4.5)	1 ( 4.5)	22(100.0)
40~44歳	0(	0.0)	12(31.6)	22(57.9)	1(2.6)	3(7.9)	38(100.0)
45~49歳	1(	2.5)	16(40.0)	18(45.0)	5(12.5)	0( 0.0)	40(100.0)
計	3(	2.9)	38(36.5)	52(50.0)	7(6.7)	4(3.8)	104 (100.0)
<女性>							
30~34歳	0(	0.0)	7(43.8)	8(50.0)	1 (6.3)	0(0.0)	16(100.0)
35~39歳	1(	2.1)	20(42.6)	23(48.9)	2(4.3)	1(2.1)	47 (100.0)
40~44歳	1(	2.1)	21(43.8)	23(47.9)	2(4.2)	1(2.1)	48(100.0)
45~49歳	1(	3.3)	12(40.0)	13(43.3)	4(13.3)	0( 0.0)	30(100.0)
計	3 (	2.1)	60(42.6)	67 (47.5)	9(6.4)	2(1.4)	141 (100. 0)

表7-1-4 性別・年齢別でみた予定の子ども数

	1人	2人	3人	4人	5人以上	計
<男性>						
30~34歳	0(0.0)	1(25.0)	3(75.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)
35~39歳	4(18.2)	9(40.9)	7(31.8)	1(4.5)	1 ( 4.5)	22(100.0)
40~44歳	2(5.3)	21(55.3)	14(36.8)	0(0.0)	1(2.6)	38(100.0)
45~49歳	1(2.4)	24(58.5)	16(39.0)	0 ( 0.0)	0(0.0)	41 (100.0)
計	7(6.7)	55(52.4)	40(38.1)	1(1.0)	2( 1.9)	105 (100.0)
<女性>						
30~34歳	1(6.3)	12( 75.0)	3(18.8)	0(0.0)	0(0.0)	16(100.0)
35~39歳	2(4.3)	29(61.7)	15(31.9)	1(2.1)	0(0.0)	47 (100. 0)
40~44歳	2(4.2)	28(58.3)	17(35.4)	1(2.1)	0(0.0)	48(100.0)
45~49歳	4(13.3)	12( 40.0)	13(43.3)	1(3.3)	0(0.0)	30(100.0)
計	9(6.4)	81 (57.4)	48(34.0)	3(2.1)	0(0.0)	141 (100.0)

男女とも実数の少ない30~34歳を除くと、理想の子ども数について、男女とも、年齢 による有意な差はみられない。しかし、予定の子ども数についてみると、男性の場合、年齢 が下がるほど、数パーセントずつ子ども2人と子ども3人が減少し、子ども1人が増加していることがわかる。また、女性の場合には、年齢が下がるに連れ、子ども3人が徐々に減少し子ども2人が増加している。これらのデータは、少子化をもたらしている要因として、未婚化や結婚年齢の上昇(晩婚化)以外に、既婚男女における予定子ども数の減少傾向も一因であることを示唆している。

このように、予定子ども数の少数化が現実に進行しているとすれば、生まれる子どもの性 別にたいする関心や期待もそれだけ大きくなることも予想される。

そこで、子どもを1人だけ持つ場合を仮定して、希望する子どもの性別を尋ねてまとめた ものが、表7-1-5である。

これによると、「どちらでもよかった」という比率は男女とも36%で差はないが、男性では、男子の希望が41%で最も高く、女性では女子の希望が48%で最も高くなっている。男女ともに自分と同性の子どもを望む傾向が強いようである。このような傾向は、将来的に自分にとって何かと都合がよいという自分本位的な理由によるものと推察できる。

先に示したように、今回の回答者のようにすでに子どもをもっている男女が、子どもを持ち育てることの意味を、家のためや夫婦のためというよりも自分のためと考えているだけでなく、期待する子どもの性別についても自分本位的な考え方をもっているということは、これから子どもを持つ可能性のある人びとにおいても、自分にとって意味を見いだせなければ子どもを持とうとはしないし、無理をしてまで子どもを持とうとはしないということを予想させるものである。

表7-1-5 欲しい子どもの性	生別	の	Ł	بح	<b>f</b>	V١	し	欲	-5	7-]	表
-----------------	----	---	---	----	----------	----	---	---	----	-----	---

欲しい子どもの性別	男性	女性	<b>ā</b> †
男の子	43(41.0)	24( 17.0)	67(27.2)
女の子	43(22.9)	67(47.5)	91 (37.0)
どちらでもよかった	38(36.2)	50(35.5)	88(35.8)
計	105 (100.0)	141 (100.0)	246(100.0)

#### 2 子育てへの少子化の影響と期待される対策

表7-2-1は、子育てにたいして少子化がどのような影響を及ぼしうると考えているかについて回答を求めたものである(問40)。

男女の間に統計的な有意差はなく、男女ともに60%弱が、「子どもへの過保護、過干渉」をあげている。この選択肢以外で選択されているものの比率はかなり低いが、「子どもへの期待が大きくなる」「親離れ、子離れが難しくなる」など、総じて、少子化によるマイナスの影響に関心があるようである。「経済的な負担が少なくなる」「子育ての期間が短くなって、親自身の時間が多くなる」といったプラスの影響は10%弱しか支持されていない。

ただし、この設問については、選択肢のなかからひとつだけ選んでもらったために、多く

の人びとの選択が、一番はじめの選択肢である「子どもへの過保護・過干渉」に集中したもようである。少なくとも、多肢選択質問にすべきであった。

表7-2-1 少子化による影響

	男性	女性	計
子どもへの過保護、過干渉	62(59.0)	83( 59.3)	145(59.2)
子どもへの期待が大きくなる	14(13.3)	17(12.1)	31 (12.7)
親離れ、子離れが難しい	12(11.4)	25(17.9)	37(15.1)
親子の心理的距離近くなる	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
経済的負担が少なくなる	5(4.8)	5(3.6)	10(4.1)
子育ての期間が短くなる	4(3.8)	7(5.0)	11(4.5)
その他	1(1.0)	1(0.7)	2(0.8)
特にない	7(6.7)	2(1.4)	9(3.7)
計	105(100.0)	140(100.0)	245 (100.0)

次に、表7-2-2は、人びとが、理想の人数の子どもをもてるようになるために必要と考える 環境整備についてまとめたものである(問41)。

これによると、男性の場合、「保育費や教育費を大幅に引き下げる」(46.2%)がもっとも高く、以下、「ゆとりのある住宅政策を推し進める」(42.5%)、「出産・育児をする女性が不利にならない、職場環境を整備する」(36.8%)、「進学競争に偏重した教育の在り方を、抜本的に見直す」(36.8%)、「児童手当などを大きく引き上げる」(25.5%)、などが続いている。

一方、女性の場合、「保育費や教育費を大幅に引き下げる」(51.8%)が最も高く、以下、「出産・育児をする女性が不利にならない、職場環境を整備する」(50.4%)、「進学競争に偏重した教育の在り方を、抜本的に見直す」(45.4%)、「ゆとりのある住宅政策を推し進める」(34.8%)、「父親も育児休業取得や家事分担ができるように職場環境を整備する」(22.0%)、などが続いている。

男女を比較すると、11項目中2項目で統計的な有意差が見られる。すなわち、「将来の 社会の担い手である子どもを生み育てる社会的意義を啓発する」という施策は、男性の支持 率が高い。「出産・育児をする女性が不利にならない、職場環境を整備する」という施策は、 女性の支持率が高い。

回答者の多くが子どもをもつのは自分のためと考えているにもかかわらず、現実には、半数以上が子どもの進学や進路に悩んでおり、3分の1は教育費の高さに問題を感じているというだけでなく、大半が何らかの理由で子育てのしんどさを感じている状況が、表7-2-2のような、行政や社会にたいする環境整備へのニーズの多様さや高さに反映されているものと解釈することができる。

表7-2-2 理想の人数の子どもをもてるために期待される環境整備

	男性	女性	計	
保育費・教育費の大幅引き下げ	49(46.2)	73(51.8)	122(49.4)	
子育て期の親の労働時間短縮	7(6.6)	13(9.2)	20(8.1)	
出産・育児の職場環境整備	39(36.8)	71 (50.4)	110(44.5)	*
父親の育児休業・家事分担支援	14(13.2)	31 (22.0)	45(18.2)	
児童手当などの引き上げ	27(25.5)	27(19.1)	54(21.9)	
子どものための生活環境の改善	18( 17. 0)	26(18.4)	44(17.8)	
進学競争に偏重した教育見直し	39(36.8)	64(45.4)	103(41.7)	
ゆとりある住宅政策の推進	45(42.5)	49(34.8)	94(38.1)	
公的な家族支援センターの設置	3(2.8)	2(1.4)	5(2.0)	
子育ての社会的意義を啓発	18( 17.0)	8(5.7)	26(10.5)	**
子育ての楽しさを伝える。	16(15.1)	15(10.6)	31 (12.6)	
その他	3(2.8)	5(3.5)	8(3.2)	
特にない	2(1.9)	3(2.1)	5(2.0)	

p<0.01 \*\* p<0.05 \*

(神原 文子)

### むすびにかえて

#### 1 今後の分析課題

今回の報告書では、回答者の性別や年代別、子どもの性別や年代別を軸にしたクロス集計結果について概説したにすぎない。社会階層的な属性と親子関係との関連、親子の相互関係と子育て意識との関連、夫婦関係と親子関係との関連など、さらに詳細な分析を行えば、現代の親子関係について、興味深い知見を得ることができるものと期待される。また、子どもの出生順の違いをみるだけではなく、すべての子どもを年齢の違いによって再コード化し、親子関係の実態をより詳しく検討することも必要な分析課題と言える。今回のデータが、今後さらに有効活用されることを大いに期待したい。

最後に、今回の分析においては、畠中宗一氏と私とで分担したが、事前に充分な打ち合わせができなかったため、分析の仕方や執筆の仕方など不統一な点があるが、あえて統一しなかったことをお断りしておきたい。

#### 2 質問項目についての検討課題

- ①今回の調査票は15ページにもおよび、調査に協力していただいた方々にはかなりの負担 をかけてしまった。回収率の低さは、このボリュームの多さも一因であるかもしれない。
- ②子育て行動を問ううえで、焦点となる子どもを決めて、その子どもについて詳細なデータを得ることも考えたが、焦点となる子どもをどのように決めるかという点で判断がつかなかったために、今回はこの方法を採らなかった。しかし、すべての子どもについて回答を求めるという今回の方法は興味深い知見も得られて有効ではあった。ただ、本調査においてもすべての子どもについて回答を求めるとなると、相当に質問項目を限定せざるをえない。
- ③問3で、一緒に住んでいる家族については問うているが、別居している家族については 問うていない。別居家族用の質問項目について、さらに検討が必要である。
- ④問8では、子どもの在学年を実数値で回答を求めているが、集計段階では、就学年数に変換する必要がある。就学年数を聞いたほうがよかったかもしれない。
- ⑤問29から問31の子育ての悩みや問題については、対象とする子どもを限定したり、問題状況を限定して、子育て支援関係を捉えたかったができなかった。
- ⑥問10、問27、問28、問32、問33、問34、問35、問36、問37、問38、問39など、子育ての意識や態度に関する質問項目が非常に多いが、今回の調査結果をもとに、本調査で採用する項目を絞るための資料としては有効であったと思われる。
- ⑦複数回答の質問項目では、回答数を限定するよりも、あてはまるものすべてを選んでもら うほうが実態を把握するにはふさわしいように思われる。

(神原 文子)

<付録:調査票および単純集計>

## 少子化と親子関係に関する調査

- 〈ご記入に際してのお願い〉 ――

(1) この調査は、

様に、ご記入をお願いします。

- (2) 回答は、あてはまる番号または記号を○印で囲むか、数字をご記入ください。
- (3) ご記入は、質問の番号や矢印(→)の指示にそってお願いします。
- (4) ご記入は、鉛筆または、黒、青のペン、ボールペンでお願いします。
- (5) 回答に迷う場合は、あなた様のお気持ち・お考えにできるだけ近い回答を選ぶようにして下 さい。
- (6) 本調査に関する疑問、不明な点がありましたら、調査員もしくは下記調査実施機関までお問 い合わせ下さい。

## 【回収日時】

月 時頃に、回収にお伺いします。

それまでにご記入くださいますよう、お願い申しあげます。

〈調査主体〉 日本家族社会学会 全国家族調査委員会 委員長 慶応義塾大学 渡辺 秀樹 文学部教授

〈調査企画責任者〉 相愛大学 人文学部教授 神 原 文 子

〈調査実施〉 社団法人 新情報センター

> 〒150 渋谷区恵比寿1-13-6 TEL 03-3473-8833

> > 担当: 利 光·菅 野

はじめにあなたご自身のことについて、おうかがいします。

問1 あなたの性別は…。(○は1つ)

 男性
 女性

 106(42.9)
 141(57.1)

問2 あなたのお歳は、満何歳ですか。

30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	
20( 8.	1) 69(27.9)	87(35.2)	71 (28.7)	

あなたのご家族についておうかがいします。

問3 現在、あなたが一緒に住んでいるご家族は、どなたですか。この中から、一緒に住んでいる方をすべてお答えください。(〇はいくつでも)

1	配偶者	237( 96.0)	7	あなた自身のきょうだい	5( 2.	. 0)
2	子ども	247 (100.0)	8	祖父	0	
3	あなた自身の父親	25(10.1)	9	祖母	3(1,	2)
4	あなた自身の母親	25(10.1)	10	その他の親族	5( 2.	0)
5	配偶者の父親	19(7.1)	1 1	その他(	1( 0.	4)
6	配偶者の母親	26(10.5)				

問4 あなたと配偶者の方の関係について、あてはまるものを1つお答えください。(○は1つ)

1 2	婚姻届を出した、法律婚である 婚姻届を出していない、事実婚である	236 (95.5) 1 (0.4)	
3	死別した	3(1.2)	
4	離婚した	7( 2.8)	

問5 あなたにはお子さんが何人いらっしゃいますか。

	1人	2人	3人	4人	なし	
男	103(41.7)	75(30.4)	14(5.7)	1(0.4)	54(21.9)	
女	105(42.5)	62 (25. 1)	13(5.3)	1(0.4)	66(26.7)	

問6 あなたが、欲しいと思う(思った)理想の子どもの数は何人ですか。

1人	2人	3人	4人	5人以上
6( 2.4)	98(39.7)	119(48.2)	16(6.5)	6(2.4)

問7 では、あなたが最終的に持つと思う(持った)子どもの数は何人ですか。

1人	2人	3人	4人	5人以上
16(6.5)	136(55.1)	88(35.6)	4(1.6)	2(0.8)

問8 あなたのすべてのお子さんについて、それぞれ下の表にお答えください。お子さんが5人以上いらっしゃる場合は、上の4人のお子さんについてお答えください。

	性	別	年 齢	同・	别怎	<b></b>				就当	と・就労	•		
							未	小	中	高	高	大	学	学
			1				就	学	学	等	専	学	卒	卒
	男	女		同居	1 5	別居	学	校	校	学	短	•	有	無
			平均		٠.					校	大	院	職	職
第一子	(54.7)	( 45.3)	13.0歳	( 97.6	3)(	2.4	( 0.0	)) (45.	3) (24.	7) (18	.2)(1.	2) ( 5. 7)	( 4.0)	( 0.8)
274人														
第二子	( 50. 9)	(49.1)	9.9歳	( 99.6	3) (	0.4	(20. 6	3) (49.	1) (21.	9) (5	. 3) ( 0.	4) ( 0.9)	(1.3)	( 0.4)
228人														
第三子	(49.4)	( 50. 6)	7.3歳	(100.0	))(	0.0	(44. 9	) (40. ·	4) (13.	5) (1	1)(0.	0) ( 0.0)	( 0.0)	(0.0)
89人														
第四子	( 50. 0)	( 50.0)	5.2歳	(100.0	))(	0.0	(66. 7	7) (33.	3) ( 0.	0)(0	.0)(0.	0) ( 0.0)	( 0.0)	(0.0)
6人						•								

まず、あなたご自身と親ごさんとの親子関係についておうかがいします。

問9 あなたご自身は何人きょうだいでしたか。あなた以外のきょうだいの人数を、男女別にお答えくだ さい。

	1人	2人	3人	4人	5人以上	なし
男	98(39.7)	40(16.2)	11 ( 4.5)	5(2.0)	4(1.6)	88(35.6)
女	95(38.5)	51 (20. 6)	15(6.1)	4(1.6)	2( 0.8)	79(32.0)

問10 あなたご自身が小・中学生の頃、ご両親はあなたに、特にどんなことを身につけてほしいと考えていらっしゃったと思いますか。次の中から主なものを3つまでお答えください。〇は3つまで

1	学力	83(33.6)	1 1	責任感	90(36.4)
2	家事能力	17(6.9)	12	友だちを大事にする	28(11.3)
3	忍耐強さ	43(17.4)	13	弱い立場の人を助ける	10(4.0)
4	努 力	55(22.3)	14	社交性	11 ( 4.5)
5	正直さ	51 (20.6)	15	明るさ	28(11.3)
6	思いやり	84(34.0)	16	礼儀	94(38.1)
7	素直さ	59(23.9)	17	平等意識	5(2.0)
8	自分の意見を持つこと	17(6.9)	18	その他(	7(2.8)
9	チャレンジ精神	9(3.6)	19	特にない	5(2.0)
0	お金の使い方や管理	19(7.7)			
L					

<男性>責任感(41.5) 学力(35.8) 礼儀(29.2) 忍耐強さ(23.6) 努力(22.6) 正直(22.6) 思いやり(22.6)

<女性>礼儀(44.7) 思いやり(42.6) 責任感(32.6) 学力(31.9) 素直さ(29.1)

次に、あなたご自身と配偶者の方について、おうかがいします。

問11 あなたと配偶者の方が、最後に行かれた(現在通っている)学校はどれですか。中退された場合 も、卒業としてお答えください。(○は1つずつ)

	くあなたこ	ご自身>	<配偶者	の方>
	男性・106人	女性・141人	夫・132人	妻・105人
中学校	(1.9)	( 2.1)	(5.3)	( 2.9)
高等学校	(31.1)	(35.8)	(27.3)	(36.2)
専 <b>修</b> 学校	(11.3)	(14.2)	(7.6)	(28.6)
高専・短大	(1.9)	( 27. 0)	(53.8)	(28.6)
大学・大学院	(51.9)	( 22. 0)	(53.8)	(19.0)
その他	(1.0)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)

問12 あなたと配偶者の方は、現在働いていらっしゃいますか。育児休業等で休職中の方も、休職前 のことについてお答えください。 (○は1つずつ)

	くあなた	ご自身>	<配偶者	の方>
	男性・106人	女性・141人	夫・132人	妻・105人
自営業主・自由業	(28.3)	(9.2)	(21.2)	(6.7)
家族従業者	(1.9)	(11.3)	( 2.3)	(13.3)
常勤の勤め人	(68.9)	(21.3)	(75.0)	(19.0)
非常勤の勤め人	( 0.9)	(14.2)	( 0.0)	(16.2)
派遣社員	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)
内 職	(0.0)	(3.5)	( 0.0)	( 0.0)
学 生	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)
無職	( 0.0)	(40.4)	( 0.0)	(44.8)

【問12で「1」~「6」と答えた、働いている方におうかがいします。】

問12-1 あなたと配偶者の方の、具体的な職業は何ですか。次の中から1つずつお答えください。

			· (O)	ましつずつ
	<b>くあ</b> り	なたご自身>	<配偶者	の方>
	男性・106人	女性・ 84人	夫・130人	妻・58
専門的・技術的職業(研究者、技術者、医師、	(18.9)	(21.4)	(18.5)	( 24.1)
看護婦、法律家、芸術家、マスコミ関係者など)				
管理的職業(課長以上の管理職)	(30.2)	(4.8)	(28.5)	(1.7)
事務的職業(事務員、集金人、計算機、通信機、	(7.5)	(28.6)	(12.3)	(27.6)
交換機などの操作員)	•			
販売的職業(店主、店員、外交員など)	(13.2)	(20.2)	(8.5)	(17.2)
サービス的職業(理容・美容師、クリーニング、	(9.4)	( 6.0)	(7.7)	(10.3)
給仕、接客、清掃など)				
保安的職業(警察官、消防官、自衛官、ガードマン)	( 0.0)	( 0.0)	(1.5)	( 0.0)
技能労働者(製造、修理、建築運輸工程など)	(18.9)	(4.8)	(16.9)	(10.3)
一般作業員(採掘・建設・土木単純作業など)	( 0.0)	( 0.0)	(1.5)	( 0.0)
その他	(1.9)	(13.1)	( 2.3)	( 5.2)

## 【全員の方におうかがいします。】

問13 あなたと配偶者の方の、それぞれの昨年一年間の収入(税込)はおよそいくらでしたか。 (○は1つずつ)

	<あなたご自身>	<配偶者の方>
	男性・106人 女性・141人	夫・132人 妻・105人
なし	( 0.0) ( 32.6)	( 0.0) ( 36.2)
50万円未満	( 0.0) ( 9.2)	( 0.8) ( 6.7)
50~100万円未満	( 0.0) ( 12.8)	( 0.8) (11.4)
100~200万円未満	(2.8) $(7.1)$	( 0.8) ( 9.5)
200~400万円未満	(11.3) (9.2)	(6.1) $(7.6)$
400~600万円未満	(20.8) (9.9)	(28.0) (10.5)
600~800万円未満	(26.4) (2.1)	(25.8) (3.8)
800~1,000万円未満	(13.2) (0.7)	(15.2) (0.0)
1,000~1,200万円未満	(9.4) (0.7)	( 3.8) ( 0.0)
1,200~1,400万円未満	(3.8) (0.7)	( 3.8) ( 0.0)
1, 400~1, 600万円未満	( 2.8) ( 0.0)	( 0.0) ( 0.0)
1,600~1,800万円未満	( 0.9) ( 0.0)	( 0.0) ( 0.0)
1,800~2,000万円未満	( 0.0) ( 0.0)	( 0.0) ( 0.0)
2,000万円以上	(1.9) (1.4)	(1.5) (0.0)
わからない	( 3.8) ( 2.8)	(4.5) (2.9)
NA	(7.3)	( 8.0)

問14 平日、あなたが、配偶者の方と、一緒に過ごす時間はどれくらいですか。睡眠時間は除いて平均的な時間を1つお答えください。( $\bigcirc$ は1つ) N=237

0 2 0時間(50 10 11.0) 0 3時間以上 20(3.1)	2	2	ほとんどない 1時間くらい 2~3時間くらい	43(18.1)	5	4~5時間くらい 6~8時間くらい 9時間以上	63(26.6) 14(5.9) 23(9.7)	
-------------------------------------	---	---	------------------------------	----------	---	-------------------------------	--------------------------------	--

問15 では、普段、あなたは配偶者の方とどのくらい話をしますか。( $\bigcirc$ は1つ)

N = 237

2	毎日よく話す 毎日何かしら話す	59(23.9) 138(55.9)	あまり話さない 配偶者はいない	 6. 1) 4. 0)	問16个
3	話さない日もある	17( 6.9)			
4	週に2~3日話す	6(2.4)			

【問15で「1」~「4」と答えた、配偶者の方と週に2~3日以上話をする方におうかがいします。】 問15-1 会話の内容はどんなことについてですか。次の中から主なものを2つまでお答えください。 (○は2つまで

N=220	1	子どものこと	(72.3)	4	仕事のこと	( 35. 5)
	2	夫婦のこと	(3.6)	5	世の中の出来ごとのこと	(40.5)
	3	家族全体のこと	(39.5)	6	その他(	( 2.7)

問16 では、あなたは次のことについて、配偶者とどの程度話し合いをしましたか。 $a\sim c$ のそれぞれ についてお答えください。( $\bigcirc$ は1つずつ) N=237

		よく話し合った	ある程度 話し合った	あまり話し合わず 夫の考えで	あまり話し合わず 妻の考えで
a	子どもを産む数	38(15.4)	134(54.3)	28(11.3)	32 (13.0)
b	避妊の方法	33(13.4)	117(47.4)	47(19.0)	26(10.5)
c	子どもを産む間隔	30(12.1)	122(49.4)	27(10.9)	46(18.6)

問17 あなたは、仮に子どもを1人だけ持つとしたら、男の子と女の子のどちらが欲しいと思っていましたか(思っていますか)。( $\bigcirc$ は1つ)

男の子	女の子	どちらでもよかった (よい)	
67(27.1)	91 (36.8)	88 (35.6)	

住居の状況についておうかがいします。

問18 あなたの住宅は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1	持ち家・一戸建て	117(47.4)	4	民間の賃貸住宅	38	3(	15. 4)
2	持ち家・集合住宅	58(23.5)	5	社宅・公務員住宅等の給与住宅	14	1(	5.7)
3	公団・公社・公営等の賃貸住宅	色 13( 5.3)	6	その他(	) (	3(	2.4)
							İ

問19 お宅の子ども部屋の状況はいかがですか。次の中からあてはまるものを1つお答えください。 (○は1つ)

2	子ども1人ずつに部屋がある(ひとりっ子の場合を含む) 子ども部屋を他の子と共有で使っている子と、個室を持っている子がいる 全員で使っている子ども部屋が1つある(二人以上) その他(	79( 32.0) 47( 19.0) 85( 34.4) 4( 1.6)
1	子ども部屋はまったくない	31 ( 12. 6)

これから、あなたとお子さんとの親子関係等についておうかがいします。問20~問23までは、それぞれのお子さんについておうかがいします。

一番上のお子さんについておうかがいします。

問20-1 あなたは、普段、一番上のお子さんといっしょに、次の事柄をどの程度していますか。 a  $\sim$  d のそれぞれについてお答えください。 ( $\bigcirc$ は1つずつ)

	N=247	毎日	週2・3回	週1回くらい	月1~3回くらい	めったにない
a	夕食をとる	(57.9)	(25.5)	(10.1)	(1.6)	( 3.2)
b	おしゃべりを楽しむ	(50.6)	(25.5)	(11.7)	( 3.2)	(7.3)
c	趣味やスポーツをする	(3.2)	(10.1)	(16.6)	(23.1)	(45.3)
d	勉強をみる	(11.7)	(13.8)	(11.3)	(10.1)	(50.2)

問20-2 一番上のお子さんが3歳になるまで、昼間、主にそのお子さんの世話はどのようにしましたか。 ( $\bigcirc$ は1つ)

1	あなた自身が世話をした	116(47	7. 0)	6	その他の親族が世話をした	1(	0.4)
2	配偶者が世話をした	89(36	3. 0)	7	保育施設に預けた	32(	13.0)
3	一緒に住んでいる自分や配偶者の親	3(1	. 2)	8	ベビーシッターなどを雇った	1(	0.4)
4	離れて住んでいる自分や配偶者の親	5( 2	2.0)	9	その他(	0	
5	その子のきょうだい	. 0					
L					<u> </u>		

問20-3 一番上のお子さんが3歳になるまで、そのお子さんは主に誰と同じ部屋で寝ていましたか。 ( $\bigcirc$ は1つ)

<ol> <li>1 父と母とその子の3人</li> <li>2 父と母とその子ときょうだい</li> <li>3 母とその子の2人</li> <li>4 母とその子ときょうだい</li> </ol>	179(72.5) 43(17.4) 15(6.1) 5(2.0)	6	その子ときょうだい その子一人 その他(		3(	0. 4) 1. 2) 0. 4)	
--	--	---	----------------------------	--	----	-------------------------	--

二番目のお子さんについておうかがいします。お子さんが一人の場合は、問24へ進んでください。 問21-1 あなたは、普段、二番目のお子さんといっしょに、次の事柄をどの程度していますか。  $a \sim d$ のそれぞれについてお答えください。 ( $\bigcirc$ は1つずつ)

 N=228	毎日	週2・3回	週1回くらい	月1~3回くらい	めったにない
夕食をとる おしゃべりを楽しむ	• • • • • •	( 24.6) ( 25.9)	(8.3)	( 1.8) ( 2.6)	( 1.3) ( 4.4)
趣味やスポーツをする 勉強をみる	( 4.8) ( 8.3)	( 10.5) ( 16.2)	( 19.3) ( 12.7)	( 21.9) ( 11.0)	( 40. 4) ( 48. 7)

間21-2 二番上のお子さんが3歳になるまで、昼間、主にそのお子さんの世話はどのようにしましたか。 ( $\bigcirc$ は1つ)

1	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1107 (0.0)	_	ファルクロサ ドルコナー	1.	0 ()
1	あなた自身が世話をした	110(48.2)	b	その他の親族が世話をした	1 (	0.4)
2	配偶者が世話をした	78(34.2)	7	保育施設に預けた	33(	14.5)
3	一緒に住んでいる自分や配偶者の親	4(1.8)	8	ベビーシッターなどを雇った	1(	0.4)
4	離れて住んでいる自分や配偶者の親	1(0.4)	9	その他(	0	
5	その子のきょうだい	0				

問21-3 二番上のお子さんが3歳になるまで、そのお子さんは主に誰と同じ部屋で寝ていましたか。 ( $\bigcirc$ は1つ)

1	父と母とその子の3人 父と母とその子ときょうだい	19( 8.3) 164( 71.9)		その子ときょうだい その子一人	12 ( 5.3) 1 ( 0.4)
3	母とその子の2人 母とその子ときょうだい	7( 3.1) 25( 11.0)	-	その他(	0

三番目のお子さんについておうかがいします。お子さんが二人の場合は、問24へ進んでください。 問22-1 あなたは、普段、三番目のお子さんといっしょに、次の事柄をどの程度していますか。  $a \sim d$ のそれぞれについてお答えください。 ( $\bigcirc$ は1つずつ)

	N=89	毎日	週2・3回	週1回くらい	月1~3回くらい	めったにない
a	夕食をとる	(65.2)	(25.8)	( 5.6)	(1.1)	( 2.2)
b	おしゃべりを楽しむ	(50.6)	(34.8)	( 2.2)	( 3.4)	(6.7)
c	趣味やスポーツをする	( 9.0)	(10.1)	(18.0)	(19.1)	(39.3)
d	勉強をみる	(10.1)	(12.4)	(11.2)	(10.1)	(50.6)

問22-2 三番上のお子さんが3歳になるまで、昼間、主にそのお子さんの世話はどのようにしましたか。 (○は1つ)

	70.70			()121 2/
1	あなた自身が世話をした	32(36.0) 6	その他の親族が世話をした	0
2	配偶者が世話をした	33(37.1) 7	保育施設に預けた	21 (23.6)
3	一緒に住んでいる自分や配偶者の親	2(2.2)8	ベビーシッターなどを雇った	. 0
4	離れて住んでいる自分や配偶者の親	1( 1.1) 9	その他(	0
5	その子のきょうだい	0		

問22-3 三番上のお子さんが3歳になるまで、そのお子さんは主に誰と同じ部屋で寝ていましたか。 ( $\bigcirc$ は1つ)

1	父と母とその子の3人	33(37.1)	5	その子ときょうだい	3(3.4)
2	父と母とその子ときょうだい	40(44.9)	6	その子一人	0
3	母とその子の2人	5(5.6)	7	その他(	0
4	母とその子ときょうだい	8(9.0)			

四番目のお子さんについておうかがいします。お子さんが三人の場合は、問24へ進んでください。 問23-1 あなたは、普段、四番目のお子さんといっしょに、次の事柄をどの程度していますか。  $a \sim d$ のそれぞれについてお答えください。 ( $\bigcirc$ は1つずつ)

	N=6	毎 日	週2・3回	週1回くらい	月1~3回くらい	めったにない
a	夕食をとる	( 50.0)	( 50.0)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)
b	おしゃべりを楽しむ	(83.3)	(16.7)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)
С	趣味やスポーツをする	(33.3)	( 0.0)	(16.7)	(33.3)	(16.7)
d	勉強をみる	(33.3)	(16.7)	( 0.0)	(16.7)	(16.7)

問23-2 四番目のお子さんが3歳になるまで、昼間、主にそのお子さんの世話はどのようにしましたか。 (○は1つ)

1 2 3 4	あなた自身が世話をした 配偶者が世話をした 一緒に住んでいる自分や配偶者の親 離れて住んでいる自分や配偶者の親	3(50.0)	7 8	その他の親族が世話をした 保育施設に預けた ベビーシッターなどを雇った その他 ( )	0 1(16.7) 0
5	その子のきょうだい	0			

問23-3 四番目のお子さんが3歳になるまで、そのお子さんは主に誰と同じ部屋で寝ていましたか。 ( $\bigcirc$ は1つ)

1	父と母とその子の3人 父と母とその子ときょうだい	0 5(83.3)	_	その子ときょうだい その子一人	0 0	
3	母とその子の2人 母とその子ときょうだい	0 1 ( 16. 7)	7	その他(	0	

## 【全員の方におうかがいします。】

間24 あなたは、お子さんに、ふだんどんな手伝いをさせていますか。それぞれのお子さんについて、 あてはまるものをすべてお答えください。(○はそれぞれ、いくつでも)

	第一子 247人	第二子 228人	第三子 89人	第四子 6人
食事の準備	(31.2)	(34.2)	(29.2)	(16.7)
食事の後片付け	(49.8)	(50.0)	(37.1)	( 50.0)
掃除	(31.6)	(27.6)	(20.2)	(16.7)
買い物やお使い	(53.4)	(41.2)	(25.8)	(16.7)
洗濯(干したり、たたんだり)	(20.6)	(25.4)	(16.9)	(16.7)
家業の手伝い	(7.3)	(7.9)	(6.7)	( 0.0)
お風呂をわかす	( 30. 4)	(21.9)	(18.0)	( 0.0)
ごみ捨て	(31.6)	(30.3)	(22.5)	(16.7)
その他	(5.3)	(4.8)	(5.6)	( 0.0)
特にさせていない	(17.0)	(17.5)	(28.1)	( 0.0)

問25 あなたのお子さんの教育費は、1  $_{\tau}$ 月あたりいくらくらいですか。それぞれのお子さんについてあてはまるものを1つずつお答えください。(〇は1つずつ)

(教育費とは、幼稚園・保育園・学校にかかる費用、塾、おけいこごとの費用など、すべてを含めてください。)

	第一子	第二子	第三子	第四子
	247人	228人	89人	6人
まとんどない	( 5.5)	( 6.1)	(20.2)	(33.3)
1万円未満	(12.6)	(18.4)	(24.7)	(33.3)
1~2万円未満	(17.4)	( 20.6)	(22.5)	( 0.0)
2~4万円未満	(25.5)	( 30.7)	(19.1)	(33.3)
4~6万円未満	(16.2)	(11.8)	(6.7)	( 0.0)
6~8万円未満	(9.3)	(4.8)	(1.1)	( 0.0)
8万円以上	(9.3)	(4.4)	(1.1)	( 0.0)
わからない	(2.8)	( 2.2)	( 3.4)	( 0.0)

では、子育てについてお伺いします。

間26 お宅では、お子さんのしつけや相談相手は主にどなたがなさっていますか。(○は1つ)

夫婦一緒	主に父親	主に母親	その他の家族	特に誰もしていない
139(56.3)	6(2.4)	92(37.2)	4(1.6)	5(2.0)

問27 あなたは、一般的に、小中学生の子どもに対する親の役割として、大切なのは何だと思いますか。 特に大切だと思うことを3つまでお答えください。(○は3つまで)

1 2 3 4 5	経済的に扶養する 身の回りの世話をする 基本的な生活習慣を身につけさせる 暖かい家庭をつくる できるだけ良い教育を受けさせる	14( 5.7) 176( 71.3)	8 9 10	親自身の生き方を示す	73 ( 29. 6) 124 ( 50. 2) 16 ( 6. 5) 35 ( 14. 2) ) 1 ( 0. 4)
5					
6	相談相手になる	47( 19.0)	12	特にない	0

問28 あなたは、お子さんには15歳になるまでに、どんなことを身につけて欲しいと思いますか(思いましたか)。男の子と女の子の場合に分けて、次の中から、主なものを3つまでお答えください。 (○はそれぞれ3つまで)

	FF M.	-1-14-	EI M.	-/ <b>i</b> -l-
	男性	女性	男性	
		の子	女の子	
学 力	(29.2)	(31.9)	(18.9)	(22.0)
家事能力	(0.9)	( 0.7)	(7.5)	(13.5)
忍耐強さ	(20.8)	(13.5)	( 5.7)	(6.4)
タ カ	(24.5)	(25.5)	(17.9)	(17.0)
正直さ	(13.2)	(5.7)	(11.3)	( 5.0)
思いやり	(33.0)	(31.9)	(52.8)	(47.5)
素直さ	(12.3)	(10.6)	(22.6)	(20.6)
自分の意見を持つこと	(24.5)	(37.6)	(17.9)	(28.4)
チャレンジ精神	(12.3)	(12.8)	(1.9)	( 5.7)
お金の適切な使い方や管理	(2.8)	(4.3)	( 3.8)	( 5.7)
責 任 感	(24.8)	(29.8)	(16.0)	(24.8)
友だちを大事にする	(16.0)	(12.1)	(13.2)	(13.5)
弱い立場の人を助ける	(6.6)	( 5.0)	( 3.8)	(6.4)
社 交 性	(3.8)	(5.7)	(4.7)	( 5.0)
明るさ	(6.6)	(4.3)	(18.9)	(7.1)
礼後	(20.8)	(22.7)	(28.3)	(22.7)
平等意識	( 0.9)	( 0.7)	( 0.9)	( 0.0)
その他	( 0.0)	( 0.0)	(0.9)	( 0.0)
特にない	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)	( 0.0)
NA	(17.9)	(14.9)	(17.9)	(15.6)

問29 あなたは、お子さんを育てていく中で、次のような悩みや問題を感じることがありますか。次の中から、いくつでもお答えください。(○はいくつでも)

悩みあり 224(90.7)

1	友人関係		(33.6)
2	進学や進路		(57.1)
3	教育費		( 32.0)
4	学校又は幼稚園に行くのを嫌がること		(6.5)
5	勉強しないこと		(23.1)
6	なかなか親の言うことを聞かないこと		( 20. 2)
7	生活態度や性格など		(37.7)
8	自宅のまわりの環境が悪いこと		( 4.0)
9	非 行		(6.9)
10	病気や障害		(18.6)
11	子どもと一緒に過ごす時間が少ないこと		(13.4)
12	子どものことに関して相談する人がいないこと		(1.6)
13	その他(	)	( 2.0)
1 4	特にない		(9.3)

問30 あなたに、子どもを育てる上での悩みや問題があるとき、主に誰に相談しますか。次の中からいくつでもお答えください。 (○はいくつでも)

5	友人 近所の人	( 4.5)	9 10 11	病院の医師 学校や幼稚園、保育園などの先生 電話相談、カウンセラー 専門機関のカウンセラー その他(	( 0.8) ( 3.2) ( 0.8)
6	職場の人	( 6.5)	12	相談できる人はいない	(1.2)

## 【全員の方におうかがいします。】

問31 次のような場合、あなたは、どなたかに気軽に援助を求めることができますか。a、bのそれ ぞれについてあてはまるものを1つずつお答えください。(○は1つずつ)

	親類	友人 近所の人	その他	助けてもら える人はいない	そのような場 場合はない
a あなた方夫婦が2、3日留守 にする時の子どもの世話	( 60. 7)	( 4.9) ( 1.6)	( 4.5)	( 5.3)	( 23. 1)
b あなた方夫婦の留守中の、 子どもの急病への対応	( 60. 3)	( 8.1) ( 10.5)	( 4.9)	( 4.5)	(11.7)

問32 あなたにとって、子どもを持ち育てるということはどのような意味がありますか。次の中から 主なものを3つまであげてください。(○は3つまで)

1	喜びを与えてくれる	(74.5)
2	自分の夢や理想を実現する	( 2.0)
3	育児によって自分が成長する	(61.1)
4	自分の仕事や人生の励みになる	(61.5)
5	夫婦の絆が強くなる	(33.2)
6	自分の老後をみてもらう	( 0.8)
7	家を継がせる	( 3.6)
8	結婚したら子どもを持つのは当たり前である	( 8.9)
9	子どもを持って初めて社会的に認められる	(8.5)
10	その他(	( 0.4)
1 1	特に意味はない	(1.6)

問33 あなたが、生活の中で大切にしている部分は、次の中のどれでしょうか。1番目に大切にしているものと、2番目に大切にしているものをそれぞれ選び、箱の中に番号を記入してください。

		1番目	2番目
(1)	父親・母親としての生活	(62.8)	(19.5)
(2)	夫・妻としての生活	(17.0)	(33.2)
(3)	自分の親に対しての息子・娘としての生活	( 2.4)	(7.5)
(4)	職業人としての生活	(8.5)	(16.6)
(5)	地域活動など社会人としての生活	( 2.0)	(4.6)
(6)	趣味などを中心にした個人としての生活	( 3.2)	(14.1)
(7)	その他(	(1.6)	( 0.4)
(8)	特にない	(1.6)	( 2.1)

問34 あなたは、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか(思いましたか。) 男の子と女の子の場合に分けてお答えください。どちらか一方しかお子さんがいない場合は、仮 定としてお答えください。(○は1つずつ)

	<男性><女性>	<男性><女性>
	男の子の場合	女の子の場合
中学校	( 0.0) ( 0.7)	( 0,0) ( 0.7)
高等学校	(5.7) (3.5)	(10.4) (4.3)
短大・高専	(4.7) (2.1)	(20.8) (21.3)
大学	(58.5) (59.6)	(34.0) (36.2)
大学院	( 3.8) ( 5.0)	(3.8) (3.5)
その他	( 0.0) ( 0.7)	( 0.9) ( 0.7)
その子の意志に任せる	(17.0) (24.1)	(23.6) (28.4)
NA	(10.4) (4.3)	(6.6) (5.0)

問35 あなたは、子育てやお子さんとの関係などについてどのように感じていますか。  $a\sim i$  のそれ ぞれの事柄についてお答えください。( $\bigcirc$ は1つずつ)

		そう思う	そうは思わない	どちらとも いえない
а.	子どもはどんな時でも、自分を頼りに思っている	( 63. 2)	( 10.5)	( 25. 9)
b	子どもに尊敬されていると思う	(33.2)	(13.8)	(52.2)
С	子どもとは、友だちのように付き合っている	(41.3)	(28.3)	( 30.0)
d	子どもとともに、自分も成長していると思う	(76.5)	( 5.7)	(17.8)
е	子どもは、自分の生きがいである	(61.5)	(13.0)	(25.5)
f	子どもの育て方について自信がもてない	(9.7)	(53.4)	(36.8)
g	子どもの気持ちがよくわからない	(6.9)	(61.9)	( 30.8)
h	子育ては、楽しいことよりも苦労の方が多い	(16.6)	(54.7)	(28.7)
i	子どもがわずらわしく、イライラすることが多い	(4.5)	(70.0)	(25.5)

【最後に、日常生活や子どもをめぐる社会の動きなどについておうかがいします】 問36 あなたは、現在、次のa~1のそれぞれの事柄についてどの程度満足していますか。

		非常に満足	どちらかと	どちらかと	非常に不満	どちらと
			いえば満足	いえば不満		いえない
a	自分自身の生き方について	( 8.5)	( 59. 1)	(17.8)	( 1.6)	( 12. 1)
b	自分自身の仕事について	(6.5)	(47.8)	(17.0)	(2.4)	(23.5)
С	子どもの成績について	(10.1)	(53.4)	(17.4)	(3.2)	(15.8)
d	子どもの生活 <b>態</b> 度について	(8.1)	(57.5)	(23.1)	(1.6)	(9.3)
е	子どもとの関係全般について	(18.6)	(60.7)	(6.5)	( 0.4)	(13.0)
f	配偶者のあなたに対する理解度 N=237	( 20.7)	(49.4)	(13.1)	( 5.5)	(11.4)
g	配偶者の子育てや子どもとの 関わり方について N=237	(16.5)	(53.2)	(16.5)	( 4.6)	( 9.3)
h	配偶者との家事分担について N=237	(18.6)	(43.0)	( 15.6)	(7.2)	(15.6)
i	夫婦関係全般について N=237	(17.3)	(56.5)	( 8.9)	(4.2)	(12.7)
j	あなた自身の親や親族との関わり	(12.6)	(63.2)	(9.3)	(1.6)	(12.6)
k	配偶者の親や親族との関わり N=237	(10.5)	(56.5)	(11.0)	( 3.8)	(17.3)
1	暮らしの経済面について	(6.5)	(43.7)	(21.5)	(10.9)	(17.4)

問37 親子関係についての次のような意見にあなたは賛成ですか、反対ですか。a~hのそれぞれの意見についてあなたのお考えをお聞かせください。(○は1つずつ)

-		賛成	まあ賛成	やや反対	反対
a	家事や育児には、男性より女性が適している	( 23. 1)	( 52. 6)	( 17. 0)	( 7.3)
b	女の子は学校の成績に関係なく、気立てが よければよい	( 8.9)	( 36.8)	( 32.0)	(21.1)
С	3歳になるまでは、他の人間でなく母親が、そば にいてやることが、子どもの成長には大切だ	(63.6)	( 25. 1)	(7.3)	( 2.8)
d	子どもを持たない人生よりも、子どもを持った ほうがよい	(70.0)	( 23. 9)	( 4.0)	( 2.0)
е	子どものためなら、親は自分のことを <b>犠牲</b> に しても仕方がない	(19.8)	(48.6)	( 26. 3)	( 5.3)
f	子どもがいても、夫婦関係がうまくいかなく なれば、離婚するのもやむを得ない	(18.2)	(44.5)	( 25. 5)	(11.3)
g	親が経済的に苦しかったら、成人した子どもは、 親に経済的援助をするべきだ	(12.1)	(51.4)	( 24. 3)	( 10.9)
h	これからの親は、身体が不自由になっても、 可能な限り自立をすべきだ	(40.1)	(45.3)	(13.8)	( 0.8)

問38 あなたは、お子さんに将来どのようなことをしてあげたいと思いますか。次の中から、主なものを3つまでお答えください。(○は3つまで)

1	就職先をさがす手助けをする	(18.2)
2	就職後も身の回りの世話をする	(4.9)
3	結婚相手をさがす手助けをする	( 5.7)
4	結婚資金を出す	(23.9)
5	結婚した後も、時には生活費を援助する	( 8.9)
6	孫の世話をしたり、孫のためにお金を出す	(41.3)
7	家を買ったり建てたりする時はお金を出す	(13.8)
8	遺産をのこす	( 9.3)
9	その他(	( 5.7)
10	特にない	( 32. 0)
		·

問39 次のライフスタイルの中で、あなたが親として、お子さんにはしてほしくないと思うものはどれでしょうか。次の中からいくつでもお答えください。(○はいくつでも)

	4000 0 700 000 10 500	うしるる方へ	(/CC1/6 (Olati-1 > CO)	
1	一生独身でいる	(34.7) 8	結婚しても子どもを持たない	(31.6)
2	未婚で性関係を持つ	(19.4) 9	養子など血縁関係のない子どもを育てる	(14.2)
3	婚姻届を出さずに同棲する	(27.9)10	同性愛カップルで共同生活する	( 78. 9)
4	未婚で子どもを持つ	(57.1)11	結婚相手の親と同居する	(10.5)
5	離婚歴のある相手と結婚する	(13.4)12	子どもを持って、離婚する	(37.2)
6	外国人と結婚する	(15.8)13	その他(	( 0.0)
7	仕事の関係で夫婦が別居する	(25.9)14	特にない	(7.7)

問40 近年、子どもの数が減少する少子化の傾向があります。あなたは、こういった少子化は親子関係に、どんな影響を与えると思いますか。次の中から、最も影響があると思われるものを1つお答えください。(○は1つ)

2 子どもへの期待が大きくなりすぎる (12.6) 3 お互いに依存しあって、親離れ、子離れするのが難しくなる (15.0) 4 心理的な親子の距離が近くなり、お互いにわかり合えるようになる (0.0) 5 経済的な負担が少なくなる (4.0) 6 子育ての期間が短くなって、親自身の時間が多く持てるようになる (4.5)	1		( 58. 7)
4 心理的な親子の距離が近くなり、お互いにわかり合えるようになる (0.0) 5 経済的な負担が少なくなる (4.0) 6 子育ての期間が短くなって、親自身の時間が多く持てるようになる (4.5)	2		•
5 経済的な負担が少なくなる (4.0) 6 子育ての期間が短くなって、親自身の時間が多く持てるようになる (4.5)	3	お互いに依存しあって、親離れ、子離れするのが難しくなる	(15.0)
6 子育ての期間が短くなって、親自身の時間が多く持てるようになる (4.5)	4	心理的な親子の距離が近くなり、お互いにわかり合えるようになる	( 0.0)
	5	経済的な負担が少なくなる	( 4.0)
	6	子育ての期間が短くなって、親自身の時間が多く持てるようになる	(4.5)
7 その他 ( 0.8)	7	その他 ( )	( 0.8)
8 特にない (3.6)	8	特にない	( 3.6)

問41 今後、人々が理想通りか、理想の人数以上の子どもを持てるようになるためには、行政や社会に、どのような環境整備が求められると思いますか。次の中から主なものを3つまでお答えください。 (○は3つまで)

1	保育費や教育費を大幅に引き下げる	(49.4)
2	育て期の親の労働時間を短くする	( 8.1)
3	出産・育児をする女性が不利にならない、職場環境を整備する	(44.5)
4	父親も育児休業取得や家事分担ができるように職場環境を整備する	(18.2)
5	児童手当などを大きく引き上げる	(21.9)
6	子どもにとって有害な生活環境をなくす取り組みをする	(17.8)
7	進学競争に偏重した教育の在り方を、抜本的に見直す	(41.7)
8	ゆとりのある住宅政策を推し進める	(38.1)
9	親子、夫婦間の問題を相談したり、解決を支援してもらえるような公的な	( 2.0)
	家族支援センターを設置する	
10	将来の社会の担い手である子どもを生み育てる社会的意義を啓発する	(10.5)
11	子育てが楽しく、創造的な仕事であることを、若い世代に教えていく	(12.6)
12	その他(	( 3.2)
13	特にない	( 2.0)

<家族構成>	
二世代家族	181 (73.3)
三世代家族	63(25.5)
四世代家族	1(0.4)
その他	2( 0.8)

ご協力ありがとうございました。

今後、本調査の分析や研究を進める上での参考とさせていただきますので、本調査の質 問内容等についてお気付きの点、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。